高知県立図書館

闘病記・看護の記録

2014年9月 現在版

高知県立図書館 「闘病記・看護の記録」について

生きる道のりの上で、人は喜びとともに様々な困難や苦しみにも出会うものであり、「病」もその一つです。
病と向き合ったときにいかに生きようとするか、多くの人が体験記録を残しています。
高知県立図書館では、これらの図書を「闘病記・看護の記録」として病気の種類ごとに分類し、コーナーを設置しています。
病に伏したとき、困難な状況に出会ったとき……苦しみを乗り越え、希望を見出し、やがては平穏な心や喜びにつながるよう、
生き方の手がかりとなる１冊が見つかることを願っています。

このリストの見方について

「闘病記・看護の記録」には、様々な観点の図書があります。本人の闘病記、家族による看護記録、ライターによるドキュメント、医師から見た記録など･･･。高知県立図書館では「誰が」「誰について」「どのような観点で」書いたものなのかを確認した上で、リストを作成しました。自分に合った本を見つける手助けとなれば幸いです。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
495		婦人科学．産科学							
495.4		女性性器の疾患[婦人病]							
子宮頸がん	○	495.43	カワ	2012	グローバルマザー　子宮頸がんと闘う女性たち	河村　裕美／著 （社会福祉士・PRプランナー）	本人	静岡新聞社	子宮頸がんを体験し、静岡県で患者会「NPO法人オレンジティ」を立ち上げた河村裕美。告知から手術、後遺症との闘い、会の立ち上げまでを1冊にまとめた。巻末に「オレンジティとは」を掲載。 （結婚1週間後に生理痛が重いので病院に行ったところ子宮頸がんの腺がんⅠb期と判明。その後の体験を本人が綴る。）
1	2	3				4	5		6

１＝闘病した病気の種類や内容に関するキーワード。病名については本文中の記述からとっています。
２＝闘病記には、残念ながら闘病者が亡くなるものもあります。その場合はこの欄に「×」と記載し、１～３の欄を黄色にしています。
３＝１欄（闘病した病気の種類等）による分類を行っています。
　病名等と分累番号の対応については、別冊の『高知県立図書館「闘病記・看護の記録」分類対応表』をご覧ください。
４＝著者の当時の所属等について、職員が確認できた範囲で（）内に記載しています。
５＝闘病者と著者の関係について、誰がどのような観点で書いた本なのかを確認し、この欄に記載しています（一部例外あり）。
６＝ＴＲＣ ＭＡＲＣの内容データ部分を転載しています。
　（）の枠内は、闘病の経緯など、県立図書館で内容を確認した事項を記載しています。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
490		医学							
490.1		医学哲学							
終末期	×	490.15	イオ	2013	幸せな最期　痛みも苦しみもなく、自宅で大往生するための準備	井尾　和雄／著 （立川在宅クリニック院長）	医師	現代書林	（在宅医療専門のクリニックを開設し、2000人近くを看取ってきた著者が、在宅で緩和ケアを受けて亡くなるということについて綴る。家族の手記等あり。）
終末期	×	490.15	ウエ	2002	踊りながら私はいこう　ホスピスからの伝言	上原　久美子／著 （「鹿児島ホスピスを考える会」会長） 上原　一治／著 （鹿児島県議会議員）	本人・夫	南方新社	「鹿児島ホスピスを考える会」の発起人としてホスピスの重要性を伝え続けた著者。自らもがんを患い、2度の再発を経て、ホスピスで静かな最期を迎えた。ひとつの選択肢であるホスピスのすばらしさを残された手記が語る。（上原久美子さん（がんにより死亡）の残した手記と、書き残せなかった部分を補足する夫の一治さんの文章で構成。）
終末期	×	490.15	ウエ	2013	上野千鶴子が聞く小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？	上野　千鶴子／著 （社会学者） 小笠原　文雄／著 （医師・日本在宅ホスピス協会会長）	社会学者・医師	朝日新聞出版	多くのお年寄りの悲願、家族がいようがいまいが、家で死にたい。上野千鶴子の具体的な67の質問に、在宅でがんの看取り率95%の医師が、「住み慣れた家で満足死ができる」ことを、豊富な実例を交えて語る。（家族がいなくても「在宅ひとり死」がどうしたら可能なのか、どんな条件があればいいのかを、社会学者の上野が、日本在宅ホスピス協会会長の小笠原に質問する1問1等形式。巻末に対談。事例も出てくる。）
終末期	×	490.15	オオ	2007	死学　安らかな終末を、緩和医療のすすめ	大津　秀一／著 （医師）	医師	小学館	若くしてホスピス医となった著者が、苦痛を劇的に取り除く「緩和医療」を患者、家族、医療関係者にもっと知ってほしいと訴える。安らかな終末を迎えるための画期的な医学的道しるべというべき一冊。（死亡事例あり）
終末期	×	490.15	オオ	2009	死ぬときに後悔すること25　1000人の死を見届けた終末期医療の専門家が書いた	大津　秀一／著 （医師）	医師	致知出版社	健康を大切にしなかったこと、故郷に帰らなかったこと、会いたい人に会っておかなかったこと…。著者がこれまで出会った終末期の患者の「後悔」のうち、多かったものを25例紹介。後悔しない人生を歩むためのヒントとなる本。
終末期	×	490.15	オオ	2010	死ぬときに人はどうなる10の質問　あなたは考えたことがありますか？	大津　秀一／著 （医師）	医師	致知出版社	人は弱い存在である。しかし、この生がいつか終わると思えば、その運命は等しく皆に同じなのだと思えば、暗い心にも光が射してくるのではないか。終末期患者の診療に携わる著者が、より良く生きるための10の質問に答える。（実話をもとにしたフィクション）
終末期	×	490.15	オオ	2011	すべて、患者さんが教えてくれた終末期医療のこと	大津　秀一／著 （医師）	医師	河出書房新社	どう病院とつきあい、どう最期を迎えるか。『死ぬときに後悔すること25』の著者が、終末期・死に関する6つの誤解を解く。患者さんが教えてくれた終末期医療の選択と、よりよい最期を迎えるためのヒント。（多数の事例紹介）
終末期	×	490.15	オカ	2011	いのちの仕舞い　四万十のゲリラ医者走る！	小笠原　望／著 （医師・高知県）	医師	春陽堂書店	「ひとのいのちも自然のなかのもの」を診療の中心に、かかりつけ医として幅広い診療とこころのケアを大事にする…。“四万十のゲリラ医者”として地域診療に従事する著者が、いのちの最期を看取る日々を綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
終末期	×	490.15	オサ	2006	13歳からの「いのちの授業」 ホスピス医が教える、どんな時でも「生きる支え」を見つけるヒント	小沢　竹俊／著 （横浜蘇生病院ホスピス病棟長）	医師	大和出版	命が限られる、それは大変な苦しみ。しかし、苦しくても、自分や他人を傷つけないで生きることができるのです…。ホスピスという医療現場から、ひとりひとりが苦しみの中でも生きていく力を見出す可能性を紹介。
終末期	×	490.15	オシ	2012	こころを看取る　訪問看護師が出会った1000人の最期	押川　真喜子／著 （聖路加国際病院訪問看護ステーション所長）	訪問看護師	文藝春秋	（1000人以上の患者さんの死を看取ってきた訪問看護師が、自身の経験を通して、「在宅死」、患者さん一人ひとりの価値観や死生観、家族の寄り添い方などについて綴る。訪問看護師の仕事や、在宅医療を始めるノウハウなどについても記述。）
終末期	×	490.15	カシ	2008	いのちに寄り添う。 ホスピス・緩和ケアの実際	柏木　哲夫／著 （金城学院大学学長 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長）	医師	ベストセラーズ	自分らしい最期を迎えたい！　日本人の3人に1人が「がん」で死ぬ時代に、2500人を看取った名医が終末医療のあり方を説く。旅立つ人と見送る人へのメッセージ。
ホスピス・ダウン症	○	490.15	クレ	2001	スマッジがいるから	ナン・グレゴリー／作 （ストーリーテラー） ロン・ライトバーン／絵 岩元　綾／訳 （日本ダウン症ネットワーク理事）	ホスピスが舞台の絵本	あかね書房	シンディは子犬を拾いましたが、彼女のいるホームでは飼えません。彼女は働いているホスピスに連れて行きました…。拾われた子犬スマッジが人のこころを癒す、感動の絵本！ （ダウン症で「ホーム」で暮らし、「ホスピス」で働いている主人公の女性が子犬を拾うエピソードから成る絵本。主人公がダウン症であることは解説のみに書かれている。）
終末期	×	490.15	サキ	2011	癒しのシンフォニー　ある在宅ホスピスの記録	崎谷　満／著 （CCC研究所所長）	医師	勉誠出版	治療から見放された末期癌患者とその家族へ、一筋の希望と温かい愛情を毎日届ける、心優しい訪問看護の天使達。絶望の淵にある人々への心のケアの物語をまとめる。 （在宅緩和ケアを選んだ末期がん患者と訪問看護ステーションの看護師との間の4つのエピソードを、往診する緩和ケア医の目線から書いたもの。）
終末期	×	490.15	ササ	2012	おもかげ復元師	笹原　留似子／著 （復元納棺師）	復元納棺師	ポプラ社	（遺された人が死を受入れられるよう「復元」にこだわり続ける納棺師の女性が、納棺時のエピソードを通じて死について綴ったもの。第6章「あの日。3.11」、第7章「復元ボランティア」、第8章「支えられて」は、東日本大震災で300人以上をボランティア復元した体験記。）
終末期	×	490.15	シン	2012	人生の終わりをしなやかに　連続授業	清水　哲郎／編 （東京大学大学院人文社会系研究科　死生学・応用倫理） 浅見　昇吾／編 （上智大学グリーフケア研究所） アルフォンス・デーケン／編 （上智大学名誉教授・生と死を考える会全国協議会）	公開講座	三省堂	（医療現場の人、患者さんやその周囲の人の最期の日々をサポートする働きをしている人、医療倫理や死生学の研究者など7人が、それぞれの立場から語った全7講義。上智大学での公開講座の論考からまとめたもの。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
終末期	×	490.15	スス	2011	**ひとはなぜ、人の死を看とるのか**	鈴木　荘一／著 （医師・日本にホスピスを紹介） 佐々木久夫／聞き手 （「人間と歴史社」代表）	医師	人間と歴史社	日本のホスピスの源流、死にゆく患者の心理、死を看とる医療の実際…。日本のホスピスケア、在宅ケアの第一人者が、半世紀の臨床医としての生活の中から得たホスピスの精神についてインタビュー形式で語る。 （1977年4月に英国・聖クリストファー・ホスピスを日本人医師として初めて訪問見学、わが国にホスピスを紹介した医師がインタビューに答える。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
終末期	×	490.15	タイ	2010	**大切な人をどう看取るのか　終末期医療とグリーフケア**	信濃毎日新聞社文化部／編	新聞社	岩波書店	延命の選択、緩和ケア、在宅での看取り、死別の悲しみとの向き合い方…。患者や家族、医療・介護関係者らそれぞれの立場から見つめなおす。『信濃毎日新聞』連載「いのちを紡ぐ」に用語解説や読者からの手紙を付加し単行本化。 （連載は2007年10月～2009年9月。取材した内容のほか、解説や読者からの手紙も掲載。）
終末期	×	490.15	タム	2010	**余命１８日をどう生きるか**	田村　恵子／著 （がん看護専門看護師）	看護師	朝日新聞出版	「がんって、そんなに悪くない」 平均入院日数が１８日のホスピス病棟で、多くの患者を看取ってきた大阪・淀川キリスト教病院のがん看護専門看護師が綴る、今を生き抜き、死に備えるための３０話。 （淀川キリスト教病院のホスピス病棟でがん看護専門看護師として働く著者が、「詩に向き合う体験」を30の視点から描く。仮名での事例を含む。）
終末期	×	490.15	トク	2006	**野の花の入院案内**	徳永　進／著 （医師）	医師	講談社	鳥取に、ホスピスケアのある１９床の有床診療所「野の花診療所」を開設して5年。自由な、その人がもっている死のかたちを、何とか実践しようとする診療所の姿を臨床医第一人者の声で語る。 （闘病事例多数、死亡事例もあり）
終末期	×	490.15	トク	2009	**野の花ホスピスだより**	徳永　進／著 （医師）	医師	新潮社	死が遠くではない患者さんの希望と選択を支えたいー。そんな思いで開設した野の花診療所。旅立つ人、見送る人の、言葉と涙と笑顔を綴る。 （亡くなる瞬間の記録も含む。）
終末期 （ホスピス）	×	490.15	トク	2013	**わたしだって看取れる**	徳永　進／著 （ホスピス医）	医師	ベストセラーズ	忘れられない看取り、遺族や本人の後悔、死別のあと…。ノウハウに落とし込めない看取りの心を、小さなホスピスの医師が８３のエピソードで語り尽くす。 （看取りのエピソード複数あり）
終末期	×	490.15	ナカ	2011	**さよなら、またね**	中島　未月／文 （製薬会社を経てメディカルコピーライターに。詩人。） TOMOYAARTS／絵	死についての絵本	PHP研究所	人は死んだらどうなるの？　どこに行くの？　竜の子と少年のふれあいを描きながら、「死」そして「生きること」について考えた絵本。心に深くしみこむいのちの物語。 （入院中の男の子が主人公。退院した友達にさよならを言わなかったが、その子が退院後に死んでしまう。）
終末期	×	490.15	ハシ	2009	**エンバーマー　心とご遺体を修復するために僕がしてきたこと**	橋爪　謙一郎／著 （有限会社ジーエスアイ）	遺体修復士	祥伝社	（グリーフサポートとエンバーミング普及のため企業した著者が、「エンバーマー」の仕事を選び、修行し、日本で活動してきた経験を綴る。）
終末期	×	490.15	ヒラ	2009	**看取りの医者　終末期医療の訪問医が見届けた自宅で死ぬということ**	平野　国美／著 （医師）	医師	小学館	著者が体験したさまざまな訪問診療と在宅死のドラマを通じて、自宅で死ぬとはどういうことか、あるいは家族を病院で看取るか自宅で看取るかということについて、「看取りの医者」の立場から実情を紹介する。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
終末期	○	490.15	ホサ	2013	「ありがとう」と言われて逝くためにやっておきたい50のこと	保坂　隆／著 （聖路加国際病院精神腫瘍科医長）	医師	かんき出版	終末医療の現場で、多くの最期を見てきた医師だから語れる、最高の老い方。人生を美しく締めくくるためにやっておきたいこと、暮らし方や生き方のヒントなどを、先人たちの言葉とともに紹介します。エンディングノート付き。 （人生論的なもので、特に看取りのエピソード等はない）
終末期	×	490.15	ホス	2006	ホスピス　その理念と運動	シシリー・ソンダース／著 （セント・クリストファー・ホスピスの創設者であり、近代ホスピスの母と呼ばれる）	ホスピス創設者	雲母書房	医学思想史の中で、ソンダースの果たした功績はどう位置づけられるのか？　ホスピスが全世界へ広まる契機となった、1980年第1回ホスピス国際会議の論文集にして、「ホスピス＝看護」思想の精髄の一冊。 （死亡事例あり）
終末期	×	490.15	ホリ	2012	おだやかで幸せな死を迎えるための23の方法　たくさんの「最期の瞬間」により添ってわかった	堀　エリカ／著 （医療コーディネータージャパン代表）	医療コーディネーター	新人物往来社	（看護師・救急救命士を経て、現在は医療の専門家として患者や家族の悩みに耳を傾け、意思決定のサポートを行なう「医療コーディネーター」として活動している著者が、死を迎えることについて、多数の事例を引きながら述べる。）
終末期	×	490.15	マツ	2013	「在宅死」の心がまえ　幸せな最期を迎えるために	松永　安優美／著 （内科医・医療法人聖生会理事長）	医師	ポプラ社	病院で死ねない時代、家庭内での「看取り」を再生させましょう。著者が内科医として関わってきた2000例以上の介護や看取りの実態から、これからの「在宅死」の在り方を提案します。
終末期	×	490.15	マン	2013	穏やかな死に医療はいらない	万田　緑平／著 （医師）	医師	朝日新聞出版	点滴、酸素吸入、胃ろう、抗がん剤…。無駄な延命治療をやめることで、人は眠るように穏やかに、人間らしく死ぬことができる。外科医を辞めた在宅緩和ケア医が、終末期と死の現場について伝えながら、幸せな死に方を提案する。 （患者の死の場面あり）
終末期	×	490.15	ムラ	2012	自分の家で死にたい　死に逝く人、看取る人の幸せな終末期の考え方	村松　静子／著 （在宅看護研究センターLLP代表）	訪問看護師	海竜社	豊かな心をもちつつ、いかに生き、いかに死ぬか。44年にわたって3000人を看取ってきた在宅看護師による、「家で死にたい」という日本人の80%がもつ思いを実現するための具体的な提言。 （訪問看護の経験談）
終末期	×	490.15	モシ	2008	もしも「余命6カ月」といわれたら？　今からあなたにできる53のこと	ホスピスケア研究会／監修	相談機関	河出書房新社	家族や大切な人のこと、仕事のこと、お金や財産のこと、そして自分がいなくなった後のこと…。限られた時間を大切に生きるために、がん患者とその家族のさまざまな場面で生じる問題点と、実際的なアドバイスを紹介。 （がん患者とその家族からの電話相談を受けている「ホスピスケア研究会」によるアドバイス等。）
終末期	×	490.15	ヤマ	2006	新ホスピス宣言　スピリチュアルケアをめぐって	山崎　章郎／著 （日本ホスピス・緩和ケア協会会長） 米沢　慧／著 （NPO法人コミュニティケアリンク東京理事長、日本死の臨床研究会事務局長／評論家）		雲母書房	病棟化するホスピスはどこへ向かおうとしているのか。ホスピス運動、コミュニティケア、ボランティアの可能性…。切り拓かれるべき未来のために、対話をとおしてホスピスケアの普遍性を提言する。
終末期	×	490.15	ヤマ	2012	病院で死ぬのはもったいない〈いのち〉を受けとめる新しい町へ	山崎　章郎／著 （医師） 二ノ坂　保喜／著 （医師） 米沢　慧／編 （批評家）	医師・批評家	春秋社	いま、ホスピスは町の中へ－。ホスピスの先駆者による「在宅ホスピス宣言」。病・老い・障害・子育てによる孤立を防ぎ、ホスピスケアを地域の困っている人へ広げてゆくコミュニティの未来を伝える。 （外科医からホスピス医に転身した二人の医師と、批評家が、長年の実践を踏まえて地域での在宅ホスピスについて語る。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
終末期	×	490.15	ヤマ	2012	**家で死ぬということ**	山崎　章郎／著 （医師）	医師	海竜社	「病院で死ぬということ」から22年。在宅ホスピス医の現場に身を投じた著者が問いかける、生きるということ、病むということ、死ぬということ。ケアタウン小平チームの活動状況を報告した『朝日新聞』連載などをまとめる。 （在宅ホスピス医になって8年目の著者が経験と思いを語る。）
終末期	×	490.15	ヨシ	2007	**がんの在宅ホスピスケアガイド ただいまおかえりなさい**	吉田　利康／著 （建築施工管理技師）	夫	日本評論社	「もう治療法はありません」と告げられたら、住み慣れた家に帰りませんか？「生きる」を手伝うプログラム、ホスピスは場所を選ばず、家でもできます。「在宅ホスピスケア」を実際に行った人たちのノウハウを紹介します。 （1999年　妻　死去）
終末期	×	490.15	ヨシ	2011	**私の遺品お願いします。 遺品整理屋の事前相談**	吉田　太一／著 （遺品整理専門会社「キーパーズ」社長）	遺品整理業	幻冬舎	なぜ、人は死後の準備をするのか？　日本初の遺品整理専門会社「キーパーズ」社長が受けた100件近い「事前見積もり」の相談を通して、今を生きる私達が抱える切実な問題を考える。 （著者は9年前に遺品整理サービスを始めたが、想定外の「自身の死後の遺品整理依頼」が大変多く、これまで100名ほどの自宅に訪問。その悩みの内容や相談のきっかけ等、様々な実際の事例を多数掲載。余命宣告を受けた病院の公衆電話からの依頼（本人は数ヶ月後に死亡）などの事例もあり。）
終末期	×	490.15	ヨネ	2013	**親の死なせかた 医者が父母の最期を看取って考えたこと**	米山　公啓／著 （医師）	両親	PHP研究所	不治の病、末期ガン、寝たきり、認知症…。とりあえず延命治療でいいのか？　親の死に向き合うための心得を、医者である著者の自らの経験と最新の医療情報から伝える。子としてできる、最後の親孝行を問う一冊。
脳死・臓器移植	×	490.154	アサ	2012	**いのちに寄り添って　臓器移植の現場から**	朝居　朋子／著 （社団法人日本臓器移植ネットワーク中日本支部主席コーディネーター）	臓器移植コーディネータ	毎日新聞社	最期のとき、家族は何を想い決断するのか？　臓器移植の現場を見つめ、支えつづける著者が、“絶望”の中で生まれる、新しい“希望の物語”を綴る。臓器移植のこれからについても取り上げる。 （脳死や心臓停止状態になってからその家族が臓器提供を決断する現場を、臓器移植コーディネータである筆者が描く。）
長期脳死	×	490.154	ナカ	2009	**長期脳死　娘、有里と生きた一年九カ月**	中村　暁美／著 （一般人）	母	岩波書店	あのとき、娘は確かに生きていました…。脳死状態と診断された後、1か月以上、心停止に至らないことを「長期脳死」という。そんな「脳死」を生きる子どものひとりであった娘との日々を、鎮魂の思いをこめて綴る。 （2歳8カ月の時の発熱から突然に脳死状態となり、4歳5カ月で亡くなる。他の長期脳死の子どもの親の手記もあり。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
490.4		病気全般（複数の病気を扱っていて、特に中心となる病気がないもの）							
上咽頭がん（本人）/統合失調症・記憶障害（妻）/LDおよび重度のｱﾄﾋﾟｰ（息子）	○	490.4	アイ	2012	余命半年から生きてます！　面白いほど不運な男の笑う闘病記	相河　ラズ／著（一般人）	本人として／父として／夫として	幻冬舎	上咽頭がんで余命半年なのに、妻は記憶喪失、息子は学習障がい。仕事を辞めて専業主夫になったついでに、治療もやめちゃいました！　家族のために奮闘する人気ブロガーが綴る闘病記。（上喉頭がん（リンパ節転移）と診断され、2010年に扁平上皮がんで余命半年宣告を受けた本人の闘病、重度のｱﾄﾋﾟｰと学習障害（LD）の傾向がありいじめにあっている息子の子育て、2010年に路上で倒れて記憶喪失・意識変容（別の生活史の記憶を持つようになる）となり統合失調症と診断された妻の介護の記録。）
病気全般	×	490.4	ｱｵ	2013	みんなの死に方	青木　由美子／著（書籍編集者）	編者	河出書房新社	すばらしい死にかたとは、いかなるものなのか。しずかな死、１人で逝く死、やすらかな死。先に逝った人たちが、教えてくれること、くれないこと…。死を迎える心の準備をするために、著名人の死にかたを紹介する。
心停止後遺症による重複障害（四肢麻痺、発語不能、嚥下障害、視覚障害など）	○	490.4	テン	2012	声に出せないあ・か・さ・た・な世界にたった一つのコミュニケーション	天畠　大輔／著（大学院生）	本人	生活書院	１４歳で重複障がいを抱える障がい者となり、外界とのコミュニケーションを閉ざされた著者が獲得した手段とは？　絶望の淵にたった１４歳のあの日から、大学院生として学びの日々を過ごす今の姿までを綴る。（1996年、14歳のときに若年性急性糖尿病により救急搬送されるが、病院での処置ミスにより心停止。約3週間の昏睡状態後、後遺症として四肢麻痺、発語不能、嚥下障害、視覚障害など重複障害を抱える。どのようにコミュニケーションをとっているか、日々の生活方法、障害者となってから大学院生として過ごす現在までの自叙伝。）
病気全般	○	490.4	マカ	2011	なんだかんだの病気自慢	マガジンハウス／著	本人ら	マガジンハウス	安藤優子、石田衣良、小椋佳、柴田理恵、高畑淳子、横尾忠則…。病気に悩み、受け止め、ついにはプラスのパワーに変換した７２人の痛快な「病気自慢」。『クロワッサン』連載を単行本化。（作家をはじめとする72人が、自分の病気とその受容までの様子を3ページ程度で記したエッセイ集。）
病気全般	○	490.4	マキ	2014	難病カルテ	蒔田　備憲／著	本人ら	生活書院	パーキンソン病、ALS、潰瘍性大腸炎…。難病の「いま」が、ここにある！治らない病気を抱えて生きる患者のありのままの日常を描く。『毎日新聞』佐賀県版連載に、大幅な加筆・修正を加えて書籍化。
バセドウ病・膠原病（関節リウマチ）	○	490.4	マツ	2011	バセドウでも、リウマチでも、しあわせに暮らしてます	松浦　由恵／著（一般人）	本人	文芸社	（13歳の時にバセドウ病を、26歳の時に膠原病（慢性関節リウマチ）を発病をする。さらに29歳の時、妊娠中に僧帽弁逸脱症と診断される。闘病生活の一方、いじめ、流産、離婚と再婚、実家の破産など数々の困難に直面するが、2児の母となり、幸せな生活を築く）
病気全般	○	490.4	ヤナ	2012	93歳・現役漫画家。病気だらけをいっそ楽しむ50の長寿法	やなせ　たかし／著（高知県・『アンパンマン』作者・日本漫画家協会長ほか）	本人	小学館	朝昼40回の腕立て伏せ、特製野菜スープ、快調快腸ビフィズス菌…。病気だらけなのに93歳で寝たきりにならず、毎日いきいき過ごしているやなせたかしの生き方、食事やサプリなどを、写真入りで具体的に紹介します。（「病気だらけの“十病人”mapに、67歳：腎臓結石、72歳：白内障、79歳・92歳：心臓病、81歳：膵臓炎・ヘルニア、82歳：緑内障、83歳：糖尿病、83歳・92歳：腸閉塞、85歳：腎臓がん、86歳：膀胱がん　とある。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
491		基礎医学							
491.69		遺伝病							
異染性白質ジストロフィー	×	491.64	シユ	2013	濡れた砂の上の小さな足跡	アンヌ＝ドフィーヌ・ジュリアン／著 （元ジャーナリスト） 平野　暁人／訳	母	講談社	「余命は2～5年」 不治の病に冒された2歳の愛娘に下された非情な宣告。そして、生まれてきた次女にも同じ遺伝性疾患が…。フランスの女性ジャーナリストが自らの体験を綴ったノンフィクション。 （巻末、長女タイスは3歳で死去）
遠位型ミオパチー：縁取り空胞型（DMRV）	○	491.69	オタ	2011	心さえ負けなければ、大丈夫	織田　友理子／著 （PADM遠位型ミオパチー患者会代表代行）	本人	鳳書院	運が悪くて病気になったのではない。私が病気を選んで生まれてきたのだー。進行性の希少難病「遠位型ミオパチー」と宣告された著者が、発病から結婚・出産、患者会の立ち上げ、そして治療薬開発への道を拓くまでを綴る。 （22歳のときに「縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチー」と診断される。）
遠位型ミオパチーほか	○	491.69	コイ	2011	あきちゃんと富士山に登りたい 希少難病患者と子どもたちのチャレンジ	小泉　二郎／著 （NPO法人希少難病患者支援事務局代表理事）	支援団体主催者	旬報社	「遠位型ミオパチー」という、少しずつ筋肉が消えていく難病を抱えながらも、子どもたちとともに富士山への登頂を達成した女性のチャレンジを紹介する。介助を必要とする人への意思表示となる、UPステッカー付き。 （当時子どもを集めて勉強以外の活動を中心とする塾を行っていた男性が、遠位型ミオパチーの患者会代表の女性に出会い、子どもたちと希少難病支援団体を立ち上げ、活動してきた記録。）
マルファン症候群	×	491.69	タナ	2011	人間賛歌　明日へ旅立とう	田中　政地／著 （一般人）	本人	文芸社	弱い体だが、強い心がある。強い心が生んだ詩と、家族や自己を見つめたエッセイを掲載。難病「マルファン症候群」と闘いながら、17歳の生涯を全力で生き抜いた著者が贈る、熱いメッセージ。 （本人が生前に書いた詩、12歳から書き続けてきた文章、イラストなどを母がまとめたもの。本人は17歳で死亡。）
遠位型ミオパチー：縁取り空胞型（DMRV）	○	491.69	ナカ	2011	死なないでいること、生きるということ　希少難病遠位型ミオパチーとともに	中岡　亜希／著 （一般人）	本人	学研パブリッシング	筋肉が消えていく希少難病をかかえながらも、すべてのときを笑顔で生きる元客室乗務員からのメッセージ。車椅子での富士山登頂など、命を輝かせながら生きる姿を写真とともに綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493		内科学							
493.1		全身病							
493.11		特定難病							
特定難病の併発：全身性エリテマトーデス（SLE）・特発性血小板減少性紫斑病（ITP）	○	493.11	アケ	2010	難病あげは　800万人に1人の病を生きる力に変えて	あげは　美樹／著（アーティスト・フリープロデュース業）	本人	アスペクト	免疫が自分自身を殺していく「全身性エリテマトーデス」と体中に紫斑が出来る「突発性血小板減少性紫斑病」。限りなく死の隣で生きなければならない2つの難病を“神様からの贈り物”と言い切る一人のプロデューサーの物語。
家族性アミロイドーシス	×	493.11	オオ	2014	献身　遺伝病FAP（家族性アミロイドポリニューロパシー）患者と志多田正子たちのたたかい	大久保　真紀／著（朝日新聞編集委員）	記者	高文研	2分の1の確率で親から子へ遺伝する神経難病FAP（家族性アミロイドポリニューロパシー）。根治療法がない悲惨な闘病生活の中、死と向き合う患者と、彼らが生を全うするために全身全霊を捧げた女性の壮絶なたたかいの記録。
アミロイドーシス	○	493.11	コハ	2012	誰も教えてくれない病人の生き方	小林　昭洋／著（一般人）	本人	サンマーク出版	（神経系の難病「Amyloidosis」による多臓器不全、起立性低血圧、多発性神経炎症、解離性知覚障害に苦しみ、三千万円の借金をして1年の待機期間を経て海外で実現した脳死肝臓移植によって病状の進行が止まった著者による。闘病生活における課題を、時系列によって「初級闘病家」「中級闘病家」「上級闘病家」「プロ級闘病家」の課題として分類し、病気と向き合い、前向きな気持ちで生活するテクニックを述べる。）
成人スティル病	○	493.11	サト	2013	なんびょうにっき	さとう　みゆき／著（イラストレーター）	本人	大洋図書	アラフォーおひとり様を突如襲った謎の病気「成人スティル病」。原因不明40℃超えの高熱、サーモンピンクのブキミな皮疹、そしてついには寝たきりに。彼女はいかに病と対峙し、乗り越えたのかー。絶体絶命、闘病コミック。
ミトコンドリア病	×	493.11	シミ	2012	いつも、そこにいる　ショウちゃんの闘病と、家族・仲間の絆	清水　久美子／著（フリーライター）	ライター	カンゼン	（『君のためならがんばれる』（兄である諒平君が、悪性脳腫瘍を発症して18歳で亡くなった物語）のライターが、今度は弟の証平君（ミトコンドリア脳筋症で闘病）のことを描く。証平君は兄の死の後、17歳で死去。その他、同室の子どもの死去など、死亡の描写多数あり。）
ミトコンドリア病	○	493.11	ホリ	2006	娘よ、ゆっくり大きくなりなさい　ミトコンドリア病の子と生きる	堀切　和雅／著（エッセイスト）	父	集英社	現在の医学で治癒不可能とされるミトコンドリア病を抱えて生まれてきた娘。大人になるまで生きることはないと言われながら、家族は厳粛に軽やかに、病気と向き合っていく…。『東京新聞』ほか連載に加筆して単行本化。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.12		代謝異常							
先天性白皮症（アルビノ）	×	493.12	カワ	2013	アルビノを生きる	川名　紀美／著 （ジャーナリスト）	ジャーナリスト	河出書房新社	白い髪に白い肌、弱視で紫外線に弱い「アルビノ」。長期取材で彼らに寄り添ってきた著者が、学校、地域社会、そして親族からも差別を受け続けてきた人々の葛藤の道のりを描く。 （自分と同じくアルビノでヘルマンスキー・パラドックス症候群であった姉が間質性肺炎肺線維症で亡くなる事例や、アルビノ殺人のレポートも含む）
ムコ多糖症	○	493.12	ユア	2007	新薬、ください！　ドラッグラグと命の狭間で	湯浅　次郎／著 （番組ディレクター）	番組ディレクター	新潮社	欧米で使用されている治療薬が日本で認可を得るまでの時間、およそ4年。その間に難病の子供たちが亡くなっていくー。どうしてそこに時間差（ドラッグラグ）が生じるのか。薬事行政の不作為を告発する医療ノンフィクション。 （ムコ多糖症の子供たちについてのノンフィクション、死亡事例あり。）
糖尿病	○	493.123	エヒ	2013	糖尿病のダンナが楽しく食べて○×になりました。 自己流食事法で26キロ減！	エビ沢　キヨミ／著 （イラストレーター・漫画家）	妻	泉書房	暴飲暴食は当たり前の食生活を送っていたダンナが糖尿病に！　生活態度を180度覆し、「糖尿ダイエットマン」として生活することになったダンナとの、笑いと涙のハッピーライフをマンガで綴る。糖尿病に効くレシピも掲載。 （2型糖尿病と診断されてからの夫の3年間を描く。）
糖尿病	○	493.123	キリ	2012	おやじダイエット部の奇跡 「糖質制限」で平均22kg減を叩き出した中年男たちの物語	桐山　秀樹／著 （ノンフィクション作家）	ノンフィクション作家	マガジンハウス	糖質制限ダイエットとその実践を通じて知り合った仲間たちと、健康について語り合い、切磋琢磨する「おやじダイエット部」。彼らがスリムな体型へと変身していくまでを描く。巻末に、食品別糖質一覧表も収録。 （糖尿病の男性などが糖質制限ダイエットを成功させていく様子を描くノンフィクション。全7話。）
糖尿病	○	493.123	ミス	2011	糖尿病と私（わたし）	水野　肇／著 （医事評論家）	本人	中央公論新社	糖尿病は治らない。だが、この厄介な病気を治療する側の医師のほうの体制や取り組み方は、はたして十分なのか？　幼少時からの病歴を辿り、30年以上にわたる糖尿病との格闘を綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.14		アレルギー性疾患．膠原病．体質異常							
筋膜炎脂肪織炎症候群・皮膚筋炎	○	493.14	オオ	2011	困ってるひと	大野　更紗／著 （大学院生）	本人	ポプラ社	ビルマ難民を研究していた大学院生女子が、ある日、原因不明の難病を発症した。知性とユーモアがほとばしる、命がけのエンタメ闘病記。ウェブマガジン『ポプラビーチ』連載を加筆修正して書籍化。
筋膜炎脂肪織炎症候群・皮膚筋炎	○	493.14	オオ	2013	さらさらさん	大野　更紗／著 （作家、『困ってるひと』でデビュー）	本人	ポプラ社	自己免疫疾患系の難病を発症し、その体験を綴った「困ってるひと」でデビューした大野更紗。難病と向き合いながら挑んだエッセイと、糸井重里、古市憲寿、重松清、石井光太らとの対談を収録する。
筋膜炎脂肪織炎症候群・皮膚筋炎	○	493.14	オオ	2014	シャバはつらいよ	大野　更紗／著 （作家）	本人	ポプラ社	「生存崖っぷち」の難病女子が、病院から飛び出した。家族や友達を頼らずに、どうやって生きる？　知性とユーモアがほとばしる、命がけのエンタメ闘病記第2弾。ウェブマガジン『ポプラビーチ』連載を加筆修正して書籍化。
膠原病	○	493.14	カス	2001	笑いと治癒力	ノーマン・カズンズ／〔著〕 （ジャーナリスト） 松田　銑／訳	本人	岩波書店	（カズンズは1964年ソ連への旅から帰米した直後、突然に難病の膠原病におそわれ、専門医から回復の可能性は500分の1と宣告されるほどの重態におちいった。しかし人間の生命力、精神力の強さを信ずるカズンズは、主治医ウイリアム・M・ヒッツィグ博士の理解ある協力を得て、現代医学の常識からすれば破天荒な積極的療法を試み、みごと死の淵から生還。この闘病体験をもとに、人間の自然治癒力の可能性を取材し、笑いとユーモア、生への意欲が奇蹟をおこすことを例証。）
膠原病	○	493.14	シヨ	2014	未闘病記　膠原病、「混合性結合組織病」の	笙野　頼子／著	本人	講談社	劇薬の副作用、周囲からの誤解、深まる孤立感。だが長年苦しんできたこの「持病」ゆえの生き難さは創作の源だった…。膠原病の一種、混合性結合組織病と診断された作家が、半生を綴る。『群像』掲載を単行本化。
膠原病	○	493.14	タナ	2013	患者と治療者の間で “意味のある作業”の喪失を体験して	田中　順子／著 （作業療法士）	本人	三輪書店	あるとき、私は患者になった。突然人生に降りかかってきた病。それに伴う障害…。作業療法士の著者が、膠原病の発病から10余年を経て、やっと語ることができるようになった病の体験を、自己物語という形式で綴る。 （音楽療法を実践する作業療法士。当初はしぇ―グレン症候群の腺外症状として多発性関節炎が出現、数年後に関節リウマチを併発、激しい疼痛を伴う炎症期を何年にもわたり繰り返し、ピアノ演奏をあきらめざるを得なくなった。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.15		中毒症							
水俣病	×	493.152	フシ	2013	のさり　水俣漁師、杉本家の記憶より	藤崎　童士／著 （ノンフィクション作家）	ノンフィクション作家	新日本出版社	戦前から網元を営む杉本家を水俣病が襲う。いじめられ孤立する長い日々。チッソを訴える裁判を決意するも、糧を奪われた一家は困窮。どん底でつかんだのが「のさり」という境地だったー。海とともに生きる水俣漁師三代の記録。
周期性嘔吐症候群	○	493.159	ノシ	2012	弾けるメロディー	野島　加奈子／著 （一般人）	本人	文芸社	（幼稚園のころに「自家中毒（現：周期性嘔吐症候群）」となった本人の、大学を卒業した現在までの思い出語り。）
493.17		血液疾患							
急性リンパ性白血病	○	493.173	オオ	2013	耐えて、咲く	大塚　範一／著 （元「めざましテレビ」キャスター）	本人	講談社	突然の白血病宣告、そして闘病生活を支えるのは「すべてを受け入れて耐える」という生き方…。元「めざましテレビ」キャスター・大塚範一が、入院の日々と番組への想いを綴る。
急性骨髄白血病	○	493.173	カノ	2012	無菌病棟より愛をこめて	加納　朋子／著 （作家）	本人	文藝春秋	5年生存率は3分の1。急性白血病の宣告を受け、仕事も家族の世話も放棄しての緊急入院。抗癌剤治療、転院、そして骨髄移植へ。たくさんの愛と勇気、あたたかな涙と笑いに満ちた壮絶な闘病記。
白血病	×	493.173	ハタ	2002	椿の咲く日まで　骨髄バンクと土佐清水の仲間たち	秦野　純一／著 （東京理科大学理学部の教養科目担当教員）	ノンフィクション形式	日本評論社	（白血病患者の様々なエピソードを交えながら、骨髄移植や骨髄バンクについても知ってもらえるよう書かれている。死亡事例あり。）
急性骨髄性白血病	×	493.173	マル	2013	忘れない。急性骨髄性白血病と闘った看護師の記録	丸山　博史／著	妻	文芸社	36歳の若さで急性骨髄性白血病に侵された看護師。骨髄移植が絶望的な100万人に1人の骨髄型をもつ彼女を支え、発症後に結婚を決意した男性の、真実の手記。夫婦・家族の“絆”の真の意味を問う感動作。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.18		成人病．成人医学							
高齢者介護（軽度の認知障害あり）	○	493.185	イノ	2013	介護はしないぞ　私と母の1000日戦争	井上　雅義／著（ライター）	息子	小学館	元気で病気ひとつしたことのない母親に認知症の兆しが現れた。介護の覚悟をするが、親は拒否して反発。さあどうする？　「老人介護」という怪物と戦った母と息子夫婦の、七転八倒の介護ノンフィクション。
高齢者介護（認知症ほか）	×	493.185	オチ	2008	母に歌う子守唄　その後　わたしの介護日誌	落合　恵子／著（作家）	娘	朝日新聞社	花いっぱいにして、母を見送った。7年の介護は、慟哭と憤りと、そして、不思議に穏やかな充実の日々だった…。介護するひと、されるひと、医療にかかわるひとへおくる、介護日誌第2弾。『東京新聞』連載等を改稿し単行本化。（看取りと葬儀の場面まで。）
高齢者介護	×	493.185	ココ	2013	心が楽になる介護のヒント	読売新聞生活部／編	著名人52名	中央公論新社	母、父、両親、夫、妻…。家族の介護を前に悩み、苦しみ、揺れ動きながらも真摯に向き合った著名人52人が、自らの介護体験を語る。『読売新聞』連載「ケアノート」をもとに単行本化。（脳梗塞、がん、認知症、ALSなど病状は様々、亡くなった事例と介護中の事例が混在）
493.2		循環器疾患							
僧帽弁閉鎖不全	×	493.23	イト	2013	ぼくどうして涙がでるの	伊藤　文学／著	兄	スペースシャワーネットワーク	2歳で亡くなった妹の紀子、5歳で短い生命を終えた和ちゃん。病気と戦い、精一杯生きようとした人たち…。心臓病の子どもたちとの交流を綴った、ノンフィクション。妹・紀子が手術の前日まで書き続けていた日記も収録。
心臓病	○	493.23	カス	2004	笑いと治癒力　生への意欲　続	ノーマン・カズンズ／〔著〕（ジャーナリスト）松田　銑／訳	本人	岩波書店	（『笑いと治癒力』（6-45に掲載）の著者による、心臓発作とリハビリの体験と回復の記録。著者の、人間の回復能力への信念、現代医療や現代文明社会への批判、人生観や世界観を含む幅広い内容。なお著者は最初のきわめて重度の心筋梗塞から回復後、10年後に心臓発作が原因で76歳で死去した。文庫版。）
心房細動	○	493.23	セン	2009	千住家の命の物語	千住　文子／著（作家）	本人	新潮社	千住家の母が、心臓の病に倒れた。博、明、真理子の3人が再び結束し、困難な高齢者の手術に立ち向かう！　心臓の病を克服し、新たな生を得て立ち上がる家族の姿を描く感動のドキュメント。
心筋炎	×	493.23	タカ	2011	沙彩は今も輝いて　小児科病棟の片隅に残された命のメッセージ	高岡　由子／著（一般人）	母	文芸社	（当時5歳6ヶ月の娘が医療過誤により心筋炎で急死したことについての母親による記録。夫婦の結婚、子どもの誕生、娘の突然の死、葬儀やその後が書かれている。巻末に裁判を支援した医療ジャーナリストや医師、弁護士、心筋炎で子を亡くした方の手記、関係資料などを収録。）
先天性心疾患（総動脈幹遺残）	×	493.23	ハヤ	2013	あ～ちゃんの虹	林　ともこ／著（一般人）	母	文芸社	（先天性心疾患の娘の誕生から、生後2236日での死、死後の日々の母による記録。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
心筋梗塞（脳血流障害）	○	493.23	モリ	2003	**ごめんな、おやじ 介護を通して見えたもの**	森　祥孝／著（会社員）	息子	文芸社	（息子が父の介護の日々を綴ったもの。父は心筋梗塞から脳血流障害のため自宅での介護が必要となった。）
ﾕｰｲﾝｸﾞ肉腫	×	493.29	オオ	2012	**わたしはがんばった　ユーイング肉腫を生きた娘の５年間**	大塚　俊明／著（一般人）	父	パレード	最愛の娘に容赦なく襲ってきた不治の病。小児がんの中でも治癒が難しいとされる「ユーイング肉腫」により娘を亡くした父親が、５年間の闘病と看護の日々を綴る。（5年間の闘病を経て21歳で亡くなった娘の闘病の、父親による記録）
悪性リンパ腫	○	493.29	ソヤ	2011	**無差別料理研究家soyamaxの闘病記　悪性リンパ腫１９歳の骨髄移植**	曾山　尚幸／著（料理研究家）	本人	文芸社	（１９歳の時にステージⅣの悪性リンパ腫と診断され、入院して抗がん剤による治療を開始。骨髄バンクより骨髄移植を受け、入院からおよそ2年を経て社会復帰を果たす。入院中の闘病生活と、退院後の生活を綴る）
多発性骨髄腫	×	493.29	ミワ	2007	**多発性骨髄腫を生きる　１**	三輪　敏広／著（X線技師） 三輪　和恵／著	本人・妻	春風社	多発性骨髄腫という難病におかされながらも、夫婦は支え合い、四国遍路や山歩きへと出かけ、生きることを楽しむ。病状、医師の対応、治療、薬などについて冷静かつ克明に綴った、いのちの記録。
多発性骨髄腫	×	493.29	ミワ	2007	**多発性骨髄腫を生きる　２**	三輪　敏広／著（X線技師） 三輪　和恵／著	本人・妻	春風社	悪化する病状にもあきらめることなく、夫婦は新薬「ベルケード」に一縷の望みを託すが…。「最後まで人間らしく生活すること」を願い、寄り添って生きた夫婦の壮絶な記録。（巻末に子の記事、夫死亡）
非ホジキンリンパ腫（鼻腔原発NK/T細胞性悪性リンパ腫）	×	493.29	ワキ	2012	**夕焼けの日曜日　夫婦で戦った２８４日のがん闘病記**	脇　英策／著（医療機器販売） 脇　佳子／著（医療事務員）	妻	幻冬舎ルネッサンス	３５歳の夫が血液のがん（非ホジキンリンパ腫）と診断された。異変、告知、がん治療、再発…。厳しい治療に耐えながら、生きることを諦めなかった夫婦の１年間の記録。（妻による、夫の発病から死去までの闘病の記録。非ホジキンリンパ腫・鼻腔原発NK/T細胞性の悪性リンパ腫の診断。臍帯血による造血幹細胞移植を行うも、急性GVHD（移植片対宿主病）、胆道閉塞、消化管出血などにより死去。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.3		呼吸器疾患							
特発性間質性肺炎	×	493.38	オキ	2014	タバコに奪われた命　父の『闘病MEMO』に寄せて	荻野　寿美子／著（一般人）	父	あけび書房	朗らかで豪快な山男だった父。しかし、徐々に、父の肺はタバコで蝕まれていました。そして…。壮絶かつユーモラスな父の「闘病メモ」をもとに娘が記す、タバコのおそろしさ。
肺がんほか	○	493.385	アオ	2012	生きのびるためのがん患者術伝わる「ことば」の使い方	青木　晴海／著（一般人）	本人	岩波書店	がん患者がみずからの心や体の状況を「ことば」にすることで、治療方法や入院の日々が変化し、QOLも向上する。がんから生還した著者が、ささえあって生きのびるための知恵とわざを綴る。がん患者便利帳も収録。（肺がんを発症（肝臓に転移）した本人による体験記。開胸手術後に左側反回神経麻痺となり声を失う。医師や周囲に自分の「ことば」を伝えるための方法について主に記述。巻末に「がん患者便利長―私の体験から―」あり。）
肺がん（小細胞肺がん）	×	493.385	カキ	2009	妻を看取る日　国立がんセンター名誉総長の喪失と再生の記録	垣添　忠生／著（国立がんセンター病院名誉総長）	夫	講談社	定年を迎えた矢先の出来事だった…。わずか6ミリの影が妻を襲う。1年半にわたる闘病生活、自宅での看取り、その後、押し寄せてきた絶望感、そして立ち直るまでの道のり―。がん専門医である著者が自らの体験を赤裸々に綴る。（妻死亡）
肺カルチノイド	×	493.385	カネ	2012	僕の死に方　エンディングダイアリー500日	金子　哲雄／著（流通ジャーナリスト）	本人	小学館	突然の余命宣告。絶望の中でやがて彼は「命の始末」と向き合い始める。その臨終までの道程はとことん前向きで限りなく切なく愛しい―。41歳で急逝した売れっ子流通ジャーナリストが、最後に遺したメッセージ。（流通ジャーナリストの金子哲雄が、自分の死後に出版して欲しいと妻に託していた最後の著作。流通ジャーナリストを志して仕事をしてきた日々、発病から余命宣告、死に至る準備の記録、最後のメッセージ。巻末と巻頭に妻による文章あり。）
肺がん（骨転移･脳転移）	×	493.385	キタ	2012	夫が癌！	北田　チカ／著（薬剤師）	妻	文芸社	（夫が肺がん（骨転移）の告知を受けてから1年半の闘病を経て亡くなるまでの妻による記録。）
肺がん	×	493.385	セイ	2011	大切なひとのためにできることがんと闘った家族の物語	清宮礼子／著（松竹株式会社映画宣伝部）	娘	文芸社	（突然末期がんの告知を受けた父親が、家族に支えられながら病と向き合い、亡くなるまでの間の記録。病院の情報や保険のこと、セカンドオピニオンのことなど、家族として闘病生活にどう向き合っていったのかについても触れている）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.4		消化器疾患							
食道がん	○	493.445	アオ	2012	死んでたまるか	青島　武雄／著 （一般人）	本人	文芸社	（出版は2012年だが、闘病については昭和53年7月から10月までの記録。また、著者は昭和54年に他界。のどに食物がひっかかるような違和感や吐血を繰り返し受診、食道がんと診断される。昭和53年7月より、同年10月に退院するまでの間の入院生活を記す）
食道がん	×	493.445	タカ	2012	終末期と言葉　ナラティヴ／当事者	高橋　規子／著 （心理臨床家） 小森　康永／著 （愛知県がんセンター中央病院緩和ケア部精神腫瘍診療科）	本人・医師	金剛出版	刻々進行するがんと「終末期」の時間を縦糸に、「当事者」が語ることの可能性を横糸に織り上げられた終末期フィールドワーク。食道がんでこの世を去った気鋭の心理臨床家と、精神腫瘍医のメール往復書簡を中心にまとめる。 （終末期の食道がんである心理臨床家の高橋と、精神腫瘍医である小森の、2011年の6月6日から11月11日に至る30往復ほどのメール交換を中心に編成。）
食道がん	×	493.445	タン	2011	手術は、しません　父と娘の「ガン闘病」450日	団　鬼六／著 （作家） 黒岩　由起子／著 （2007年より団鬼六事務所の秘書）	本人・娘	新潮社	食道ガン発見後も手術を拒否した奔放な父と、そんな父に振りまわされながらも献身的に見守る娘。告知、放射線治療、一進一退の症状、転移、そして家族に「遺されたもの」。病と向き合いながら、それぞれの思いを綴った闘病記。 （長女による団鬼六の闘病記録と、団本人の「残日録」をあわせて、死去までの450日間を追ったもの。団は79歳で死去。）
食道がん	○	493.445	ナカ	2012	生きる力　心でがんに克つ	なかにし　礼／著 （作家・作詞家）	本人	講談社	最新先進医療でがんが切らずに消えた！　手術ではなく陽子線治療でがんを克服した著者が、あらゆる命あるものと共鳴し、先人の英知に支えられて、新たな生を得るまでの足跡を明かす。
食道がん	×	493.445	リフ	2013	最後の日まで毎日が贈り物　がんと共に生きた医師の18か月のメモワール	リー・リプセンタール／著 （医師） 小西　敦子／訳	本人	草思社	がんで余命1年という宣告を受けた心臓病の専門医は、苦しんだすえ、いつ死んでも悔いがないよう、今この瞬間を精一杯生きよう、と決意した…。死の恐怖を克服するまでの“心の旅路”を率直につづったメモワール。 （52歳で食道がんの宣告を受けた著者（統合医療分野で国際的に活躍した医師、妻も医師）が、瞑想や代替療法も取り入れながら、恐怖を超えるまでをつづる。著者はその後2011年9月に死去。）
胃がん（肝臓転移）	×	493.455	オク	2013	看取り先生の遺言　がんで安らかな最期を迎えるために	奥野　修司／著 （ジャーナリスト）	ジャーナリスト	文藝春秋	治らないがん患者のために在宅緩和ケアを立ち上げた肺がん専門医・岡部健が説いた、自宅で迎える平穏な死。カール・ベッカー教授との対談も収録。『文芸春秋』掲載に大幅に加筆して単行本化。 （肺がんのスペシャリストであり在宅緩和ケアのパイオニアであった岡部医師が、2010年に胃がん（肝臓転移、余命10ヶ月宣告）となり、さらに2011年3月の東日本大震災を経て、臨床宗教師の誕生に全精力を傾けるようになる。病状が深刻であった2012年1月から、ジャーナリストの著者が岡部医師の「遺書」を書くべく9ヶ月のべ170時間にわたる聞き取りを行い、不足部分は取材データや関係者の証言を補足してまとめた書。）
胃がん	○	493.455	テラ	2012	希望への道　早期発見・早期治療胃ガン検診のすすめ	寺島　悦子／著 （一般人）	本人	文芸社	（血液検査で胃がんを早期発見し全摘した本人の体験と随想）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
胃がん（全身に転移）	×	493.455	ニシ	2011	告知せず　天国の妻へラブレター	西家　洋治／著 （一般人）	夫	文芸社	（著者は医師から妻が進行性の胃がんで余命3カ月であると告知される。自暴自棄にならぬようにという思いから妻への告知はしないことになるが、このために治療の方針をめぐって家族間で軋轢が生じるなどの事態も発生する。妻は9回の入退院を繰り返し、1年2ヶ月後に死去）。
進行性胃がん	×	493.455	ヨシ	2012	ヒマラヤの風にのって　進行がん、余命3週間の作家が伝えたかったこと	吉村　達也／著 （作家）	本人	角川書店	作家・吉村達也が最期の日の直前まで書き続けた「ヒマラヤノート」には、人生の幕を閉じようとする者、愛すべき家族への力強いメッセージが記されていた。進行がんに侵された自身の闘病の経過と、伝えたかった思いを込めた本。 （手遅れの進行性胃ガンで入院し22日間の入院生活を経て亡くなった作家の著者が、自ら生前にベットの上で、やがては口述筆記で死の直前まで記録しつづけた闘病の様子。妻と娘からのメッセージあり。見開き「本書の著者であるぼくは、この本が出版された時点ですでに死んでいる」）
大腸がん	×	493.465	カワ	2014	河辺家のホスピス絵日記　愛する命を送るとき　改訂新版	河辺　貴子／著 （大学教授） 山崎　章郎／著 （医師）	妻	改訂新版	41歳の夫を献身的に看取った妻と主治医が綴った、絵手紙による優しき感動の記録。聖ヨハネホスピスでの体験を基に、終末期医療の大切さを説く。「その後」の著者たちの歩みを加筆した改訂新版。 （冒頭、本文中、巻末に医師による解説が収められている）
ｸﾛｰﾝ病	○	493.46	ハネ	2003	色鉛筆がくれた希望　クローン病を患って見つけた幸せのかたち	羽田　紗織／著	本人	アートダイジェスト	クローン病は、腸疾患の原因不明の難病。7年間この難病と闘い続けている24歳の女性の赤裸々な告白。病室で描いた色鉛筆画が思わぬ反響をよんだ。絶望と希望の狭間で見つけた彼女の「幸せのかたち」とは－。
虫垂がん	○	493.465	キシ	2007	がんから5年 「ほどほど」がだいじ	岸本　葉子／著 （エッセイスト）	本人	文藝春秋	食事療法や漢方医院通い、仲間と“希望”や“これから”を語り合うことは今も続く。がんは長い。のんびり、ゆったり、自分なりに付き合っていこうと思う…。がん治療後3年から5年半過ぎまでの日々の思いや心の変化を綴る。 （医師との対談、香山リカらとの座談会も収録）
大腸がん	×	493.465	トツ	2009	がんと闘った科学者の記録	戸塚　洋二／著 （東大宇宙線研究所教授）	本人	文藝春秋	ニュートリノ観測によりノーベル賞が確実視されていた物理学者・戸塚洋二が、最期の11カ月にブログに綴ったがんの闘病記録。病状の観察と死に対する率直な心境を述べる。 （「文藝春秋 」2008年9月号に「あと3ヶ月　死への準備日記」という形で発表された、故戸塚洋二・東京大学特別栄誉教授が秘かに匿名でインターネットのブログページに書き綴っていた文章を収録したもの。巻末に戸塚洋二と立花隆による対談を収録。）
大腸がん（肺や肝臓に転移）	○	493.465	トリ	2011	がん患者	鳥越　俊太郎／著 （キャスター、コメンテイター）	本人	講談社	大腸がん発覚から5年、手術4回、ステージ4のがん患者である著者が、告知、手術、治療、転移、仕事、家族など、「がんと生きる」すべてを綴る。「取材者・鳥越」が「がん患者・鳥越」を観察した“心”と“体”の全記録。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
胆管がん	×	493.47	アマ	2012	身ぎれいな終いじたく	天沼　寿子／著 （輸入会社社長・講演・執筆業ほか）	本人	メディアファクトリー	69歳、ひとり暮らしで子供もいない私は、残りの人生の充実のために、終いじたくを始めましたー。カントリーアンティークの先駆者・天沼寿子が、ナチュラルで彼女らしい「準備」の数々を紹介します。 （胆管がんを再発した著者が、生活・仕事・病院・遺言それぞれの「終いじたく」について綴るが、著者は本書執筆直後に亡くなっている。）
胆管がん	×	493.47	オカ	2007	母を看取り父を介護した僕の１４７５日	岡山　徹／著 （翻訳家・コラムニスト・作家）	息子	ダイヤモンド社	癌の母、脳梗塞の後遺症に悩む父を介護し、看取る。「おふくろ、おやじ、ありがとよ。おもしろかったぜ」 介護の労苦を、骨太でときにユーモラスな筆致で綴る、感動の手記。 （息子が自身の胆管がんの母と高齢の父の介護を綴ったもの。母は胆管がんで亡くなり、父はくも膜下出血で亡くなる。）
C型肝炎・肝臓がん	○	493.47	オハ	2006	C型肝炎を生きる	尾原　佳代子／著 （元看護士・高知県）	本人	ルネッサンスブックス	図らずもC型肝炎に感染してしまった、看護師の奮闘記。C型肝炎の治療法、肝臓の働きや検査方法、手術の経過、退院後の生活など、自らの経験を通して気づいたこと、知り得たことを綴る。 （本人による発症から退院までの闘病記と病気・治療情報提供）
難治性C型肝炎1b型／肝細胞がん	○	493.47	オハ	2010	治ったよ！難治性C型肝炎	尾原　佳代子／著 （元看護士・高知県）	本人	リーブル出版	難治性C型肝炎1b型の感染が発覚して17年。ついにC型肝炎ウイルスを消滅させることに成功した著者が、ウイルス消滅に至るまでの医療過程や、体調の変化を詳細につづる。
肝臓がん	○	493.475	ササ	2011	末期がんからの生還 「知識」と「信念」でくつがえした末期がん神話	笹野　富美夫／著 （一般人）	本人	文芸社	（末期の肝臓がんと診断された当人による、入院から退院までの闘病生活の記録）
C型肝炎	○	493.47	オル	2013	さいなら！C型肝炎	オール巨人／著	本人	ヨシモトブックス	2010年2月から1年半の間、漫才師としての仕事を抱えながら、C型肝炎の治療に挑んできたオール巨人が、C型肝炎の発覚から治療の始まり、副作用との闘い、家族の支えや仲間の理解、完治後の生活までを綴る。
原発性硬化性胆管炎	×	493.47	ミヤ	2013	ぼくの大切なもの　再移植をまえに逝った息子・健	三宅　健／著　三宅　公子／編集	本人 母	はる書房	:ぼくの大切なもの。それは、数学者になるという夢、そのための努力、そしてドナーのおかげで過ごせた時間…。難病・原発性硬化性胆管炎と診断され、天国に旅立った著者が生前につづった闘病記。
肝臓がん	○	493.475	ササ	2011	末期がんからの生還 「知識」と「信念」でくつがえした末期がん神話	笹野　富美夫／著 （一般人）	本人	文芸社	末期の肝臓がん、余命3ケ月と宣告された著者が、病に打ち勝つまでの1年半にわたる壮絶な闘病記。生きる可能性を求め、自らの意思で治療法を選択し、立ち向かった体験ドキュメント。
肝臓がん	○	493.475	テラ	2012	癌一髪！　悦楽的闘癌記	寺崎　央／著 （編集者・ライター）	本人 （小説形式）	マガジンハウス	手練れのベテラン編集者にかかれば、闘癌も格好の取材ターゲット！　肝臓癌のステージⅣを宣告された著者が自身の闘病生活を、「花咲比呂志」という架空の人物を主人公に小説仕立てで綴る。 （自身の肝臓がんの発見から治療までの経験をもとにした小説）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
膵臓がん	×	493.475	ナカ	2009	**転移**	中島　梓／著 （作家）	本人	朝日新聞	2009年5月26日、ガンのため56歳の生涯を閉じた中島梓＝栗本薫。作家であり、主婦であり、母であった彼女が、2008年9月から2009年5月17日、意識を失う直前まで書き続けた闘病日記。 （本人死亡）
膵臓がん	×	493.475	ハウ	2013	**もうひとつの「最後の授業」 旅立つ彼が教えてくれたこと**	ジェイ・パウシュ／著 （膵臓ガン・アクション・ネットワークメンバー） 小川　敏子／訳	妻	講談社	夫の死に方、妻の見送り方と、それからの生き方。膵臓ガンを患った夫・ランディ・パウシュの2年の闘病生活を支えた妻の感動のメモワール。介護の現場で味わった試練と、介護者としてつきつけられた困難な課題などを綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.6		運動器疾患：骨，関節，筋							
先天性骨端収縮障害	○	493.6	イワ	2012	ハンディをハッピーに！　出会いに包まれて	岩村　洋子／著 （一般人）	本人	文芸社	それまでいろいろなことをあきらめていた障害者の私。でも、恋も結婚も、出産も子育てもできた…。小説よりも、TVドラマよりも現実はドラマチック。体のハンディキャップを乗り越えて輝く女性が綴る回想記。 （落とした障害者手帳を拾ってもらった縁から健常者の男性と結婚した本人が、結婚後20年の今振り返って綴る、結婚と2児の出産、子育ての日々。）
繊維筋痛症ほか	○	493.6	ユナ	2013	このままでは死ねない　線維筋痛症ーあなたはこの病名を聞いたことがありますか？	悠那／著	本人 芸術家	文芸社	生まれた直後からの壮絶な虐待、そして心の病。次々に現れる体の不調、線維筋痛症という診断…。過酷な運命を強いられた女性。そんな状況にあっても、生きることを楽しむ彼女から伝わる“大切なもの”。
軟骨異栄養症（軟骨無形成症）、水頭症	○	493.6	オオ	2008	かなちゃん生きるね	大森　満江／著 （一般人）	母（絵本形式）	つくしの会	（軟骨異栄養症とそれによる発達の遅れ、水頭症という病気を生まれながらに持っていたかなちゃんががんばっている姿を母親が絵本形式で描いたもの。）
線維筋痛症	○	493.6	ハシ	2012	そうまでして生きるわけ　線維筋痛症だからといって、絶望はしない	橋本　裕子／著 （線維筋痛症友の会理事長）	本人	佐久書房	10代で全身が痛む原因不明の病気「線維筋痛症」に罹った著者が、歩けない、食べられない、寝たきり生活からの復活を綴る。講演原稿、母親と看護師の寄稿も収録。 （本人の手記、講演原稿、母と看護師からの寄稿で構成。）
線維筋痛症ほか	○	493.6	ユナ	2013	このままでは死ねない　線維筋痛症ーあなたはこの病名を聞いたことがありますか？	悠那／著 （芸術家）	本人	文芸社	（虐待、うつ病などを経て、数多の不調や病気に苦しみ、線維筋痛症と診断された本人が、誕生、成長、治療、出産など人生の経験を綴る。）
横紋筋肉腫	×	493.6	ヨコ	2008	明日（あした）もまた生きていこう十八歳でがん宣告を受けた私	横山　友美佳／著 （一般人：バレーボール選手）	本人	マガジンハウス	全日本合宿参加の連絡を受けたまさにその日、がんとの闘いを始めた高校生・横山友美佳。発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験やアルバイトなどの新たな経験を重ね、夢を追い求め続けてきた3年間の日々を綴る。 （本人による闘病記だが、本人は執筆後本の刊行を待たず死亡したとあり）
進行性筋萎縮症ほか	○	493.64	アイ	2013	たくさんのありがとう　妻とみんなに支えられて	会場　修一／著 （一般人）	本人	中日出版社	未熟児で障がいを持って生まれた著者が、就職、結婚、子育てをはじめ、進行性筋萎縮症という難病にかかってから現在までを、家族への思い、介護されるものの気持ち、いきがいや幸せの持ち方などを交えて綴る。 （本人は脳性マヒで生まれ、40歳頃に進行性筋委縮症を発症。妻は中学生の時の脊髄の炎症で下半身不随）
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	○	493.64	アリ	2014	ひだまりの介護日誌 神経難病の母と私の四季	有田　喜代美／〔著〕 有田　絹枝／〔著〕	娘・本人	木星舎	救急車で運ばれ、厳しい診断名が下されたその日から、ゆっくりと落ちていく母の身体レベルに付き添う娘の苦悩、焦燥、喪失、悲嘆、葛藤、そして日常の喜び…。神経難病を患って自宅療養する母親の介護を娘が綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	○	493.64	イキ	2006	**生きる力　神経難病ALS患者たちからのメッセージ**	「生きる力」編集委員会	本人ら	岩波書店	難病中の難病といわれるALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者みずからが原稿募集をして編集した本。患者とその家族が、発症間もないころや、告知前後の困難にどう向き合い、どう乗り越えてきたかなど、それぞれの経験を語る。
筋ジストロフィー・情緒障害	×	493.64	ウシ	2012	**カリフォルニアの風　二人の障がい児の息子たちと共に**	うしろばたはるよ／著 （一般人・仏教大学大学院仏教文化専攻修士）	母	竹林館	障がいとは個性である。健常者であっても、ハンディがあっても、自分自身のもつ能力を最大限に活かすということでは平等であるー。2人の障がい児を授かり、亡くした母親が思いを綴る。ブッダのことばも多数収録。 （4歳で筋ジストロフィーと判明し20歳までしか生きられないと宣告を受けた長男、2歳頃にやはり筋ジストロフィーと情緒障害であることが判明した次男の母親が、息子の成長と闘病の記録、母親として生きてきた日々の思い、息子2人の死までを綴る。）
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	×	493.64	カワ	2009	**逝（い）かない身体　ALS的日常を生きる**	川口　有美子／著 （ALS/MND国際同盟会議理事）	娘	医学書院	「辛い？」「苦しい？」が繰り返されるなかでの、さまざまな工夫や智恵。そこにたしかに存在する希望…。ALSの母が重力に抗して生きた12年を身体ごと支えた記録。 （娘による母の闘病記、闘病者本人は死亡）
先天性筋ジストロフィー（福山型）	○	493.64	キク	2001	**しんちゃん　筋ジストロフィーの慎大郎君の日々**	菊池　和子／著 （写真家・元小学校教諭）	写真家	草土文化	筋肉がもろくてこわれやすく、再生も追いつかずに機能を失っていく病気「筋ジストロフィー」。この難病を患う12歳の少年の日々を記録した写真集。
先天性筋ジストロフィー（福山型）	○	493.64	キク	2008	**二十歳（はたち）になりました　筋ジストロフィーの慎大郎君の日々**	菊池　和子／著 （写真家・元小学校教諭）	写真家	子どもの未来社	（先天性筋ジストロフィー福山型を患う加藤慎太郎君の、高校卒業から成人式を迎えるまでを撮影した2冊目の写真集。この間に鼻チューブを装着し、気管喉頭分離手術を受ける）
先天性筋ジストロフィー（福山型）	○	493.64	キク	2012	**命の限り　筋ジストロフィーの青年と家族**	菊池　和子／著 （写真家・元小学校教諭）	写真家	現代写真研究所出版局	先天性筋ジストロフィー福山型と診断された青年とその家族の日常の暮らしをとらえた写真集。宣告された寿命を大幅に超えて生きる難病患者の現状と、在宅の医療と介護の最前線を見つめる。 （加藤慎太郎君の親子を撮影した写真集の3冊目。11歳から24歳までを記録。病が進行し人工呼吸器を装着。巻末に国立精神・神経医療研究センター病院の医師による「筋ジストロフィー医療の現状」掲載。）
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	○	493.64	ササ	2011	**虹が見えるまで**	笹川　彰／著 （一般人）	本人	文芸社	（著者は平成元年ごろにALSを発病して以来、気管切開や胃ろう手術も経験し、身動きのとれない闘病生活を20年以上続けて来た。自身の人生や闘病生活を振り返ってのこと、またALSやヘルパー達を取り巻く環境のことなど、さまざまなことを綴ったエッセイ集）
脊髄性筋萎縮症	○	493.64	サト	2012	**働く、ということ　十九歳で社長になった重度障がい者の物語**	佐藤　仙務／著 （WEB制作会社社長）	本人	彩図社	脊髄性筋萎縮症という難病を患い、寝たきりの著者が、ホームページ制作会社を立ち上げた。なぜ会社を立ち上げたのか、そしてその中で見えてきた“働く”ことの意味とはなにかを語る。 （生後10ヶ月で脊髄性筋萎縮症と診断された著者が、会社を立ち上げるまでと、日々の仕事の様子などを綴る。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	○	493.64	タカ	2013	**わたしは目で話します　文字盤で伝える難病ALSのことそして言葉の力**	たかおまゆみ／著 （元ろう学校・聾話学校教師／ドイツ語翻訳・通訳／内閣府男女共同参画会議専門委員／独協大学大学院博士前期課程在学）	本人	偕成社	聾学校の教師から、ドイツ語の翻訳者へ、そして難病ALSを発症し、音声言語を失うまでー。言葉の問題にかかわり続けてきた著者が病を得て、今あらためて思うこととは？　文字盤を使い、目の動きだけで書き上げたメッセージ。 （聾話学校の教師からドイツ語の翻訳者になった著者は、2009年、もうすぐ49歳というときにALSを発症。第1章でALSの解説と発症・闘病の記録、第2章で言葉の障害を抱える生徒を教えていた時代の記録、第3章でドイツ語翻訳者になるまで、第4章・第5章で文字盤について、第6章で言葉と人間について考える。文字にふりがなあり、イラストあり。）
進行性筋ジストロフィー（デュシェンヌ型）	○	493.64	ツチ	2002	**神様からの贈り物**	土屋　竜一／著 （シンガーソングライター）	本人	角川書店	筋ジストロフィーと闘う著者と、アメリカ留学を控えた彼女。立ちはだかる数多くの障壁を一つひとつ知性と優しさで乗り越え、結婚後も幸福を実現していく二人の姿を綴った感動のノンフィクション・エッセイ。 （娘が誕生）
ALS	○	493.64	ニシ	2013	**住めば都の不自由なしあわせ沈黙から生まれる豊かな対話の中で**	西村　隆、宮本　雅代／共著	本人・妻	いのちのことば社	2人の違いは無数にある。それは時として誤解や衝突、対立を生むけれど、それを繰り返しながら、より深い対話が成り立つー。難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）の夫とその妻が、ゆるやかに流れる日々を綴る。
進行性筋ジストロフィー（肢帯型）	○	493.64	ノサ	2012	**車いすきばいやんせ日記**	野崎　耕二／著 （地図編集製作・イラストレイター）	本人	中央公論新社	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件など、心痛む未曾有の事件があった1995年。刻々と進行する難病・筋ジストロフィーの病状と向き合いながら、ていねいに暮らした日常と非日常を記す。 （1983年に46歳で進行性・肢帯型筋ジストロフィーと診断された本人による、1995年1月1日から12月31日の日記。阪神・淡路大震災についても綴る。）
進行性筋ジストロフィー	○	493.64	ヒラ	2007	**110センチの視野　電動車椅子のファンキー野郎アメリカ留学激闘記**	平野　誠樹／著 （電動車いすサッカーチーム「横浜クラッカーズ」代表・選手）	本人	アートオフィスプリズム	電動車椅子に乗った「オレ」は、障害だらけの日本を出て、アメリカへの留学を決意した。前に立ちはだかるトラブルを、度胸と勇気で乗り越える。こんなファンキーなドラマがあるなんて…。「小説より奇なり」の留学激闘記。
ALS	○	493.64	フシ	2013	**99%ありがとう　ALSにも奪えないもの**	藤田　正裕／著	本人	ポプラ社	30歳のある日、人生が狂ったー。ALS（筋萎縮性側索硬化症）と診断され、左手指と顔しか動かせなくなった広告プランナーが綴る喜怒哀楽の極致、そして希望のメッセージ。
ALS（筋萎縮性側索硬化症）	×	493.64	フラ	2012	**まりあのニューヨーク　死ぬまでに逢いたい人**	フランキ・マリア・さわの／著 （在日米国商工会議所）	本人・ディレクター	朝日新聞出版	ALS（筋萎縮性側索硬化症）と診断され、余命1年を宣言された著者は、別れた夫に会いにニューヨークへ出かける…。体が思うようにならない中で生き切った女性の魂の記録。生前のブログや文章を再構成し、単行本化。 （2010年8月にALSを発症、2011年7月に亡くなったまりあさんが生前に書いていたブログや文章を再構成して本にまとめたもの。2011年1月から亡くなるまでドキュメンタリーの撮影を受けており、最期の数日の様子はディレクターが日記形式で綴っている。持病の喘息もあり。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.7		神経科学．精神医学（複数の精神病を扱っていて、特に中心となる病気がない場合）							
精神疾患全般	○	493.7	イイ	2012	リカバリーの学校の教科書　精神疾患があっても充実した人生を送れます！	飯野　雄治／編著 中原さとみ／編著 （ リカバリーキャラバン隊事務局）	本人ら	EDITEX	（精神疾患の当事者が講師となり、経験者としての工夫や体験を他の当事者に伝え、リカバリーできた参加者が次の講師となる「リカバリーの学校」で使用されている教材。）
発達障害（アスペルガー症候群）・うつ病	○	493.7	ササ	2012	ビッグツリー　自閉症の子、うつ病の妻を守り抜いて　完全版	佐々木　常夫／著 （東レ経営研究所特別顧問）	父・夫	WAVE出版	妻の入院43回、自殺未遂、6度の転勤、単身赴任、激務、そして…。苦しいときも「家族の絆」と「仕事」で乗り越えた男の、感動と驚異の奮戦記。初版をベースに大幅に加筆した完全版。 （妻2回、娘1回の自殺未遂の場面あり。妻は肝炎が一進一退の経過をたどるうちにうつ病を併発。息子はアスペルガー症候群、高校3年より幻聴あり。）
精神疾患全般	○	493.7	スス	2013	精神科診療室の窓を開けて	鈴木　映二／著 （国際医療福祉大学熱海病院教授、北里大学医学部客員教授、特定非営利活動法人日本双極障害団体連合会理事長）	医師	アルタ出版	長年、闘病を支える恋人について語る統合失調症の患者、亡くなった夫への後悔が残るうつ病患者…。臨床経験を通して出会った精神科患者の実話をもとに、患者たちの人間性の素晴らしさを伝える。
発達障害（トゥレット症候群）・強迫性障害ほか	○	493.7	スト	2011	あなたが最期の最期まで生きようと、むき出しで立ち向かったから	須藤　洋平／著 （詩人・第12回中原中也賞を受賞）	本人	河出書房新社	トゥレット症候群に苦しみながら中原中也賞を受賞した詩人は仙台で被災し、1週間後、南三陸に帰った…。親しい人たちを失ったとてつもない悲しみと、震災の衝撃に耐えるために書かれた言葉たちを収めた詩集。
睡眠障害（睡眠相後退症候群）	○	493.72	ホリ	2012	ねむりひめの目覚めはいつ　睡眠障害の娘と母のドキュメント	堀本公子／著 （保育士） 堀本さくら／著	母・娘	東京シューレ出版	中学3年生から睡眠障害を抱えて学生生活を続ける娘と、「ねむりひめ」となった娘が目覚めるときを辛抱強く見守り続け、それを支えてきた母の15年にわたる詳細な記録。 （母による睡眠障害の娘の子育て記録と自身の保育士への挑戦【1章、2章、4章】、および、娘自身による体験記【3章】）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.73		脳・脊髄・神経系の疾患							
失語症	○	493.73	アカ	2013	ある日突然会話を奪われた失語症患者家族の奮闘記	赤嶺　愛子／著	妻	創栄出版	ある日突然、あたりまえの会話ができなくなることを想像できますか？　発症した本人はもとより、家族をも苦しめる失語症。失語症者とその家族が、戸惑い、悩み、苦しみ、助け合ってきた10年をまとめた奮闘記。
クモ膜下出血（左半身麻痺・右目失明）	○	493.73	アリ	2012	晴れのちくも膜下　新装版	有田　直子／著（ライター）	本人	書肆侃侃房	ある晩、急に頭痛に襲われ、1ケ月後、目が覚めたら左半身麻痺、右目失明…。22才でくも膜下出血に倒れた女性が、闘病生活とそれからの日々を前向きに綴る。
事故や病気による中途での脳機能障害（高次脳機能障害・遷延性意識障	○	493.73	イキ	2013	生きててもええやん　part　2	頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会／編	家族ら	せせらぎ出版	「頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会」の会員、家族の手記をまとめた著書「生きててもええやん」の第2弾。「いのちよみがえる」「みんなで手をとりあって」の2部構成。（事故や病気により、中途で脳の障害（高次脳機能障害・遷延性意識障害など）の当事者となった家族の手記を24件収録。特別寄稿2件、資料編（協力団体連絡先ほか）も収録。）
事故や病気による中途での脳機能障害（高次脳機能障害・遷延性意識障害など）	×	493.73	イキ	2012	生きている「植物状態」を超えて	河北新報社編集局／編	新聞社	日本評論社	植物状態に陥っても、ひとりの人間として生きている姿がある。崖っぷちの家族の愛と苦悶がある。その姿をリアルに描き、いのちや生きることへのとらえ方を根源から問い直すレポート。『河北新報』連載と関連記事を書籍化。（河北新報が1973年に連載「植物人間」を掲載してから約40年、家族たちが「治療の対象ではない」と線引きする響きから反発してきた「植物状態」という言葉をあえて副題とし、固定化した見方を乗り越えるべく、事故や病気による遷延性意識障害、重い脳損傷などの患者や家族の多くの事例を取材し、考察したもの。宮城県内患者実態調査など、データも多数。）
脳挫傷	○	493.73	イシ	2008	落馬脳挫傷　破壊された脳との闘いの記録	石山　衣織／著（競馬騎手・石山繁の妻）	妻	エンターブレイン	2007年2月24日土曜日の正午前。石山家の長きに渡る闘いの歴史が、幕を開けた瞬間だった…。障害レース中に落馬し、脳挫傷になった夫との、壮絶なリハビリの日々と再生を語る。
高次脳機能障害（片麻痺）	○	493.73	イヌ	2012	破損した脳、感じる心　高次脳機能障害のリハビリ家族学	犬塚　芳美／著（デザイナー）	妻	亜紀書房	ほろ酔い加減で躓いて後頭部を強打。生死の境をさまよい、夫は片麻痺や高次脳機能障害という障害を抱える身になった…。運と努力と家族のがんばりで、高次脳機能障害を乗り切った家族の記録。（妻による手記。2年前、夫は酔って転んで後頭部を強打したことから高次脳機能障害の右の片麻痺となる。事故当時から緊急手術、リハビリ専門病院での日々、退院までを綴る。夫自身が書いた文章も収録。）
脳挫傷（記憶障害）	○	493.73	ウエ	2009	七秒しか記憶がもたない男　脳損傷から奇跡の回復を遂げるまで	デボラ・ウェアリング／著（NHS　国民健康保険）	妻	ランダムハウス講談社	時間の感覚がなくなったまま、「生きる」とは？　イギリスの著名な指揮者の脳がウィルスに侵されてしまった。数秒前の記憶がつぎつぎに失われていく…。過酷な運命を共にした妻が綴る、奇跡のストーリー。
脳梗塞・がん	×	493.73	ウエ	2010	脳梗塞からの“再生”　免疫学者・多田富雄の闘い	上田　真理子／著（NHKディレクター）	番組ディレクター	文藝春秋	今も地獄は続いている。しかし、今のほうが良く生きていると思うー。NHKのディレクターが、免疫学者・多田富雄の壮絶な闘病と寛容で豊かな生き方を綴る。2010年4月に世を去った多田氏の遺言となるドキュメント。（多田氏はがんが原因で2010年4月に死亡）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
多発性硬化症	○	493.73	オオ	2014	しあわせ難病生活　それでも私は恋をする	大橋　グレース愛喜恵／著	本人	竹書房	恋もいっぱいするし、彼氏とイチャイチャもするし、仕事もする。多発性硬化症でも自立生活を実践中の著者が、ヘルパーに支えられながら過ごす楽しい毎日、ダメンズにばかり引っかかる恋愛、これまでの歩みなどを綴る。
脊髄小脳変性症アプラタキシン欠損症	○	493.73	オオ	2013	りーたんといつも一緒に　難病「脊髄小脳変性症／アプラタキシン欠損症」と闘う少女と彼女に寄り添う犬たちの物語	大塚　良重／著 （ドッグライター）	カウンセラー	光文社	治療法も特効薬もない難病「脊髄小脳変性症／アプラタキシン欠損症」と確定された少女りーたん。少女の成長を追いながら、彼女をサポートする犬たちとの心温まる交流を描いた感動の記録。
脳腫瘍（グリオブラストーマ）	×	493.73	オカ	2005	みぽりんのえくぼ	岡田　典子／文　岡田　美穂／絵 （一般人）	母・本人	文芸社	母親が綴る娘の闘病記と、本人の絵葉書を、日記風に構成したもの。 （娘は2歳の時に白血病を、12歳のときに脳腫瘍を患い、13歳で死亡）
脊髄カリエス	○	493.73	カツ	2013	生き抜くことは拓くこと　障害と向き合いながらの出会い録	勝又　和夫／著 （社会福祉法人東京コロニー元理事長）	本人	やどかり出版	社会福祉法人東京コロニー元理事長が、脊髄カリエスに罹患した幼少期から、平坦ではない道を常に選択し、歩んできた軌跡を、人との出会いに焦点を当てて綴る。障害者制度や社会のあり方についての提言なども収録。
脳性マヒ	○	493.73	カハ	2012	車イスかばさんのアタリマエな幸せ　僕は街を歩き、出逢い、自由な心になる	椛島　剛之／著 （「みたか街かど自立センター」スタッフ）	本人	WAVE出版	アパート探しの苦労、警察官からの職務質問、商品選びを手伝ってくれる店員たちとの世間話…。生まれつき脳性マヒで、電動車イスが手放せない「かばさん」が、愉快なひとり暮らしのエピソードを綴る。 （仮死状態で生まれ脳性マヒとなった著者が、30代となりアパートで一人暮らしを始め、それからの12年間書き溜めてきた日々の暮らしを1冊にまとめたもの。一人暮らし2年目に首の椎間板をつぶし、手足がさらに不自由となる。）
脳梗塞	×	493.73	キタ	2013	涙はもったいないばい！ 母と娘の二人三脚闘病記	北森弘子／著	母娘	文芸社	離れて暮らす母と娘に、ある日突然起こった悲劇。脳梗塞で右半身麻痺となってしまった母に、娘のくだした決断とは…。困難の中でも喜び、学び、感謝を忘れなかった母と娘の闘病の記録。
脳性マヒ	○	493.73	クマ	2009	リハビリの夜	熊谷　晋一郎／著 （小児科医、東京大学先端科学技術研究センター特任講師）	本人	医学書院	まなざされ、見捨てられた私のカラダを拾ってくれたのは、夜の闇と冷たい床、そして敗北の官能だった…。脳性まひ当事者にして現役の小児科医である著者が、みずからのリハビリ体験を全身で語り尽くす。 （本人が脳性マヒ（新生児仮死の後遺症）である自身の体験や感覚を緻密に語り、考察したもの）
脳挫傷	○	493.73	クリ	2001	パパの脳が壊れちゃった　ある脳外傷患者とその家族の物語	キャシー・クリミンス／著 （作家）	妻	原書房	卑猥な言葉を発し、人前で性器をさわり、娘を機械とまちがえる…。事故で脳に損傷を負った夫は、まるで別人になっていた。さまざまな後遺症を乗り越えて、一歩一歩回復への階段を上がる夫とそれを支える妻と娘の物語。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
クモ膜下出血	○	493.73	コウ	2013	一度、死んでみましたが　スーパー闘病エッセイ！	神足　裕司／著 （コラムニスト）	本人	集英社	重度くも膜下出血に倒れた、人気コラムニスト、神足裕司。絶望的な状態から奇蹟的な回復。命と正面から向き合う日々を綴った涙と笑いのスーパー闘病エッセイ。 （妻によるリハビリの記録あり）
ギラン・バレー症候群	○	493.73	コウ	2011	べっちょない　VS. 重症ギラン・バレー	合田　佳久／著 （教師）	本人	文芸社	（突然、目の前の景色が万華鏡のように見えた…。10万人に1人という難病、ギランバレー症候群におかされた著者がつづる、日記形式の闘病記。）
高次脳機能障害	○	493.73	シハ	2011	日々コウジ中　高次脳機能障害の夫と暮らす日常コミック　続	柴本礼／著 （イラストレーター）	妻	主婦の友社	私の夫は高次脳機能障害です。今も夫はそれがわかっていませんが、家族で支えあって生きていますー。高次脳機能障害を抱えたちょっぴりユーモラスな夫が巻き起こすエピソードを描いたコミックエッセイ第2弾。 （くも膜下出血で倒れて以降高次脳機能障害を患う夫との生活を妻が漫画で描く。）
脳性マヒ・頚椎症	○	493.73	シハ	2013	ハラハラ、ドキドキ、なぜ歩くの、智恵子さん	柴田　智恵子／文 （一般人）	本人	レイライン	北九州小倉在住で、脳性小児麻痺、頚椎症などの複合的な障害と68年間付き合ってきた著者。車椅子を歩行器代わりにして歩く彼女が、その明るくタフなチャレンジ精神のすべてを記す。
脳出血（右半身麻痺）	○	493.73	シマ	2011	左手一本のシュート　夢あればこそ！脳出血、右半身マヒからの復活	島沢　優子／著 （ノンフィクションライター）	ライター	小学館	山梨県トップのバスケット選手・田中正幸15歳を襲った脳動静脈奇形による脳出血、右半身麻痺。「再び試合に」の強い夢で、利き手転換、左手1本でシュートを決め、インターハイ出場の奇跡を呼び込んだ、涙の実録。 （ノンフィクションライターが、高校生のバスケット選手が脳出血による右半身麻痺を乗り越え再びコートに立つまでを記録したもの。）
ギラン・バレー症候群	○	493.73	シマ	2013	海峡（うみ）を渡るカチガラス	嶋　博美／著 （詩人）	本人	砂子屋書房	大丈夫、僕はきっと帰っていける。あの場所へ、40年間あたためてきたあの椅子のある場所へ帰っていくのだ。そのための闘いに挑んでいるー。難病ギラン・バレー症候群と闘う詩人による魂再生の物語。 （母、妹、叔母、父と死去の場面あり）
脳卒中	○	493.73	セキ	2014	まさか、この私が	関　啓子／著	本人	教文館	脳卒中リハビリの専門家として治療する立場にあった言語聴覚士が、自ら体験した脳卒中の発症から職場復帰までを記す。当事者の立場から、リハビリのあり方を問い直し、障害（後遺症）からの回復の道筋を具体的に示す。
脳腫瘍	×	493.73	セル	2013	さよならは何度でも　ガンと向き合った医師の遺言	ダヴィッド・セルヴァン＝シュレベール／著　二瓶　恵／訳	本人	水声社	ガンが発見されて以来19年間、医師として自ら「ガン克服」法を実践し、人生をかけてガンと闘った著者の最後のメッセージ。脳腫瘍の再発が発覚してから死を迎えるまでの、さまざまな記録と思い出を綴る。
脳性マヒ	○	493.73	セン	2012	じろじろ見てよ　重度脳性マヒのぼくが議員になって	千一／著 （鎌倉市議会員）	本人	いそっぷ社	生まれたときからの重度の脳性マヒで、しゃべることも手足を動かすこともままならない著者が、古都・鎌倉の市議会議員に！　周囲の心配をよそに選挙に出た経緯から議会との対決までを、ユーモラスに綴る。 （アテトーゼ型脳性マヒで、言語障害も持つ著者本人が、市議会員となるまでを記録する。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
脳梗塞	○	493.73	タカ	1982	**甦える　脳梗塞・右半身麻痺と闘った900日**	高木　彬光／著 （作家）	本人	光文社	（脳梗塞・右半身麻痺との、900日におよぶ闘病生活の記録）
視神経脊髄炎	○	493.73	タサ	2013	**全然大丈夫じゃない！**	田坂　真理／著	本人	泰文堂	突然病気はやってきた。背中がものすごく痛い、足も動かない…全然大丈夫じゃない！　尾道市の小学校へ非常勤講師として勤務中、自己免疫疾患系の難病「視神経脊髄炎」を発症した著者が復職するまでの、2年に及ぶ壮絶闘病記。
高次脳機能障害	○	493.73	タチ	2013	**トラウマティック・ブレイン　高次脳機能障害と生きる奇跡の医師の物語**	橘　とも子／著 （医師）	本人	SCICUS	16歳のときに事故で脳挫傷・頭蓋底骨折ほか全身多発外傷受傷。高次脳機能障害＆身体障害と共に暮らす中で、医師になり、結婚・出産・育児を経験してきた著者の闘病記。症状の経過表、折り込みの資料も収録。 （第4章「理解」は夫による記述）
脳性マヒ	○	493.73	ツカ	2014	**一段一段ずつ　障がいは私の個性　個性を活かしてアーティストへの道を歩む**	塚田　とみ子／文 塚田　麻美／画	母	ブレーン	初めての発作、普通学校への進学、イジメとの戦い、美術部で見つけた「自分の居場所」、個展の開催…。「画家」という夢に向かって歩み続ける脳性まひの娘・麻美と共に歩んだ母が、ありのままの母子の軌跡をつづる。
脳梗塞	○	493.73	ツタ	2012	**母、リニューアル**	津田　幸子／著 （企業図書館に勤務）	娘	文芸社	（脳梗塞で倒れた母、命に別状はなかったものの、退院してからの生活は苦労の連続だった。家事の仕方や、シャワーの浴び方など、日常の生活の仕方を忘れてしまい苦労しながらも、回復するまでの様子を娘が綴る。）
脳卒中	○	493.73	テイ	2009	**奇跡の脳**	ジル・ボルト・テイラー／著 （神経解剖学者）	本人	新潮社	脳科学者である私の脳が壊れたー。脳卒中から再生までの8年間の苦闘を通して、脳に秘められた可能性と神秘を自らが描く。脳卒中になりうるすべての人に贈る書。
脳梗塞	○	493.73	テハ	2012	**おいっちにおいっちに**	トミー・デ・パオラ／作　みらいなな／訳	孫の立場（創作絵本）	童話屋	ボビーがよちよち歩きの時、「おいっちに、おいっちに」と歩き方を教えてくれたおじいちゃん。ところが、脳の病気になって、おじいちゃんは動けなくなってしまいました。今度はボビーがおじいちゃんに歩き方を教えてあげて…。 （ある日（おそらく脳梗塞で）倒れて入院、「何も分からなくなって」退院してきた祖父が、孫との交流の中で回復していく様子を、孫の目線から描いた絵本。）
脳脊髄液減少症	○	493.73	トト	2011	**同じ空の下　脳脊髄液減少症と闘う母娘の記録**	轟　愛／著　轟　智恵／著 （「大分脳脊髄液減少患者を支援する会　設立者）	本人・母	文芸社	（愛さんは、中学2年生のときに体育の時間の事故で脳脊髄液減少症となるが、病名が判明しないまま苦しい時を過ごした。本人による手記と、学校や医療機関とたたかい、脳脊髄液減少症への理解を目指して活動してきた母の手記。）
脳性マヒ	○	493.73	ノカ	2014	**六つの瞳の光に輝（て）らされて**	のがみ　ふみよ／著	母	鉄人社	生まれてきた3人の子どもたちのうち、2人が障がいを抱えていた…。出産から絶望を覚えた日々、幼稚園を卒園し、さらなる成長を続けている子どもたちと、母親である著者自身の成長の記録。秘伝の超簡単レシピも収録。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
悪性髄膜腫	×	493.73	ヒカ	2013	パンドラからの贈り物　悪性髄膜腫と闘った今は亡き主人に捧ぐ	東野　順子／著 （一般人）	妻	文芸社	（非常に稀である、男性の悪性髄膜腫となった夫本人の日記を挟みながら、妻が夫の闘病と死までを綴る。）
高次脳機能障害（失語症）	○	493.73	フク	2010	マンガ家が描いた失語症体験記　高次脳機能障害の世界	福元　のぼる／著 （イラストレーター） 福元　はな／著 渡邉　修／解説・監修 （首都大学東京教授）	本人	医歯薬出版	なんで文章が書けないの？　なんで話せないの？　脳梗塞が原因で高次脳機能障害を発症したマンガ家が、発症前後から回復期を経て現在に至るまでの出来事や心の変化などを描く。高次脳機能障害の基礎知識も収録。 （本人が書いた絵に妻が文字を代筆する形で漫画化したもの。専門家による解説付き。）
脳性マヒ	○	493.73	ホイ	2011	やればできるさYes, You　Can.　ホイト親子、夢と勇気の実話	ディック・ホイト／著 （一般人） 大沢　章子／訳	父	主婦の友社	脳性麻痺の息子リックの車いすを押し、ボストンマラソンをはじめとする数々のレースに出場して好記録を出し続けるホイト親子。立ちはだかる数々の壁を、努力によって打ち破ってきたリックとその家族の物語。 （息子リックは出産時のトラブルで脳性マヒとなる。父親とともに千回以上のレースに出場。）
事故による記憶障害	×	493.73	ホツ	2013	記憶障害の花嫁	北海道放送報道部取材班／著	テレビ局	小学館	交通事故が原因で、車椅子生活を余儀なくされ、重度の記憶障害を抱えた、つかささん。愛する男性とめぐり会い、結婚、出産という夢を成し遂げるまでのドキュメンタリー。
くも膜下出血	×	493.73	マチ	2013	十年介護	町　亜聖／著 （フリーアナウンサー）	娘	小学館	日本テレビの女子アナウンサーという、一見華やかな表舞台の裏には、一家を支えながらの10年にも及ぶ母の介護生活があった…。ばらばらだった家族が、母の介護をきっかけに再生。家族の絆を考えさせられる感動の物語。 （父と母の看取りあり、『十八歳からの十年介護』（武田ランダムハウスジャパン　2011年刊）の改題，大幅に加筆改稿したもの）
オリーブ橋小脳萎縮症	○	493.73	マツ	2013	難病の背景　オリーブ橋小脳萎縮症闘病記	松下　良子／著 （一般人）	本人	アットワークス	病名不明の症状に苦しみ、理解のない医師に悩まされる日々。やっと病名が判明するも、それは「オリーブ橋小脳萎縮症」という治療法の確立していない難病だった…。難病とともに生きる著者が、今までの道程や患者の想いを綴る。
脳出血（左半身麻痺）	○	493.73	マツ	2013	私は負けない　生きていればなんとかなる！	松田　津佐子／著	本人	文芸社	過労がたたり、突然の脳出血。左半身麻痺という重い障害をかかえながらも、その現実と向き合い、厳しいリハビリを乗り越えていく闘病の記録。福祉のあり方にも疑問を投げかけてくる1冊。
脳卒中	○	493.73	ミツ	2014	奇跡のはじまり　ある音楽家の革命的介護メソッド	みつとみ　俊郎／著	夫	新潮社	動けた、歩けた、絵が描けた。脳卒中で倒れた妻に、お手製のメソッドを次々に試みる夫。やがて、自らの音楽活動の延長線上に「奇跡」が待っていたー。妻の病床で実証した「みつとみメソッド」の誕生秘話を紹介する。
ギラン・バレー症候群	○	493.73	ミヤ	2013	ノクターン2007　私とギラン・バレー症候群	宮城　房夫／著	本人	長嶺紀昭	（風邪や発熱、体や顔が思うように動かないなどの症状があり、何度か受診を繰り返した結果、ギランバレー症候群と判明。入院し、治療とリハビリを始める。退院後も通院と体力づくりを続け、着実に回復していく過程を綴る。入院中の生活や回想などもまじえた内容）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
脳性マヒ	○	493.73	ミウ	2013	叶うなら娘より一秒長く生きたい！！　セーラーズ母娘物語	三浦　静加／著	母	講談社	80年代の若者から絶大な支持を受けたファッションブランド「セーラーズ」。生みの親である女性社長が、栄光も華々しい交流も放り投げ、ハンディキャップを持って生まれた一人娘と向き合うために生きた14年間を綴る。
副腎白質ジストロフィー（ALD）	○	493.73	ミカ	2013	こころ詩　信じること思うことそして起きたこと	三瓶　正太郎　・　道代／著	本人 母	北水	難病である副腎白質ジストロフィー（ALD）と戦い続けている家族の愛と勇気の物語。弟から骨髄移植を受け、介護を受けながらこころの詩をつくり続けている正太郎君の作品も収録する。
脳卒中	○	493.73	ミツ	2014	奇跡のはじまり　ある音楽家の革命的介護メソッド	みつとみ　俊郎／著	夫	新潮社	動けた、歩けた、絵が描けた。脳卒中で倒れた妻に、お手製のメソッドを次々に試みる夫。やがて、自らの音楽活動の延長線上に「奇跡」が待っていたー。妻の病床で実証した「みつとみメソッド」の誕生秘話を紹介する。
脳腫瘍	○	493.73	メナ	2014	人生という教室　プライオリティ・リストが教えてくれたこと	ダヴィード・メナシェ／著 （教師） 川田　志津／訳	本人	東洋出版	脳腫瘍に冒され余命宣告を受けた教師メナシェは、6年に及ぶ闘病の末、教職を去る。しかし教育者であり続けることを諦めなかった彼は、全米に散る元教え子たちに会うため、最期の旅に出た。彼がたどりついた人生の教訓とは？
脳卒中	○	493.73	モリ	2001	心が動く　脳卒中片マヒ者、心とからだ15年	森山　志郎／著 （旭化成工業札幌支社長在任中に入院し退社、障害者の会の事務局長に）	本人	荘道社	現役中に突然襲った脳梗塞。以来リハビリの迷路に落ち込みながらやがて「障害を持つ今の自分」を「あるがままに」認めて生きるという境地に至った著者の心の軌跡を描く。
脳性マヒ	×	493.73	ヤス	2013	仕合わせの糸　脳性麻痺青年との二ケ月	安川　禎亮／著 （臨床心理士／北海道教育大学大学院教育学研究科淳教授）	教員	北樹出版	「お、お、お宅の生徒さんに半年前に絡まれて、鬱状態になりました。な、な、なんとかしてください」 清盛との出会いはこの苦情電話で始まったー。中学校の生徒指導部長だった著者が、脳性麻痺青年とのふれあいの日々を綴る。
高次脳機能障害	○	493.73	ヤマ	2004	壊れた脳生存する知	山田　規畝子／著 （医師）	本人	講談社	（医学生時の一過性虚血発作と脳出血で「モヤモヤ病」が判明、その後病院の院長となってから34歳で脳出血と脳梗塞の併発、高次脳機能障害となり外科医復帰を断念。さらに勤務医となってからも37歳で三度目の脳出血と、度重なる脳出血、孔嗣脳機能障害の諸症状を乗り越え、結婚や子育てをし、社会人としても復帰していく過程を本人が綴る。）
慢性炎症性脱髄性多発神経炎（CIDP）	○	493.73	ヤマ	2006	みゆうの足（あんよ）パパにあげる	山口　隼人／著 （一般人）	本人	日本文学館	（25歳のときに発病。当初、ギラン・バレー症候群と診断され入院していたが、CIDP（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）との再診断がくだる。転院し、神経生検やステロイド点滴治療を受け、およそ1年にわたる入院生活を終えて退院。入院中の生活から退院後の生活までを綴る）
高次脳機能障害	○	493.73	ヤマ	2013	高次脳機能障害者の世界 私の思うリハビリや暮らしのこと （改訂第2版）	山田　規畝子／著 （医師）	本人	協同医書出版社	「脳が壊れてそれまでやっていた働きができなくなる」という高次脳機能障害をもって生きる著者が、日々の暮らしやリハビリ、自分の願いなどについて綴る。医療者や当事者らのコラムを加えた改訂第2版。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
脳出血	○	493.73	ヨシ	2013	**こっちに、おいで… 可能性を信じて！！失語症・右半身不随・高次脳機能障害との闘い**	吉村 正夫／著	本人	風媒社	46歳の時、脳内出血で失語症、右半身不随、高次脳機能障害を患った元高校教諭が、倒れてからの3年半の闘いを綴る。本人直筆の文書や、リハビリの写真も多数収録。
脊髄小脳変性症	○	493.73	ヨネ	2013	**みぞれふる空 脊髄小脳変性症と家族の2000日**	米本 浩二／著 （新聞記者）	夫	文芸春秋	妻が倒れた。原因も治療法も不明の難病、脊髄小脳変性症との闘いが始まった。働き盛りの新聞記者である夫が、妻の介護と思春期の2人の娘に向き合った魂の記録。『毎日新聞』福岡都市圏版などに連載した文章に加筆して書籍化。
失語症	○	493.73	ロコ	2013	**夫はバイリンガル失語症 日本語教師が綴る闘病と回復の五年間**	ロコバント靖子／著 （日本語教師）	妻	大修館書店	日本語堪能なドイツ人大学教授である夫が脳梗塞で倒れ、失語症に。職場復帰のため、日本語を取り戻そうと、日本語教師の妻は病院の言語リハビリと並行して、家庭での言語訓練を開始した。症状とその回復過程を書き留めた記録。
脊髄腫瘍	○	493.731	シヨ	2011	**七つの奇跡 フルマラソンへの挑戦**	城之内 信吾／著 （元オートバイレーサー）	本人	ゆいぽおと	鈴鹿ロードレース選手権GP125クラス決勝で起きた事故で車椅子生活を宣告された著者。オートバイとの出合いから脊髄損傷を乗り越え、苦悩と迷いの日々を経て、フルマラソンを完走するまでを力強く綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.74		機能的神経疾患．神経症							
てんかん	○	493.74	カト	2013	扉の前で　てんかん青年就職活動記	加藤　ヒロト／著 （一般人）	本人	文芸社	（大学3年生の時にてんかんの大発作で左肩を粉砕骨折してからの３年間、就職活動を主とする本人による記録。）
てんかん性精神病（原因不明）	○	493.74	タカ	2011	大切なあなたへ　ー妻を救ったのは薬でも機械治療でもなかった	高村恋うたろう／著 （会社員）	夫	文芸社	（夫による精神病の妻の闘病記。もともとうつ病を患っていた妻が、睡眠薬を大量服薬したことをきっかけに入院。幻聴や幻覚、自傷行為、記憶障害など壮絶な症状の出る原因不明の精神病となる。てんかんの大発作をきっかけに回復。）
難治性てんかん（脳梁切断手術）	○	493.74	フシ	2012	香名とともに泣いて笑って２３年	藤井　洋子／著 （一般人）	母	文芸社	（3歳の健診で染色体異常による知的障害があると分かり、小学5年生からてんかんの発作がはじまる。中学3年からは1日80～100回の発作で倒れ、24時間つきっきりになって7年後、脳梁切断手術に踏み切る。母親による手術後の闘病日記。）
性同一性障害	○	493.74	ヤス	2012	おにゅーのオンナ道	やすみん／著 （商品プロデュース、ファッションコメンテータなど）	本人	飛鳥新社	ニューハーフとして、人とのご縁を大切にしながら前向きに人生を生きてきたやすみんが教える「おにゅーのオンナ道」。自分という代名詞でしっかり人生を切り開き、ハッピーに生きる極意を綴る。 （本人が、成長過程、恋愛、仕事での様々な体験を通して得た「年齢や性別を気にせず、自分のニューワールドを突き進んでハッピーに生きる」ための術を語る。）
パーキンソン病	○	493.74	ヤナ	2013	私もパーキンソン病患者です。高齢障害者医療や介護保険制度の行く末	柳　博雄／著	本人	三五館	パーキンソン病と診断された元新聞記者が、まさかの「わが老後生活」をルポしたノンフィクション。進行する「弱者切り捨て」と「格差社会」の未来を読む。毎日新聞記者との対談等も収録。
性同一性障害	○	493.74	ヤマ	2013	男になりたい！	山岸　ヒカル／著 （漫画家）	本人	中経出版	ずっと1人ぼっちで戦ってきた「隠れ男の子」が、大切な友人と恋人を得て、本当の自分の人生を歩き出すまで…。「男になりたい女の子」の著者が、これまでの日々を綴ったコミックエッセイ。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.75		器質的精神病							
アルツハイマー病/脳溢血	○	493.758	シン	2013	生きている喜び　認知症と脳卒中を患った夫とともに	神保　タミ子／著	妻	幻冬舎ルネッサンス	大学で心理学の教鞭を執っていた夫が、定年後、認知症になった。妻である著者はショックを受けるが、夫と過ごす一日一日を大切にしようと決意する…。介護問題、命の尊厳や家族の絆、愛について考えさせられる感動の手記。
若年性認知症(ピック病)	×	493.758	アラ	2013	若年認知症になった夫と生きぬいて　8000日の夜と朝	新井　雅江／著	妻	harunosora	夫は前頭側頭型(ピック病)の若年認知症により、記憶力の低下や見当識の障害だけでなくさまざまな異常行動を示すようになった…。2011年に夫が急逝するまでの、22年間の介護の記録を綴る。
若年性アルツハイマー型認知症	○	493.758	アミ	2012	あみちゃんのお父さん　若年性アルツハイマー型認知症：働きたいのに働かれへん病気のおはなし	角　淳一／語り部 (フリーアナウンサー) 若野　達也／文 (認知症フレンドシップクラブ)	啓発絵本	西日本出版社	(若年性アルツハイマー型認知症について知ってもらうための絵本。若年性認知症の応援歌を歌うロックバンド『おかん』のCD付き。「若年認知症サポートセンター絆や」「認知症フレンドシップクラブ」の協力。)
アルツハイマー型認知症	○	493.758	アラ	2009	「アルツハイマー」からおかえりなさい	荒井　和子／著 (一般人・闘病の夫は医師)	妻	ポプラ社	夫がアルツハイマーになり、60数年連れ添った夫婦に危機が訪れた。絶望的な思いにとらわれながらも夫を支える妻。ところがある日…。夫のアルツハイマー発病から闘病の日々、劇的な回復までを綴った妻の手記。
若年性アルツハイマー型認知症	×	493.758	イス	2012	若年性アルツハイマー病全過程の症状と介護　妻の生活の充実をめざして	出雲　晋治／著 (元教員)	夫	クリエイツかもがわ	(若年性アルツハイマーを発症して11年間の妻の介護について、夫による日記形式の記録と、夫が考える介護の原則などを綴ったもの。妻は食べ物を詰まらせてしまい70歳で急逝。)
認知症	○	493.758	イツ	2011	いつもおおきん　認知症一行詩と歩く若狭町	福井県若狭町／編	コンクール作品集	北星社	認知症に対する理解と関心を高めるために、福井県若狭町が実施している「平成22年度認知症一行詩全国コンクール」の入賞作品を収録。若狭町案内マップも掲載。
認知症	○	493.758	イノ	2012	母の最終章	井上　久子／著 (フラワーデザイン講師)	娘	文芸社	(母親は81、2歳のころから認知症の症状を示し始める。本書はその後の、91歳のとき(2006年)から96歳で亡くなるまでの出来事をつづった、娘の日記)
若年性認知症	○	493.758	オオ	2008	妻が「若年認知症」になりました限りなき優しさでアルツハイマー病の妻・正子と生きる	大沢　幸一／著 (県会議員)	夫	講談社	最愛の家族が「認知症」になった時、あなたはどうしますか？　現職の群馬県議である著者が、認知症患者とその家族が直面する様々な問題と介護の悲喜劇を、時に哀しく時に優しく、ほのかにユーモアを交えながら伝える。

認知症	○	493.758	オカ	2012	**ペコロスの母に会いに行く**	岡野　雄一／著 （漫画家）	母	西日本新聞社	なあ、ユウイチ。ボケるとも悪か事ばかりじゃなかかもしれん…。62歳の漫画家が、父が亡くなった年から「少しずつ忘れていく」認知症の母との可笑しくも切ない日々を淡々と描く。
アルツハイマー型認知症	○	493.758	カイ	2013	**老王の家　アルツハイマー病の父と私**	アルノ・ガイガー／著 （作家） 渡辺一男／訳		新日本出版社	オーストリアの作家アルノ・ガイガーが、父親のアルツハイマー病発症をきっかけとして父親を再発見する自伝的作品。父親の子ども時代の村での生活ぶり、ナチスの時代、著者自身の子ども時代の記憶、家族の歴史などを綴る。
認知症	×	493.758	コウ	2011	**認知症の「こころ」を生かす明るい介護　介護おもしろ話**	高草木〔ケイ〕子／著 （民踊教室講師）	娘	文芸社	（94歳で認知症となった母（100歳で亡くなっている）の介護体験を、娘が、「おもしろエピソード」を中心に紹介。夫が悪性リンパ腫の胃部での再発で死去するエピソード、母の臨終の様子あり。）
認知症	×	493.758	サワ	2013	**ハッピー！介護　猫の手☆エンディングノート**	さわだ　さちこ／著 （こどもの本のコーディネーター）	娘	さくら舎	元気でオシャレな母が認知症に。ちょっぴりのボケから、ショックな出来事、そして寝たきりに…。こどもの本のコーディネーターである著者が、自らの体験を猫のイラストで描く。母の好きだった絵本、おすすめの本なども紹介。 （母は97歳で亡くなり、葬儀やお墓のこと、その後の生活の記録も。）
認知症	×	493.758	タカ	2011	**ああ認知症家族　つながれば、希望が見えてくる**	高見　国生／著 （公益社団法人・認知症の人と家族の会　代表理事）	息子	岩波書店	いま、認知症の人は200万人以上。その家族の多くは極度の辛さ、やるせなさを感じている。「認知症の人と家族の会」の代表を務める著者が、豊富な事例を振り返りながら、家族同士の交流の大切さや具体的な知恵などを語る。 （息子による母の闘病の記録（発症から死去まで）と、「家族の会」の誕生と活動、認知症の理解と介護について。）
アルツハイマー型認知症	×	493.758	タチ	2010	**手をつなぐ認知症介護　かくさず、おくさず、みんなのなかへ**	立花　美江／著 （一般人）	妻	かもがわ出版	夫が認知症を発症してから看取るまでの10年間、はじめて聞く病にとまどいながら、迷い、怒り、諦め、しかし深い愛情をもって寄り添い、介護を続けた妻の手記。 （夫は58歳頃にアルツハイマー型認知症を発病、誤嚥性肺炎により73歳で死亡）
アルツハイマー型認知症	○	493.758	ナカ	2009	**待ってくれ、洋子**	長門　裕之／著 （芸能人）	夫	主婦と生活社	「昨日の洋子に戻ってくれ。神様、この時計をもういっぺん巻き戻せませんか？」 俳優・長門裕之が、妻・南田洋子の介護の現実を描く。夫婦の絆、老いの真実が胸を打つ感動ルポ。
若年性認知症（ピック病）	○	493.758	ナカ	2011	**ぼくが前を向いて歩く理由　事件、ピック病を超えて、いまを生きる**	中村　成信／著 （茅ケ崎職員をピック病由来の万引きにより懲戒免職、その後撤回。現在は通院の傍ら通所介護事業所にてボランティア活動中。）	本人・妻	中央法規出版	1人の行政マンを襲った突然の悲劇。万引きによる現行犯逮捕、それは若年認知症（ピック病）の症状によるものだった。混乱、苦悩、偏見のなかで、家族がどのように再生を果たしていったかをつぶさに綴った、感動の手記。 （本人や妻の回想・思いを「語りの文」として収録。2人や関係した方々へのインタビューも織り交ぜて展開。）

アルツハイマー型認知症	○	493.758	ナカ	2013	**昌枝、俺の人生をおまえにあげる　アルツハイマー型認知症の妻との在宅介護20年**	中野　則行／著 （一般人）	夫	現代書林	発症時の具体的なエピソードから、アルツハイマー型認知症の終末期（Ⅲ期）に入った現在の状況まで、20年にわたって妻の認知症と向き合ってきた経験を語る。実体験から生まれた、介護のための知恵とコツが満載。 （認知症の妻を介護する夫の、自分の半生と介護生活の記録。）
認知症	×	493.758	ハヤ	2012	**認知症を楽しく生きる**	林　栄子／著 （看護師）	義理の娘	文芸社	（姑は昭和57年77歳のときに多発性脳梗塞による認知症となり、平成8年92歳のときに他界。本書は昭和62年から亡くなるまでの間の、義理の娘による介護体験記。『ばあちゃんは霧の中』と『みごと胎児に戻るまで』の一部を割愛・追筆し、合本したもの）
認知症	○	493.758	フシ	2011	**カイゴッチ38の心得　燃え尽きない介護生活のために**	藤野　ともね／著 （ライター）	娘	シンコーミュージック・エンタテイメント	認知症の父を介護する娘が「認知症」「介護者の知恵」などのテーマ別に、介護の失敗談やトラブル解決法などを綴る。介護人が知っておきたい知識等も紹介。チェックシート付き。ブログ『フンコロガシの詩』を書籍化。
認知症	○	493.758	フラ	2012	**扉を開く人クリスティーン・ブライデン　認知症の本人が語るということ**	クリスティーン・ブライデン／著 認知症当事者の会／編著 永田久美子／監修 （認知症介護研究・研修東京センター）	本人	クリエイツかもがわ	46歳で認知症と診断された女性クリスティーン・ブライデンが講演で語った言葉や、それをきっかけに起きた出来事、医療やケア、行政の現場で起き始めた変化などを紹介。クリスティーンが寄せたメッセージやQ＆Aも収録する。 （日本における認知症当事者発信についても記載。）
アルツハイマー型認知症	○	493.758	マサ	2012	**親送り　アルツハイマー歴二十年**	正木　ふゆみ／著 （一般人）	娘	文芸社	（長年の介護を通して、介護は子育てと同じで、“親送り”という当たり前の行為だと思えるまでに至った、著者が綴るエッセイ。 68歳の時にアルツハイマー中期と診断され、86歳を迎えた母親の現在や思い出を娘が綴る。）
アルツハイマー型認知症	○	493.758	ミス	2007	**ブログ「認知症一期一会」 認知症本人からの発信**	水木　理／著 （一般人） 認知症の人と家族の会／編	本人	クリエイツかもがわ	「認知症」と宣告されて3年、ブログを書き始めて2年半、「蟄居」という生き方をしてきた著者が、「この病」と二人三脚で過ごしてきた日々を綴る。ブログ『認知症一期一会』に、講演での発言やインタビューを加え単行本化。 （アルツハイマー型認知症の本人が書いているブログを書籍化したもの。社団法人認知症の人と家族の会での発言やインタビュー、認知症に関する本人おすすめの本の紹介も収録。）
認知症	×	493.758	ムラ	2011	**認知症の「私」が考えること感じること　高齢者介護施設の現実と希望**	村田　光男／著 （弁護士）	弁護士によるレポート	けやき出版	様々な理由で介護施設に入居する、させられる高齢者たち。人生の最期の最期に立ちはだかる現実を知ってほしい－。10年以上にわたり介護施設の現状をつぶさに見てきた弁護士が、認知症の高齢者に代わり施設の問題点を訴える。
アルツハイマー型認知症	○	493.758	ヤノ	2011	**ママちゃんおはよう**	矢野　誠一／著 （一般人）	夫	文芸社	（アルツハイマーの妻を在宅介護する夫が、闘病生活を綴る。アルツハイマー病発症前後の時期から、現在に至るまでの記録と現状を記録したもの。実際に在宅介護に携わる人にとっても、参考になる1冊。）
認知症ほか	×	493.758	ヨシ	2012	**マムと笑いの天才爺ちゃん**	吉岡　マム／著 （ホームヘルパー2級取得後、訪問介護を経て、特別養護老人ホーム勤務）	義理の娘	文芸社	（在宅看護で大事なのは、無理をしない思いやりと、ほんの少し距離を置いて見守ることではないか…と著者は綴る。大腸がんで手術をし、その後認知症になった義父を、亡くなるまで在宅で介護した記録.）

493.76		心因精神病．機能的精神病							
アルコール依存症	○×	493.76	カサ	2013	ただいま回復中…？	風見　豊／著	支援センター設立者	クムラン	見かけによらず真面目な孝二、棘とげしさが無くなってきた睦子、ドっぷり鬱から抜け出した昭男…。アルコール依存症者の自立支援センター「いばしょ」の設立者である著者が、心に残った風景を記録する。
アルコール依存症	○	493.76	アル	2012	アルコホーリクス・アノニマス　無名のアルコホーリクたち　改定版	AA日本出版局／訳編	本人ら	AA日本ゼネラルサービスオフィス	（アルコール依存症からの回復プログラムを受けた方々の体験記。アルコール依存症者の共同体「アルコホーリクス・アノニマス」の基本テキストとして1939年の初版より版を重ね（日本語版の初版は1979年）、多くの方の回復を助けてきた図書の日本語版改定版。前書きに、「私たちがどのように回復したかを、まさにそれがあったとおりにほかのアルコホーリクに伝えることが本書の主な目的である」とある。）
愛着障害	○	493.76	イシ	2014	じつは私、摂食障害の子をもつ母親なんです	石原　朱理／著	母	幻冬舎ルネッサンス	娘が「摂食障害」になった。家族全員の迷走、家庭内バトルの勃発…。崩壊しかけた家族が再び手を取り合い、病気を克服してゆくまでの2000日を綴る。巻末に母娘インタビューも収録。ブログの日記を書籍化。
パニック障害	○	493.76	キタ	2012	途中下車　パニック障害になって。息子との旅と、再生の記録	北村　森／著 （元編集長・現在は地域おこしアドバイザー、講演活動、サイバー大学客員教授ほか）	本人	河出書房新社	「電車に乗れない…」 敏腕編集長を突然襲ったパニック障害。会社を辞め、息子とのふたり旅を何度も繰り返しながら、病気と闘い、家族の再生を目指した実体験を綴る。
双極性障害	○	493.764	サカ	2013	坂口恭平躁鬱日記	坂口　恭平／著	本人	医学書院	僕は治ることを諦めて、「坂口恭平」を操縦することにした－。「躁」期のきらびやかな才能の奔出。「鬱」期には強固な自殺願望に苛まれ、外出もおぼつかない…。病に悩まされてきた著者が綴る、涙と笑いの当事者研究日記。
パニック障害	○	493.76	タカ	2009	パニックマン　ある体育教師のパニック障害克服記	高尾　淳／著 （教師）	本人	新潮社	強面で柔道家の体育教師が、突然、意外にもパニック障害になってしまった！？　男は、飛行機や新幹線に乗れなくなったことを隠し続けていたのだが…。「パニック発作」との6年にわたる攻防を、軽妙に描いた体験談。
摂食障害	○	493.76	トオ	2014	摂食障害。食べて、吐いて、死にたくて。	遠野　なぎこ／著	本人	ブックマン社	これは、ダイエットではなく心の病－。女優、遠野なぎこの個人的経験に基づいた摂食障害、強迫性障害、身体醜形障害、その他依存症等についての記録と考察、同じ苦しみを経験している人々へのメッセージをまとめる。
心的外傷後ストレス障害（PTSD）ほか	○	493.76	ナカ	2013	マイ・レジリエンス　トラウマとともに生きる	中島　幸子／著 （NPO法人レジリエンス代表・米国ソーシャルワーク修士号取得）	本人	梨の木舎	耐え難いうつ、PTSD、解離…。パートナーからの暴力（DV）から逃れた後もつづく生き難さ。深い傷を抱えながら生き抜く著者が、自身の体験を振り返りながら、傷を癒し自分自身を取り戻していった過程を語る。 （19歳から24歳の間に受けたデートDVによる）

愛着障害	○	493.76	ハヤ	2012	**赤信号は点滅を続ける　愛着障害の治らない傷**	早川　幸恵／著 （一般人）	本人	幻冬舎ルネッサンス	（生まれてすぐ乳児院に入所し養護施設で育ち、5歳で里親家庭に引き取られる。愛着障害、そこから派生した不安障害と闘いながら、サポート校で学校生活を送る。DVを受けた体験など、主に学校での恋愛関係をめぐる体験談。）
パニック障害	○	493.76	ホリ	2012	**もう大丈夫パニック障害でもがんばれる！**	ほりみき／著 （イラストレーター） 貝谷久宣／監修	本人	講談社	ある日、とつぜん襲った激しい発作。検査しても異常ナシ。たどりついた心療内科で受けた診断は「パニック障害」だった…。パニック障害との闘いをマンガで綴る。専門家による詳しい解説も掲載。 （パニック障害研究センター長の解説）
統合失調症ほか	○	493.763	ウラ	2005	**べてるの家の「当事者研究」**	浦河べてるの家／著	本人ら	医学書院	（主に精神障害をかかえた17歳から70代までの100人以上の当事者が多種多様な活動をおこなっている「浦河べてるの家」で2001年から行なわれている「当事者研究」の成果をまとめたもの。）
統合失調症ほか	○	493.763	オカ	2012	**それはノイローゼからはじまった**	岡本　健／著 （一般人）	本人	文芸社	（本人による手記。高校生のころから強迫神経症になる。社会人になってからも視線恐怖や妄想に悩まされ、入退院を繰り返す。41歳のときに統合失調症と診断され、入院。退院後はパート社員として務めていたが、バブル崩壊をきっかけに失職。以降はデイケアセンターに身を寄せている）
統合失調症	○	493.763	カシ	2008	**白樺の傷　統合失調者の手記**	柏樹　弘二／著 （一般人）	本人	杉並けやき出版	狂人と言われたくないー。泣きもした、笑い、悲しみ、そして自分の一生は紙屑と思った。書き始めて40数年、精神統合失調症を抱える著者がコツコツと残した、生きた証。 （本人と「蘭」の会会員数名による手記。）
統合失調症	○	493.763	カワ	2006	**ぼくは統合失調症**	川村　実／著 （フリーター）	本人	雲母書房	精神病という病気はショックが大きい。入院してから15年が過ぎたが、その間、ただぼんやりと生命現象が続いていただけだった…。37歳で統合失調症にかかった著者から、当事者と家族へ向けた真摯なメッセージ。 （本人の手記と、他の患者や家族への助言、病への思いなど。）
解離性同一性障害（多重人格）	○	493.763	ケイ	2006	**わたしは多重人格だった　セラピストと歩んだ人格統合への道**	ジョーン・フランシス・ケイシー／著 （秘書）	本人	白揚社	幼児期から30歳近くになるまで、多重人格性障害者だった実在の女性の自伝。24の人格の統合に成功した彼女が、不安と混乱の中から真実の愛と勇気を得て立ち上がるまでを、セラピストの臨床記録を織り込みながら描いていく。 （セラピストによる診療日記が付されている）
統合失調症	○	493.763	コハ	2012	**僕は統合失調症という精神障害を持っている　悲観的で哀愁の引き籠り信規です**	小林　信規／著 （一般人）	本人	ほおずき書籍	（統合失調症の本人が、自分の普段の姿や考え方を、1ページに一言の形式で語る。ページ下部に本人による簡単な補足説明。全ての漢字にふりがな付。）

統合失調症	×	493.763	トウ	2013	**当事者が語る精神障害とのつきあい方 「グッドラック！統合失調症」と言おう**	佐野　卓志／著　森　実恵／著 松永　典子／著　安原　荘一／著 北川　剛／著	本人ら	明石書店	男女7人の精神障害の当事者が、自らのライフヒストリーを綴る。精神障害者の実像を知るのに役立つだけではなく、現代人が直面する「生きづらさ」「生き苦しさ」を打開するヒントに満ちた一冊。 （性描写や周囲の人が亡くなる描写もある）
統合失調症	×	493.763	ナツ	2014	**もうひとつの「心病む母が遺してくれたもの」 家族の再生の物語**	夏苅　郁子／著 （精神科医）	娘	日本評論社	家族との葛藤で苦しんでいるあなたへ－。家族の中に問題を抱えた人がいた場合、それが家族にどんな影響を与えるのか。精神医療はこのままでよいのか。過酷な運命をたくましく生き抜く精神科医が自らの経験をもとに綴る。
統合失調症ほか	○	493.763	ムカ	2009	**技法以前　べてるの家のつくりかた**	向谷地生良／著 （「浦河べてるの家」設立人、北海道医療大学教授）	ソーシャルワーカー	医学書院	精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点「浦河べてるの家」でのソーシャルワーカーとしての実践を、具体的な場面をまじえてつづる、まったく新しい実践的「非」援助論。
統合失調症	○	493.763	ムラ	2009	**精神障害の子とともに　ある家族の記録**	村岸　基量／著 （一般人）	父	文芸社	（いじめや父親による叱責に翻弄され、統合失調症を発症した長男と、家族との生活を、父親が懺悔の気持ちを胸に語る。）
統合失調症	○	493.763	モリ	2013	**恋文　統合失調症を生きる**	森重　陽子／著 （一般人）	本人	文芸社	（恋愛が原因で発症した統合失調症で閉鎖病棟に入院した経験をもつ著者が、自身の体験や思いをつづった前半と、許されぬ恋の相手との往復書簡を収録した後半。）
統合失調症	○	493.763	ヨコ	2013	**親ケア奮闘記　がんばれ、母さん。たのむよ、父さん。**	横井　孝治／著 （介護アドバイザー、株式会社コミュニケーター代表取締役）	両親	第三文明社	一人息子の私は、親元を離れ、妻と娘の3人暮らし。そこにかかってきた1本の電話から、私の遠距離介護がはじまった…。介護アドバイザーが自身の介護体験を綴る。「使える介護術」も満載。Webサイト連載を再編集し書籍化。
統合失調症	○	493.763	リユ	2012	**統合失調症体験事典**	竜人／著 （NPO法人「精神をつなぐ・ラグーナ」を設立し、雑誌『シナプスの笑い』を刊行。ラグーナ出版編集部に勤務。）	本人	ラグーナ出版	（1981年生まれの著者は2004年に勤務先で統合失調症を発症し、地元に戻って入院。その体験を専門医学の用語ではなく、自分の言葉で定義した事典形式の読み物。幻覚や妄想など、精神医学の専門用語では「異常体験」といわれる現象を、体験した著者自らが捉えなおし、どのようなことが実際に起きているかを伝える。巻頭に精神科医による解説、著者による「統合失調症を抱えるあなたへ贈る7つのエッセイ」、本編として「統合失調症体験事典」（あいうえお順）、巻末に著者が自身の激しい幻覚妄想を記録することで生まれた『真・霊界大戦』を掲載。）

双極性障害	○	493.764	ｱﾂ	2014	**双極性障害と闘う**	熱海　芳弘／著	本人	無明舎出版	うつ病などと違って、十分周知されていない「躁うつ病」双極性障害。病気が原因で失職した元新聞記者が、この病気や精神医療について客観的に綴る。著者流の再発予防のコツや、精神科医による解説も収録。
うつ病・うつ性慢性疼痛	○	493.764	ｳﾁ	2013	**うつサバイバー　慢性うつからの回復**	内村　カエ／著	本人	幻冬舎ルネッサンス	うつ病、皮膚や体の痛み、共依存…。精神科医の投薬と心理療法、アメリカ式EQセラピーのセラピストによって命を救われ、本当の自分を取り戻した著者が、幼少期のPTSDに起因する心の病からの、壮絶な回復過程を綴る。
うつ病・パニック障害・自律神経失調症	○	493.764	ｱﾍ	2009	**わたしは働くうつウーマン**	安部　結貴／著 （フリーライター）	本人	小学館	バリバリのキャリアウーマンが、過労をきっかけにうつ病になり、通勤と勤務が辛くなって会社を退社…。わたし、どうなっちゃうの？！　著者の実体験をマンガで綴る。
双極性障害	○	493.764	ｱﾍ	2012	**入院しちゃったうつウーマン**	安部　結貴／作 （フリーライター） 大葉リビ／まんが	本人	小学館	（16年間うつ病を患い寛解となったが、その後1ヶ月で双極性障害を発症し、40日間精神科病棟に入院した本人の体験、周囲の患者さんたちの様子を書いたコミックエッセイ。）
うつ病	○	493.764	ｲﾂ	2009	**うつから帰って参りました**	一色　伸幸／著 （脚本家）	本人	アスコム	「一色くん。きみは、うつ病だと思う」 びっくりした。この気鬱は、「気のせい」ではなかったのだ…。映画「病院へ行こう」など数々の作品を手がける人気脚本家による、笑いと涙のうつ病体験記。
うつ病	○	493.764	ｴﾉ	2012	**私はこうしてうつ病と向き合った初めてうつ病になった人へそしてうつ病の人と接する方々へ**	榎木　和彦／著 （会社員）	本人	東京図書出版	人事管理部門のエキスパートとして精神疾患の職員の職場復帰等に関わりながら、自らもうつ病に倒れた著者の7年におよぶうつ病闘病記。発症までの経緯や療養生活、再発、社会復帰のタイミングなどを詳細に記す。
うつ病	○	493.764	ｸﾄ	2013	**うつ病放浪記　絶望をこえて生きる**	工藤　美代子／著 （ノンフィクション作家）	本人＋他者へのｲﾝﾀﾋﾞｭｰ	講談社	死ぬ日を決めて遺書を用意したサラリーマン、発作の苦しさに泣き叫び暴れるOL、そして死んだ母と「会話」する私。うつ病と闘う作家が、その「知られざる実態」と「新たな希望」を克明に描き出す。『G2』掲載に加筆・訂正。 （うつ病のノンフィクション作家が、本人の経験と、うつ病の方へのインタビューをもとに書いた体験談。医師との対談もあり。）
躁病	○	493.764	ｺｺ	2012	**ここに幸男漂流記**	ここに幸男／著 （一般人・スーパーでアルバイト））	本人	文芸社	（仕事のストレスから躁病となり、以後約10年間にわたって3回の精神病院への入退院を経験した本人による記録。）

うつ病	○	493.764	シハ	2012	**うつ病から生還(サバイバル)したオタ(ク)の物語**	シバ・ショウゴ／著 (一般人)	本人	タルタルーガ社	あこがれの東京で就職したものの、転職・離婚・人間不信を経て、自殺失敗、強制入院、そして退院してホッとした拍子に回復…。うつ病を発症し、生ける屍となっていた著者が、うつ病から生還するまでを綴る。 (自身のブログをもとに出版したもの)
うつ病による自死の家族	×	493.764	シマ	2012	**クサンチッペの弁明　ツレがうつで死にまして**	島原　あきえ／著 (一般人)	妻	近代文藝社	残された家族にとっての「うつ病」とは。大切な人が苦しんでいる、大切な人を亡くしてしまった人へ。書き下ろしイラスト入り。
うつ病	○	493.764	スキ	2012	**うつ卒業レシピ**	杉山　奈津子／著 (一般人・執筆・講演活動)	本人	セブン＆アイ出版	(中学時代にうつ病を発し、東大卒業後は実家にて休養生活を送り、症状を回復させた著者が、自身がうつ病になるまでの過程や出た症状、うつと併発した症状、治療の過程、休み方のコツ、助けられたテクニックなどをまとめたもの。)
うつ病	○	493.764	トウ	2013	**ゆううつ部！**	東藤　泰宏／著 (ブログ「ゆううつ部」管理人)	本人＋他者へのインタビュー	ポプラ社	うつ病でありながら、うつからの回復を促す会社をおこした著者が、うつ病で苦しみ、そこから立ち直って社会に戻っていった9人へインタビューした、回復へのヒントと希望が詰まった記録。『ポプラビーチ』連載を書籍化。 (著者はIT業界での過労のためうつ病となり、1年半のうつ病ニート時代を経てブログ「ゆううつ部」を開設。その後起業し、仲間を集め、認知行動療法をウェブで行う「U2puls」を公開。現在も本人はうつ病闘病中だが、本書はうつ病から社会復帰を果たした周囲の仲間にインタビューをして作成したもの。)
うつ病	○	493.764	ハヤ	2013	**ウツ妻さん**	早川　いくを／著	夫	亜紀書房	ある日突然、あたりまえの会話ができなくなることを想像できますか？　発症した本人はもとより、家族をも苦しめる失語症。失語症者とその家族が、戸惑い、悩み、苦しみ、助け合ってきた10年をまとめた奮闘記。
うつ病・パニック障害・双極性障害(Ⅱ型)	○	493.764	フシ	2009	**やっぱり今日も病んでいる(注)うつ病**	藤臣　柊子／著 (漫画家・エッセイスト)	本人	ウェッジ	うつ病、パニック障害、双極性障害Ⅱ型…。漫画家でエッセイストの著者が、「脳みそ系」の病と人生の半分を過ごした“うつ人生”のすべてを赤裸々に語る。
双極性障害(Ⅱ型)	○	493.764	フシ	2013	**そううつなんです、私。**	藤臣　柊子／著 (漫画家)	本人	ポプラ社	鬱病だと思っていたら、躁鬱病(双極性2型)だった！　20年間鬱病と闘い続ける漫画家が、躁鬱病になってしまった生きづらい日常を描く。精神科医、大野裕とのスペシャル対談も収録。 (コミックエッセイ)
双極性障害・統合失調症	○	493.764	フス	2013	**ママは躁うつ病　んでもって娘は統合失調症デス**	文月　ふう／著 (一般人) 山国　英彦／執筆協力	本人	星和書店	(躁うつ病を患い離婚も経験、娘は統合失調症を発病した著者の経験を本人が漫画にしたもの。「主治医の解説」を多数挟む。)

うつ病	○	493.764	ホソ	2006	**ツレがうつになりまして。**	細川　貂々／著 （漫画家）	妻	幻冬舎	スーパーサラリーマンだったツレ（夫）が、ある日突然「死にたい」と言い出した！　嫁とともに送る生活の中で回復していく彼の姿を、ユーモアあふれるマンガで描く、純愛「うつ」ストーリー。 （単行本・文庫版の所蔵あり）
うつ病	○	493.764	ホソ	2009	**その後のツレがうつになりまして。**	細川　貂々／著 （漫画家）	妻	幻冬舎	（「ツレがうつになりまして。」の続編（文庫版）。うつ病となってから3年間の闘病生活を経て、回復していくまでの日々を描く）
うつ病	○	493.764	ホソ	2011	**7年目のツレがうつになりまして。**	細川　貂々／著 （漫画家）	妻	幻冬舎	サラリーマンだったツレ（夫）は、仕事のストレスが原因でうつ病に。7年間ゆっくりのんびり、自分のペースをつくってきたツレのその後は…。妻である著者が、夫婦がたどった道筋を漫画で綴る。
うつ病	○	493.764	マイ	2013	**仕事休んでうつ地獄に行ってきた**	丸岡いずみ／著	本人	主婦と生活社	キャリアと美貌、だれもが羨む人生の階段を上っていたある日、突如、始まった地獄への転落…。元日本テレビニュースキャスター丸岡いずみが、看板アナになるまでの道のりと、うつ病になってからの日々を綴る。
双極性障害	○	493.764	ヤカ	2012	**すぱいす**	八神双極／著 （一般人）	本人	文芸社	（27歳で双極性障害と診断された著者による半生の記録。）
双極性障害	○	493.764	ヨミ	2008	**私（わたし）のうつノート**	読売新聞生活情報部／著	新聞記者	中央公論新社	（読売新聞の記者が自己の双極性障害の闘病記を実名で綴った連載記事「私のうつノート」と、うつ病の情報を紹介した続編の連載記事「うつノート」をあわせて書籍化したもの。）
うつ病	○	493.764	ロツ	2013	**自殺の瀬戸際**	六本木　悟志／著	本人	文芸社	家庭内暴力、いじめ、うつ…。自らのつらい体験に、生きるヒントを見つけてほしい。もしかしたら、その少しのことで早期発見や自殺防止につながるかもしれない。“私の場合”を綴った瀬戸際エッセイ。
うつ病	○	493.764	ワキ	2006	**うつから現へ　今日よりまぶしい明日**	脇　るみ子／著 （一般人）	本人	PHPエディターズ・グループ	喪失、うつの発病、自責。いつしか「準備」はできていた。九死に一生を得、自らを死へと導いたうつとの対峙を決めた時、はじめて医師との信頼関係の大切さを意識した…。受けとめる医療との出会い、希望を取り戻すまでの手記。 （自殺未遂から回復まで）
うつ病（認知症も発症）	○	493.764	ワキ	2011	**希望のスイッチは、くすっ　うつ病の母に笑顔がもどった奇跡のはがき**	脇谷　みどり／著 （FMラジオのパーソナリティ）	娘	鳳書院	（うつ病と認知症を発症し自殺願望を持つ母親に、重度の脳性マヒの娘を介護しながら著者が1日もかかさず送り続けた「“くすっ”と笑えるはがき」約5000通の中から選んだものを1冊にまとめた。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
493.8		感染症							
慢性活動性EBウィルス感染症	○	493.87	フツ	2011	復活のマウンド　血液難病と闘った野球青年と『骨髄バンク8万人登録運動』の軌跡	戸田浩司／共著 （高知大学教育学部の学生から教師に） 坂本隆／共著 （教師） 骨髄バンク8万人登録運動高知／著	本人・教師	高知新聞社	（高知大学教育学部に入学し硬式野球部員となった戸田の突然の発症から、闘病、骨髄バンク8万人登録運動、弟からの末梢血管細胞移植とDVHDとの闘い、復学、復活当番、教員試験に合格し教師となった現在まで。戸田本人と高校時代の教師坂本との共著でのドキュメンタリー。）
エイズ	×	B/493.878	イシ	2013	感染宣告　エイズウィルスに人生を変えられた人々の物語	石井　光太／著	作家	講談社	エイズが「死の病」ではなくなった現在も、日本人HIV感染者の多くは人生を大きく狂わされ絶望のなかを生きている。恋愛、結婚、出産、家族関係、決して語られることのない生と性の現実とは。衝撃のノンフィクション。
エイズ	○	493.878	イワ	2011	ある日、ワタルさんはエイズになった。	岩田健太郎／作 （医師） 土井由紀子／絵	医師による啓発絵本	中外医学社	エイズを抱えながらも、“ふつうに働き、ふつうに暮らしている”ひとりの男性ー。実際のエイズ患者と向き合う感染症医・岩田健太郎が、エイズ患者「ワタルさん」の日常を包む静謐な風景を描く。 （エイズの人々を診察してきた医師による、１人のエイズの男性のふつうの暮らしを描く絵本。）
エイズ	×	493.878	ウテ	2006	ぼくもあなたとおなじ人間です。エイズと闘った小さな活動家、ンコシ少年の生涯	ジム・ウーテン／著 （ジャーナリスト）	ジャーナリスト	早川書房	世界に向けてエイズ患者差別撲滅を訴えた少年ンコシと養母の物語。驚くべき南アフリカのエイズ事情や社会背景を解説しつつ、ンコシの短くも勇気に満ちた生涯を共感豊かに描くノンフィクション。 （ンコシは死亡）

493.9		小児科学							
ダウン症	○	493.9	イワ	2008	**21番目のやさしさに　ダウン症のわたしから**	岩元　綾／著 （日本ダウン症ネットワーク理事	本人	かもがわ出版	21番目の染色体には、やさしさと可能性がいっぱい詰まっているー。ダウン症である著者が、誕生から幼児期、小学校・中学校・高校・大学時代、そして講演活動を続ける今日までの軌跡や、これからの夢について綴る。 （ダウン症の本人が、ダウン症者として初めて4年制大学を卒業するまでを記録。小児科医や発達相談員からの寄稿を含む。）
脳原性運動機能障害／自己免疫性溶血性貧血ほか	○	493.9	ウエ	2012	**まいらぶすとぉりぃ**	上森　恵美／著 （一般人）	本人	文芸社	（本人による半生記。生後8ヶ月で注射により「脳原性運動機能障害」となり、高校生でアトピー、20代で自己免疫性溶血性貧血を発症。30代で夫となる男性と出会い恋愛結婚、結婚後の生活、流産などのエピソードなどを綴る。）
ダウン症	○	493.9	ウツ	2009	**ぼくはダウン症の俳優になりたい　子育ては出会いと感謝に支えられて**	内海　智子／著 （フリーライター）	母	雲母書房	「知的障がいじゃなくて、スペシャルなんです！」 ミュージカル出演、映画デビュー、そして知的障がい児のプロダクション設立へー。ダウン症の長男を持つ母親による、子育てドキュメント。
脳性マヒ	○	493.9	オサ	2009	**わたし、生きるからね　重度障がいとガンを超えて**	小山内　美智子／著 （障害者自立生活センター札幌いちご会会長）	本人	岩波書店	脳性麻痺による重度の障がいを持ちながら生きてきた著者が、リンパ癌にかかり、二重の苦しみを経験する中で考えたことを綴る。ケアされる立場から医療と福祉の現実を鋭く批判するとともに、人間らしく生きることの意味を問う。
重度心身障害児	×	493.9	コタ	2012	**海のいる風景　重症心身障害のある子どもの親であるということ　新版**	児玉　真美／著 （翻訳家）	母	生活書院	（重症心身障害を持つ娘（当時14歳）の母親が、娘の海が「生まれるなり死にかけた日からほぼ14年間の出来事と、それらの出来事がその時々に母親である私にとってどういう体験だったかを書いたもの」。「十年の後ー新版刊行によせて」を加えた新版。）
ダウン症	○	493.9	タカ	2013	**アイちゃんのいる教室**	高倉　正樹／ぶん・しゃしん （読売新聞社）	新聞記者	偕成社	宮城県仙台市の小学校を舞台に、ダウン症のアイちゃんと通常学級の子どもたちが過ごす日常を写真とともに紹介する。『読売新聞』宮城県版連載をもとに単行本化。
ダウン症	○	493.9	タチ	2013	**ユンタのゆっくり成長記　ダウン症児を育てています。**	たちばなかおる／著 （マンガ家）	母	双葉社	ダウン症の長男・ユンタを筆頭に、やんちゃ盛りの男の子を3人育てている著者が、泣き笑いのバロメーターふりきれまくりの毎日をマンガで紹介。家族の絆と笑いが満載のハイテンション育児奮闘記。 （ダウン症の長男を出産してからの5年間の日々）
知的障害児	○	493.9	ハツ	2013	**母よ嘆くなかれ　新訳版　新装版**	パール・バック／〔著〕 伊藤　隆二／訳 （【バック】アメリカのノーベル文学賞作家・平和運動家）	母	法政大学出版局	「いつまでも子どものままの」わが娘と歩んだ母親パール・バックの愛と勇気の手記。知能の発育が困難な子どもへの社会の無理解と偏見に悲しみ苦しみながら、人間性の尊重を真摯に訴える不朽の名作。

小児がん	○	493.93	エス	2014	**幸せが見つかる23のヒント**	アルベルト・エスピノーザ／著 （映画監督・俳優・作家） 松枝愛／訳	本人	日本能率協会マネジメントセンター	がんが教えてくれたこと、それは幸せに生きるヒントだったー。「失うことはいいことだ」「痛みなんてものはない」「はじめての強み」など、著者が10年にわたるがんの闘病中に気づいた23の発見をまとめる。
小児がん（神経芽細胞腫）	×	493.93	スス	2011	**人生のそのときに心に刻む10のこと　働く父から息子へのメッセージ**	鈴木　中人／著 （一般人：ライフクリエイト研究所）	父	致知出版社	（長女を小児がんで亡くした父親が、娘の闘病と死の記録と、自身の記録をつづり、各エピソードごとに、それについて社会人になった長男へ書いた手紙を収録する形式。著者の父親は、長女の小児がん発病を機に、小児がんの支援活動・いのちの授業に取り組み、会社を早期退職して「いのちをバトンタッチする」ことをテーマにした発信を続けている。）
小児がん（親について）	×	493.93	タカ	2012	**小児がんを生きる　親が子どもの病いを生きる経験の軌跡**	鷹田　佳典／著 （法政大学非常勤講師）	社会学の研究者	ゆみる出版	命に関わるような重篤な疾患を持つ子どもの親たちは、子どもの疾患を自分自身の事柄として感得してしまうような現実を生きている。そうした親の語りを通し、新しい患者家族像を立体的・複眼的に描き出す。 （2010年3月の法政大学での博士号（社会学）論文「小児がんの子どもを持つ親の『病みの軌跡』に関する考察」に加筆・修正を行なったもの。子どもとの死別事例などあり。）
小児がん、難治性血液疾患	×	493.93	ホシ	2011	**マーガレットの花束　小児がん、難治性血液疾患を支えた20年の軌跡**	星　順隆／編著 （東京慈恵会医科大学教授）	親・医師	悠飛社	（東京慈恵会医科大学附属病院小児科の院内親の会「マーガレット」に所属する親による、子どもの闘病の記録（第一章、死亡例あり）と、会報『マーガレットだより』の記録）
小児がん	○	493.93	マツ	2011	**がんを生きる子　ある家族と小児がんの終わりなき闘い**	松永　正訓／著 （小児科医）	医師	講談社	2度のがん、放射線治療、そして体に刻まれた後遺症。親は、子は、くり返される試練をどう乗り越えたのか？　娘の小児がんに挑み続けた、ある家族の闘いと再生を主治医が描く。 （筋緊張性ジストロフィーを発症した女性が結婚して産んだ娘が足の横紋筋肉種となり、厳しい闘病生活を乗り越えていく様子を主治医が描いたもの。）
小児がん	○	493.93	フエ	2014	**アリシア　がんを克服した母娘からのメッセージ**	ルネA. フェスラー／著	母	幻冬舎ルネッサンス	骨のがんと診断され、闘病を始めた6歳のアリシアと母親のルネは、自分たちの近況をメールで周囲に伝え、手術や治療を通じて成長する家族の軌跡を残し…。どんな逆境においても、人生は楽しくなることを教えてくれる闘病記。

493.9375		発達障害（成人・小児を問わない）							
広汎性発達障害	○	493.9375	フク	2013	「生きづらさ」を超えて　発達障害と生きる	福井　豪／著	本人	吉備人出版	幼いころから「普通」に適応できず、高校中退、姉の自殺、名字の変更…。発達障害と向き合い、生きづらさを抱えながらもポジティブに生きる著者が、これまでの波乱に満ちた人生や、障害をもつ当事者としての思いを綴る。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	アイ	2009	ぼくは考える木　自閉症の少年詩人と探る脳のふしぎな世界	ポーシャ・アイバーセン／著（アートディレクター） 小川　敏子／訳	母	早川書房	重度の自閉症でありながら、母親の励ましのもと、驚くほど美しい詩を生み出すインドの少年ティト。彼の知性の謎とは？　人間とその脳に秘められた可能性、未知なる領域を、愛と実践で切り開く感動のノンフィクション。
広汎性発達障害	○	493.9375	アオ	2013	ハートにあっぷっぷ	青木いづみ／著	母	文芸社	待望の我が息子は重度の自閉症だった。その時から、「私」の、夫の、そして家族の奮闘が始まった…。障がいを持った息子とともに、育っていった「家族」の愛のドキュメント。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	アカ	2002	ありのままの子育て 自閉症の息子と共に1	明石　洋子／著（社会法人日本自閉症協会川崎支部支部長ほか）	母	ぶどう社	川崎市職員として働く自閉症の明石徹之と、彼を育てた母親洋子。溢れる笑顔はどこから？　どんな子育てをしたの？　徹之の誕生から小学校卒業までの成長の歩みと、地域の中で生きていけるように取り組んだ、様々な活動を紹介。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	アカ	2003	自立への子育て 自閉症の息子と共に2	明石　洋子／著（社会法人日本自閉症協会川崎支部支部長ほか）	母	ぶどう社	川崎市職員として働く自閉症の明石徹之と、彼を育てた母親洋子。ことば・トイレ・偏食・こだわり・お手伝い・お金など、生活に必要な様々な力をどうやって育て、しつけたのかを具体的に紹介する。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	アカ	2005	お仕事がんばります 自閉症の息子と共に3	明石　洋子／著（社会法人日本自閉症協会川崎支部支部長ほか）	母	ぶどう社	川崎市職員として働く自閉症の明石徹之と、彼を育てた母親洋子。就労の準備をはじめた中学時代から現在までを通して書くとともに、「地域発・当事者発の地域生活支援」ネットワークづくりの活動を含めて紹介。
発達障害（自閉症スペクトラム）	○	493.9375	アカ	2011	ちづる　娘と私の「幸せ」な人生	赤崎　久美／著（一般人）	母	新評論	重度の知的障害を持つ自閉症の娘、千鶴。その兄として悩む息子・正和。母が綴る家族の物語。ホームページ『ちづるのスケッチブック』の一部を加筆修正し、日記の抜粋と書き下ろしを加えて書籍化。 （母親による娘（自閉症・重度の知的障害あり）の成長の記録。第1章はホームページ「ちづるのスケッチブック」から抜粋し、娘の成育歴と自閉症についての加筆修正を行ったもの。第2章はブログ（日記）より抜粋。第3章は父親死亡後の後のブログと、書き下ろしで構成。）
発達障害（アスペルガー症候群・ADD傾向）	○	493.9375	アス	2011	アスペルガーですが、妻で母で社長です。 私が見つけた“人とうまくいく”30のルール	アズ直子／著（有限会社アズ社長）	本人	大和出版	（アスペルガー症候群でありADD（注意欠陥障害）の傾向ももつ本人が、社長であり、結婚15年目になる妻であり、中学生の娘の母親である日々の中で、家族や仕事関係の人々といかにしてうまくつきあえるようになったかを綴る。）

発達障害（学習障害）	○	493.9375	アヒ	2006	**13歳の冬、誰にも言えなかったこと　ある学習障害の少女の手記**	サマンサ・アビール／著（カウンセラー）	本人	春秋社	25歳なのに時計も読めないわたし。電話をかけるのも、方向や距離感をつかむのもやっと…。「計算障害」を抱えた著者が、困難と自己練磨に満ちた自らの体験世界を繊細に描き出す。
発達障害ほか	○	493.9375	アヤ	2008	**発達障害当事者研究　ゆっくりていねいにつながりたい**	綾屋　紗月／著（アスペルガー症候群、2児の母）熊谷晋一郎／著（脳性まひ、小児科医、東京大学先端科学技術センター特任講師）	本人ら	医学書院	外部からは「感覚過敏」「こだわりが強い」としか見えない発達障害の世界は、当事者にとってどのようなものなのか。「過剰」の苦しみは心ではなく身体に来ることを発見した画期的研究。（アスペルガー症候群と判明した著者が、脳性まひの共著者と、自分自身を「研究」して綴った書。）
発達障害（ADHDの傾向）	○	493.9375	アン	2014	**発達障害グレーゾーンまったり息子の成長日記　保育園から高校受験まで親子で歩んだ5000日**	アンダンテ／著（一般人）柳下記子／特別寄稿（視覚発達支援センター学習支援室室長）	母親	ダイヤモンド社	ADHDの特徴を持っているけれど、適切なサポートがあれば普通学級に通える。そんな発達障害グレーゾーンの息子またろうの、保育園から高校受験までの成長の足跡をまとめる。専門家のアドバイスも掲載。
発達障害（高機能自閉症）	○	493.9375	イス	2005	**僕の妻はエイリアン 「高機能自閉症」との不思議な結婚生活**	泉　流星／著（一般人）	本人（妻）が夫の目線で	新潮社	30代なかばにして受けた診断の結果、妻は「アスペルガー症候群」という脳の持ち主だったー。自閉者の周囲との違和感や独特の異質さを「普通のサラリーマン」である夫の視点から描き出した軽妙なノンフィクション。（高機能自閉症の妻（著者）が夫（本文では語り手「僕」として描かれる）の視点から書いた夫婦の日常生活。）
レット症候群	○	493.9375	イタ	2012	**障がいの娘、智子とともに　レット症候群**	井田　さだ子／著（NPO法人ふれあい広場ハーモニー）	母	ヒロ・コミュニケーションズ	知的障がいのある娘が教えてくれた、感謝の気持ち、生の尊さ、そして、家族の絆ー。2歳半でレット症候群と診断された娘との27年間の思いを母親が綴る。
自閉症・重度の知的障害	○	493.9375	オオ	2011	**自閉の子・太田宏介30歳　これからもよろしく**	太田　實／著（一般人）	父	花乱社	障がいをもつ子の父親が誰しも経験するとまどい、悲しみ、怒りを率直に語り、やがてアートに目覚めていく我が子に寄り添うことで、自らも大きく成長していった、“父親再生”の記。息子・太田宏介の作品も掲載。（重度の知的障害と自閉的傾向を持つ息子について父親が記したもの。息子の作品や、付録として「アート鼎談」（母、詩人で編集者の龍、造形教室主宰の松澤の対談）あり。）
発達障害（アスペルガー症候群・LD・ADHD）	○	493.9375	オキ	2012	**毎日やらかしてます。 アスペルガーで、漫画家で**	沖田×華／著（漫画家）	本人	ぶんか社	アスペルガー、学習障害、注意欠陥多動障害を持つ著者が、自身のにぎやかな毎日を漫画で紹介する。『別冊本当にあった笑える話』掲載に、描き下ろしを加えて単行本化。自閉症スペクトラム傾向を測定する質問リスト付き。
発達障害（アスペルガー症候群・LD・ADHD）	○	493.9375	オキ	2013	**ニトロちゃん　みんなと違う、発達障害の私**	沖田×華／著（漫画家）	本人	光文社	一見普通の女の子に見えるけれど、アスペルガー症候群、LD、ADHDという障害を持っていたニトロちゃん。このことを誰にも知らせないまま小学校に入学しますが…。苛酷な学校生活を涙と怒りと笑いで描くコミックエッセイ。

発達障害（自閉症）	○	493.9375	カト	2008	**ありがとう、ヘンリー　自閉症の息子とともに育った犬の物語**	ヌアラ・ガードナー／著（看護師・現在は、自閉症児の教育を支援する団体で活動）	母	早川書房	重度の自閉症の息子デールは、子犬ヘンリーとだけは奇跡的に心を通わせ始める。母親はヘンリーに希望を託し、デールを世界へ導きだす試みに乗り出したー。18年間にわたる成長の軌跡を綴った感動のノンフィクション。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	カネ	2012	**マンガ版親子アスペルガー　明るく、楽しく、前向きに。**	兼田　絢未／原作（一般人） 松島　むう／マンガ（元精神看護師のイラストレーター）	本人（当事者として、母として）	合同出版	仕事も育児もまったくうまくいかないダメ人間。自分を責めてばかりで心が安まる時がありませんでした…。アスペルガー症候群の母親による、アスペルガー症候群のふたりの息子の子育て記録をマンガで綴る。 （著者は37歳で、長男は5歳で、次男は4歳でアスペルガー症候群の診断を受ける。次男はADHDの特徴もあると指摘される。長男と次男を診療している小児科医によるコラムを挟む。）
発達障害（高機能自閉症）	○	493.9375	カラ	2000	**ずっと「普通」になりたかった。**	グニラ・ガーランド／著（一般人・スウェーデン在住） ニキ　リンコ／訳	本人	花風社	いじめられた。仲間はずれにされた。ずっと「世界」になじめなかった。大人になってわかった。私は「普通」と違う脳の持ち主だったんだって。「高機能自閉症」に悩んだ著者が「救い」を見出すまでの全記録
発達障害（自閉症）	○	493.9375	カラ	2008	**自閉症の兄とともに　きょうだいと家族の50年の物語**	ポール・カラシック／コミック（漫画家） ジュディ・カラシック／文（作家）	父母	かもがわ出版	妹弟が描く、自閉症の兄と家族の50年の歴史。兄・デイビットの心の世界を弟のポールがマンガで表現し、妹のジュディがデイビットを通して米国の自閉症者をめぐる半世紀の歩みを描く。
発達障害（診断なし）	○	493.9375	キム	2013	**息子よ、それはそれでいいのかい　発達障害未満、『グレーゾーン』の子のお話**	樹邑　亞美／著（一般人）	母	文芸社	（発達障害の傾向をもつが医師からの診断が下りなかった息子の子育てについて母親が綴る。）
広汎性発達障害	○	493.9375	クラ	2013	**ボクの彼女は発達障害　障害者カップルのドタバタ日記**	くらげ／著（一般人・進行性聴覚障害者） 寺島ヒロ／漫画（漫画家） 梅永雄二／監修（宇都宮大学教育学部特別支援教育専攻教授）	恋人	学研教育出版	化粧ができない、人の顔が覚えられない、空気が読めない、パニックを起こす…。発達障害の彼女とどう付き合う！？　障害者カップルの日常やさまざまなトラブルを彼氏の目線で描いた、笑いあり涙なし（？）のコミックエッセイ。
発達障害（ディスレクシア）	○	493.9375	コス	2009	**僕は、字が読めない。 読字障害と戦いつづけた南雲明彦の24年**	小菅　宏／著（編集者）	編集者	集英社インターナショナル	LD（学習障害）やADHD（注意欠陥・多動性障害）は「障害」なんかじゃない！3度の転校、数々の自傷行為…。家族とともに「読字障害」と向き合った若者の感動の物語。 （母による息子の闘病の記録を元に編集者が記したもの。）
発達障害（自閉症スペクトラム）	○	493.9375	コハ	2011	**パニックから見えること　ある自閉症児との出会いから**	小林　則子／著（養護学校教師）	母・教師	文芸社	（誕生・自閉症判明・幼稚園入学までの母の手記と、著者の勤務する高校の高等部に入ってからの記録。「レレさんのパニックをめぐるドタバタ劇」を、できるだけ客観的にかけるように、登場人物は著者も含めすべて仮名としている。）

発達障害（ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰ症候群・LD・ADHD・発達性協調運動障害）	○	493.9375	ササ	2009	**ADHD・アスペ系ママへんちゃんのポジティブライフ　発達障害を個性に変えて**	笹森　理絵／著 （一般人・講演活動）	本人	明石書店	（本人が、生まれてから現在までをブログ記事の形式の文章で語る。まんがの挿入あり。結婚して2児を出産、子育て中に、発達障害（ADHD、算数のLD、アスペルガー症候群、発達性強調運動障害）と診断される。長男も高機能自閉症、ADHDと診断され、次男もてんかん、ADHDの診断を受ける。第1章「へんちゃんができるまで～自分を探して」、第2章「今のへんちゃん」、第3章「へんちゃんのパートナーより」からなる。第3章は夫による妻との生活についての記述。）
発達障害	○	493.9375	ササ	2012	**家族5人違っているからおもしろい　発達障害一家、今日も元気に多動中**	笹森　史朗／著 （会社員）	夫として・父として	学研教育みらい	（妻は結婚出産後、ウツや家庭崩壊を経て、発達障害（ADHD、アスペルガー、LD、発達性協調運動障害）の診断を受ける。長男は高機能自閉症で軽度知的障害。次男はADHDでてんかん。夫であり父親である著者が、妻や子どもたちとのこれまで、日々の生活、発達障害の子を持つ父親たちへのメッセージなどを綴る。）
発達障害（自閉症スペクトラム）	○	493.9375	シイ	2009	**見えなかった発達障害　ちょっとずつ前に進んだハハとコの記**	志井戸　礼／著 （ライター、翻訳家）	母	新日本出版社	3歩すすんで、2歩さがり、自閉症への2人3脚…。自閉症スペクトラム障害の娘を持つ著者が、この十余年を客観的に振り返り綴る、ドタバタ子育て記。主治医、療育担当の保育士による解説つき。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	シタ	2010	**アスペルガー症候群だっていいじゃない　私の凸凹生活研究レポート**	しーた／著 （大学院在学中にうつ病を発病し中退。入社後うつ病で休職し、アスペルガー症候群の診断を受ける。その後復職。） 田中康雄／監修 （児童精神科医師、臨床心理士）	本人	学研教育出版	アスペルガー症候群とはどんな発達障害なのか、当事者である著者が体験などをもとに解説。苦手なことや得意なこと、困っていることへの対応策などのエピソードを紹介する。ブログ『私はアスペルガー症候群でしーた』を書籍化。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	シタ	2011	**発達障害工夫しだい支援しだい　私の凸凹生活研究レポート**	しーた／著 梅永雄二／監修 （宇都宮大学教育学部特別支援教育専攻教授、臨床心理士）	本人	学研教育出版	（30代後半になってアスペルガー症候群と診断された本人が、自身の考え方、エピソードをマンガとともに綴る。主に、発達障害の人の社会参加、自立に関する研究を専門としている梅永氏のコメントあり。巻末に、当事者と支援者の関係について、著者が梅永氏に尋ねるQ&Aあり。）
発達障害（ディスレクシア）	○	493.9375	シユ	2013	**私のディスレクシア**	フィリップ・シュルツ／著 （ピューリッツア賞受賞詩人） 藤堂　栄子／監訳 室崎　育美／訳	本人	東京書籍	ピュリツァー賞受賞詩人フィリップ・シュルツの自伝。学習障害（LD）の中核であるディスレクシア（読み書き障害）の当事者の苦悩や不安・葛藤、生涯にわたる格闘と、その中で深めてきた思索を語り尽くす。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	シン	2013	**そよ風の手紙　自閉症児りょうまとシングルファーザーの18年**	新保　浩／著 （一般社団法人そよかぜの手紙・代表理事）	父	マキノ出版	誕生から18歳になるまで、天真爛漫な自閉症児りょうまとポジティブに生きるシングルファーザーの歩みを綴る。人気ホームページ『そよ風の手紙』をもとに書籍化。 （息子が6歳のとき、マンション階下の住民からのクレームによる妻の精神的疲労が理由で離婚し父親が息子を引き取り、父親の実家で暮らすことになる）

発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	タカ	2008	**うわわ手帳と私のアスペルガー症候群　10歳の少女が綴る感性豊かな世界**	高橋　紗都／著 （当時10歳、9歳でアスペルガー症候群と診断される） 高橋　尚美／著 （一般人）	本人・母	クリエイツかもがわ	「私のような子どもたちや私のことを変と思わないで、きちんと理解、応援してほしいです」 10歳の少女がありのままを綴った、アスペルガー症候群の世界。 （当時10歳の紗都さん本人の記述を文章をそのままに整理した「うわわ手帳」、母による記述、専門家や支援者の応援メッセージから構成。）
発達障害（ADHD・アスペルガー症候群）	○	493.9375	タカ	2012	**発達障害ヘンな子と言われつづけて　いじめられてきた私のサバイバルな日々**	高橋　今日子／著 （歯科技工士・成人発達障害と歩む会「シャイニング」代表）	本人	明石書店	（本人による記録。いじめ、就業の困難とうつ病など苦しい体験を重ねる中、25歳のときに発達障害の診断を受ける。その後歯科技工士になる目標を実現し、結婚、当事者組織を立ち上げて活躍する現在まで。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	タニ	2013	**不思議なふしぎなおともだち　発達障害児の誕生から二〇歳までの成長記録と母の思い**	谷口　泰子／著 （一般人）	母	文芸社	（母親による自閉症の息子が20歳になるまでの子育ての記録。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	タメ	2014	**ぼくには数字が風景に見える**	ダニエル・タメット／著 （作家、言語学者、教師） 古屋　美登里／訳	本人	講談社	ダニエルは数字に色や感情を感じる共感覚者だが、アスペルガー症候群で人の感情が分からない。「普通になりたい」と苦悩する彼が、「人と違う」自分を認めて辿りついた生き方とは。不思議な脳と柔らかな心を持つ青年の手記。
発達障害（学習障害）	○	493.9375	トウ	2012	**DX型ディスレクシアな僕の人生「読む」「書く」は苦手だけれど**	藤堂　高直／著 （建築家）	本人	主婦の友社	（著者は現在28歳。幼少時から、中学でイギリスに渡り、大学はAAスクールに進学、建築家となるまでの本人による記録。友人や家族による寄稿が多数あり。母親はディスレクシアのためのNPO法人、エッジの代表。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	トウ	2013	**リカと3つのルール　自閉症の少女がことばを話すまで**	東条　健一／著 （元大手報道機関社会部記者・現在はコンサルティング業務など）	父	新潮社	医師の診断は「ことばの概念がありません」。娘は重度の自閉症だった。そこから様々な治療法を追い求め、ついに画期的な3つのルールに出会う…。父親である著者が、わが子がことばを得るまでの3年間を綴る。
発達障害（高機能広汎性発達障害）	○	493.9375	トマ	2013	**うちの子って発達障害！？　ただいま子育て迷走中**	トマコ／著 （イラストレーター・漫画家） 佐藤　暁／監修 （学校教育学博士）	母	学研教育出版	うちの子は、発達障害なのかもしれない…。幼稚園、小学校と、集団に入ると問題が起きてしまう息子。母は子どもに合わせて接し方を変えてみた！　親の弱さと強さが分かる、等身大のコミックエッセイ。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ナカ	2010	**ぼく、アスペルガーかもしれない。**	中田　大地／著 （出版当時、小学2年生。特別支援級に学ぶ。）	本人	花風社	どうして大勢のクラスの中で混乱してしまうのか。どうして行事がいやなのか。どんなときに大変なのか…。自閉症かもしれない自分のことを伝えるために、8歳の男の子が書いた自分自身の取扱説明書。 （一部、母や教師による記述あり。）

発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ナカ	2011	**僕は、社会（みんな）の中で生きる。 お家で、学校で、アスペルガーの僕が毎日お勉強していること**	中田　大地／著 （小学3年生でアスペルガー症候群の診断を受ける。出版当時は小学4年生）	本人	花風社	障害があったって、「幸せな大人」になれる！　アスペルガーの小学生が綴る、学校で、おうちで、大事なことを学ぶ毎日。自分らしく生きていくこと、障害があるということについて考えた、小学3年生の1年間の記録。 （一部、母による記述もあり。）
発達障害（学習障害）	○	493.9375	ナク	2012	**LDは僕のID　字が読めないことで見えてくる風景**	南雲　明彦／著 （21歳の時にLDと分かり、講演や執筆など啓発活動を行っている）	本人	中央法規出版	不登校・うつ・強迫性障害に苦しみながら、21歳で知った読字障害（ディスレクシア）という「生きづらさ」の正体。実名を公表し、啓発活動を続ける著者が、悩んできた過去を振り返りながら、障害とその支援について語る。
発達障害（自閉症スペクトラム）	×	493.9375	ナシ	2011	**ぼくたちが見た世界　自閉症者によって綴られた物語**	カムラン・ナジール／著 （ケンブリッジ大学卒業後、イギリス政府系機関にて政策アドバイザーとして活動） 神崎朗子／訳	本人ら	柏書房	（高機能自閉症である「ぼく」こと著者カムランが、かつて所属した自閉症児クラスのクラスメートを訪ねてその消息を確かめる。第1章：会話が苦手で克服のために代理的に人形を用いる[アンドレ]、第2章：男性パートナーとの恋愛にとりくむ自閉症青年「ランダル」、第3章：著者と同じく傑出した知的能力を持つ高機能自閉症の「クレイグ」、第4章：思春期ごろからてんかん、うつ、統合失調症、薬物依存を強め26歳で自殺した「エリザベス」、第5章：かつての先生たちと再会を果たす「レベッカとアイラ」。）
発達障害（自閉症スペクトラム）	○	493.9375	ニキ	2007	**自閉っ子、えっちらおっちら世を渡る**	ニキ　リンコ／著 （翻訳家）	本人	花風社	自閉が治ったわけじゃない。でも…大人になってラクになった。30代でアスペルガー障害と診断された著者が、自らの体験を踏まえ、自閉っ子が大人になる前に教わっておくと役に立つ知恵を紹介。 （本人によるエッセイ。編集者との対談を含む。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ノナ	2011	**旦那（アキラ）さんはアスペルガー　ウチのパパってなんかヘン！？**	野波　ツナ／著 （漫画家） 宮尾　益知／監修 （独立行政法人国立成長医療センターこころの診療部発達心理科）	妻	コスミック出版	本人はマイペースでも、家族は今日も嵐の中！　アスペルガー症候群の男性と結婚したマンガ家が、夫との過去のできごとを振り返り、発覚以降の生活のことや子どもたちから見たことを描きます。著者と監修者との対談なども収録。 （2児をもつ妻が、アスペルガー症候群と気づかないまま大人になった夫と、家族との生活について描く漫画。各章末に監修者による解説コラムがついている。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ノナ	2012	**旦那（アキラ）さんはアスペルガー　しあわせのさがし方**	野波　ツナ／著 （漫画家） 宮尾益知／監修 （独立行政法人国立成長医療センターこころの診療部発達心理科）	妻	コスミック出版	違っていても、みんなよい。違っているから、みんなよい…。アスペルガー症候群の男性と結婚したマンガ家が、考えたことや理解したこと、家族の近況、そしてある答えにたどりつくまでを描きます。著者と監修者との対談も収録。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ノナ	2014	**旦那（アキラ）さんはアスペルガー　4年目の自立！？**	野波　ツナ／著 （漫画家） 宮尾益知／監修 （独立行政法人国立成長医療センターこころの診療部発達心理科）	妻	コスミック出版	アスペさん夫に振り回され続けた妻。でも私たちは家族だから！　アスペルガー症候群の男性と結婚したマンガ家が、別々に暮らし始めて4年目になる夫婦のいろいろな変化や、カサンドラ症候群に陥った自身の体験を描きます。

発達障害（LD・高機能自閉症）	○	493.9375	ハツ	2011	**発達障害なんのその、それが僕の生きる道**	上野　康一／著（造船会社勤務） 上野　景子／著（LD児理解推進グループ「のびのび会」会長・自閉症スペクトラム支援士） 上野　健一／著（中学校教諭・個別支援学級担任・地毛衣装スペクトラム支援士）	本人・母・父	東京シューレ出版	不登校、高校進学、専門学校、そして就職…。発達障害を持つ青年が、北海道から沖縄まで様々な場所へ行きながら成長していく姿を両親が綴る。本人自らが日々の生活を語った手記も収録。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ハト	2012	**夫はアスペルガー症候群**	羽鳥　ことえ／著（一般人）	妻	幻冬舎ルネッサンス	夫の気持ちを汲むことだけが正しいわけではない。どれだけ苦しくても、周りに理解されなくても、話し合わなければ何も始まらない…。アスペルガー症候群の夫を持つ著者が、夫婦の苦悩と歩み寄りを描いた奮闘記。 （夫は46歳のときにアスペルガー症候群と診断された。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	ヒカ	2007	**自閉症の僕が跳びはねる理由 会話のできない中学生がつづる内なる心**	東田　直樹／著（中学生）	本人	エスコアール出版部	（自閉症で発話がほぼできなかったが、訓練により筆談が可能になり、パソコンで原稿も書けるようになった中学生の著者が、「いつも同じことを尋ねるのはなぜですか？」といった質問への一問一答形式で、不可解に思われがちな自身の行動の裏にある心のありようを綴る。自身で書いた短編小説も収録。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	ヒカ	2010	**自閉症の僕が跳びはねる理由 続**	東田　直樹／著（高校生）	本人	エスコアール出版部	こだわりはやめられませんか？　どのような援助をして欲しいですか？　2007年刊「自閉症の僕が跳びはねる理由」から3年、高校生になった著者が、自閉症について60以上の質問に答えます。 （高校3年生になった著者が、前作に引き続き、一問一答形式で自身の心の内を綴る。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	ヒカ	2013	**あるがままに自閉症です 東田直樹の見つめる世界**	東田　直樹／著	本人	エスコアール出版部	「障害があっても決して不幸にはならない」「自分にできることを一生懸命にやれば、これから先も生きていける」 自閉症の著者が18歳の時に書いていたブログ（2010年10月～2011年8月）に加筆し書籍化。
発達障害	○	493.9375	ヒラ	2014	**うちの火星人**	平岡　禎之／著	夫・父	光文社	妻、長女、長男、次女、次男が発達障がい。一般の人とかけ離れた感覚をもつ家族を「火星人」と名づけた著者が4コマ漫画を交えて綴る、失敗を明るく乗り越えるための“取扱説明書”。『沖縄タイムス』連載を書籍化。
発達障害（自閉症）	○	493.9375	フシ	2005	**あの扉のむこうへ　自閉の少女と家族、成長の物語**	藤家　寛子／著（執筆・講演活動など）	娘	花風社	「こういう風に接してもらえたらあんなに怖がらずにすんだかもしれない…」 自閉スペクトラムの作家が、自閉の子どもの心のうちを、読みやすい物語につづりました。自閉の人々と、「一般」の人々との架け橋となる一冊。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	フシ	2007	**自閉っ子は、早期診断がお好き**	藤家　寛子／著（執筆・講演活動など）	本人	花風社	診断は未来への扉を開く鍵だった。大人になってからでも遅くはない。アスペルガー症候群である著者が自閉症の早期発見と早期療育の大切さを訴える。カンチガイだらけの人生から抜け出すまでの抱腹＆感動の記録。 （20代でアスペルガー症候群の診断を受ける。）

発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	フシ	2009	**自閉っ子的心身安定生活！**	藤家　寛子／著 （執筆・講演活動など） 浅見　淳子／著 （編集者：花風社代表取締役社長）	本人	花風社	地域資源の上手な使い分け方、セルフ・エスティームを高める方法、過集中型脳みそとの付き合い方…。自閉症スペクトラムの著者が、うつ・引きこもり等の2次障害を乗り切り、健やか生活を送るコツを語る。 （編集者との対談形式。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	フシ	2012	**30歳からの社会人デビュー　アスペルガーの私、青春のトンネルを抜けてつかんだ未来**	藤家　寛子／著 （作家兼販売員）	本人	花風社	（20代前半にアスペルガー症候群の診断を受けた著者が、引きこもり生活から工夫を重ね、社会に出て働くようになる過程を綴ったもの。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ヘン	2008	**一緒にいてもひとり　アスペルガーの結婚がうまくいくために**	カトリン・ベントリー／著 （フィットネスインストラクター）	妻	東京書籍	結婚後17年を経て夫のアスペルガー症候群を知り、求め続けてきた良好な関係を手に入れた著者が、その体験から得られたさまざまなノウハウを紹介。同様の境遇にある2人の関係を改善するかもしれないヒントがここにある。
発達障害	○	493.9375	ホシ	2013	**私は発達障害のある心療内科医　「いつも生きづらさを感じている人」への処方箋**	星野　仁彦／著 （福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター所長）	本人	マキノ出版	（児童精神医学・精神薬理学・スクールカウンセリング、なかでも医師になってから38年間、一貫して「発達障害」の研究に取り組み、その過程で自身がADHDであると自ら診断を下した心療内科医が、半生の体験を語り、発達障害とその診療について、生活の工夫と周囲のサポートについてまとめる。）
発達障害ほか	×	493.9375	マキ	2012	**僕だって普通に生きたかったよ　ある自閉症児の生涯**	真木田　清彦／著 （一般人）	本人・父	七つ森書館	（重度の自閉症であった本人は急性胃拡張により35歳で死去。普通学級に通った小学校時代、福祉作業所での仕事体験、たび重なるパニックと自傷行為など、家族との日々を「死んだ本人」が振り返る形式。明記されていないが、おそらく父による執筆。入院後についての父の日記を織り交ぜて綴る。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	マツ	2003	**ぼくとクマと自閉症の仲間たち**	トーマス・A. マッキーン／著 （アメリカ自閉症協会委員） ニキ　リンコ／訳	本人	花風社	（幼い頃から困った子と言われ、もてあました親に精神障害者の施設に入れられるが、退所後に自閉症であることが分かり、自閉症の仲間のために啓発活動を続ける男性の記録。）
発達障害（自閉症）	○	493.9375	ムア	2008	**自閉症ボーイズ　ジョージ＆サム**	シャーロット・ムーア／著 （作家）	母	アスペクト	一人ひとり、違っているから面白い－。スニーカーをオーブンで焼いてしまう兄。真夜中のトランポリンが大好きな弟。ふたりの息子が自閉症だと知った日から始まる、おかしくも大変な、シングルマザーの子育て奮闘記。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ムラ	2012	**アスペルガーの館**	村上　由美／著 （言語聴覚士）	本人	講談社	（自分自身がアスペルガーとして成長してきた過程、言語聴覚士として発達障害の当事者支援をしながら働く日々、また30歳を過ぎてからアスペルガーであると判明した男性と結婚したことなど、本人が記したもの。巻末に「最後に夫の立場からひとこと」あり。）

自閉症スペクトラム	○	493.9375	モリ	2014	**変光星　ある自閉症者の少女期の回想**	森口　奈緒美／著	本人	遠見書房	孤独を愛する少女を待っていたのは、協調性を求め、画一化を進める学校だった。「変な転校生」と言われながら、友達を作ろうと努力するが…。自閉症の少女の奮闘を描く自閉症当事者による記念碑的名著。 （本書は『変光星――ある自閉症者の少女期の回想』（飛鳥新社、1996年）および同書の新版『変光星――自閉の少女に見えていた世界』（花風社、2004年）を加筆訂正のうえ文庫化したもの。）
自閉症スペクトラム	○	493.9375	モリ	2014	**平行線　ある自閉症者の青年期の回想**	森口　奈緒美／著	本人	遠見書房	高校に進学。だが、いじめは凄惨さを増してゆく。自殺企図、精神錯乱など重篤な二次障害が彼女の心を蝕み…。他者の思惑に振り回されながらも、必死に自分の居場所を求めてさまよう女性の魂の遍歴をつづった「変光星」の続編。 （本書は『平行線――ある自閉症者の青年期の回想』（ブレーン出版、2002年）を加筆訂正のうえ文庫化したもの。）
発達障害（自閉症スペクトラム）	○	493.9375	ヤハ	2011	**数字と踊るエリ　娘の自閉症をこえて**	矢幡　洋／著 （臨床心理士）	父	講談社	病床の妻、壊れゆく生活。すべてを背負って臨床心理士の父は、愛娘の障害に挑み続けたー。自閉症と診断された我が子が、家族の力で驚異的な成長をとげるまでの9年間の記録。
広汎性発達障害	○	493.9375	ヤマ	2013	**母親やめてもいいですか　娘が発達障害と診断されて…**	にしかわ　たく／絵 （漫画家） 山口　かこ／文 （ライター）	母	かもがわ出版	広汎性発達障害の娘の療育に奔走するも、わが子と心が通いあわないことに悩む「私」。娘と離れ、徐々に現実から目をそらし逃げていたことに気づくが…。娘の障害受容が出来ず、どん底に落ちた母親の再生をコミックで描く。 （広汎性発達障害の娘を産み、不倫、離婚を経験したライター自身の経験を漫画家がコミックエッセイに起こしたもの。間に「杉山登志郎先生に聞く」（ライターとの対談）を挟む。）
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ロヒ	2009	**眼を見なさい！　アスペルガーとともに生きる**	ジョン・エルダー・ロビソン／著 （一般人・アメリカで著名な作家オーガスティン・バロウズの兄） テーラー幸恵／訳	本人	東京書籍	40歳になって自分がアスペルガー症候群とわかった著者による自伝。自分の可能性と自分が変われることを信じ、今を生きていることを、あたたかくユーモラスな視点で生き生きと描写する。巻末に読書会用ガイド付き。
発達障害（アスペルガー症候群）	○	493.9375	ロヒ	2012	**変わり者でいこう　あるアスペルガー者の冒険**	ジョン・エルダー・ロビソン／著 （一般人・アメリカで著名な作家オーガスティン・バロウズの兄、自身は高級自動車の修繕会社を経営） 藤井良江／訳	本人	東京書籍	（回想録『眼を見なさい！』で、まだアスペルガー症候群の診断が存在しなかった時代に育った経験を語った著者が、自身の経験を踏まえて、人生を上手く送るためのアドバイスを語る。付録「親や先生、およびそれに等しい立場の方々へ」）
発達障害	○	493.9375	ワカ	2014	**わが子は発達障害　心に響く33編の子育て物語**	内山　登紀夫／編（精神科医） 明石　洋子／編（川崎市自閉症協会理事） 高山　恵子／編（NPO法人えじそんくらぶ代表）		ミネルヴァ書房	全国から一般公募した「発達障害をもつ子どもの子育て体験記」の受賞作品を収録。戸惑いや苦労、喜びや感動など、様々な想いを生きた文章で綴った体験記集。発達障害の相談機関や関連書籍の紹介等、役立つ情報も掲載。

493.94		小児アレルギー．奇形児など							
プラダー・ウィリー症候群	○	493.94	キホ	2013	希望をかごに詰め込んだ子供たち　プラダー・ウィリー症候群のわが子とともに	中村　昌代／編 （横浜市青少年育成協会『放課後キッズクラブ』指導員）		東京図書出版 リフレ出版（発売）	およそ15000人に1人誕生すると言われるプラダー・ウィリー症候群（PWS）の子。先のわからない子育てに悩みながら、子どもたちの成長を見つめてきた家族の手記全12編を収録する。
両眼性無眼球症ほか重複障害	○	493.94	クラ	2012	未完の贈り物　娘には目も鼻もありません	倉本　美香／著 （元国際線客室乗務員、現在はビジネスコンサルティング会社を主宰）		産経新聞出版	繰り返される顔面の大手術。入れても入れても落ちてしまう目の玉…。順風満帆の人生の中で、信じられない障害を背負って生まれた長女。異国の地で障害とともに生きる母子の8年間の壮絶記録。 （母親による娘の誕生から2011年3月11日の東日本大震災の日に8歳を迎えるまでの記録。約10年間国際線に乗務していたことと放射線の影響が、娘の先天疾患と重複障害をもたらした可能性について、原発事故への思いを含めて、最後に記載がある。）
先天性四肢欠損症	○	493.94	サノ	2012	歩き続けよう　手と足のない私にできること	佐野有美／著 藤本美郷／著 （ノンフィクション作家）	本人およびノンフィクション作家	飛鳥新社	（先天性四肢欠損症で生まれた「あみちゃん」が、誕生から高校でのチアリーディングの経験を経て就職、その後CDデビューをし講演会等で活躍するようになるまでの記録。本人によるエッセイと、ノンフィクション作家の藤本さんによる取材ノートを交互に編成。）
13トリソミー（パトー症候群）	○	493.94	マツ	2013	運命の子　トリソミー	松永　正訓／著 （小児外科医）	医師	小学館	染色体の異常・13トリソミー。目も見えず、耳も聞こえず、ミルクを飲むこともできない。そんな赤ちゃんを我が子と受け容れて…。小児外科医が綴る、障害新生児を授かった家族の歩みの物語。
493.96		NICUでの記録．未熟児など							
NICU	×	493.96	カワ	2013	ちいさなちいさなわが子を看取る　NICU「命のベッド」の現場から	川畑　恵美子／著 （TBSテレビ記者）	番組ディレクター	光文社	仮死状態で生まれ、NICU（新生児特定集中治療室）の機械に命を支えられていたかなえちゃん。こんな状態で生きていて意味はあるのか、娘は幸せなのか。悩み続けた両親の葛藤を、看取りに至るまで克明に追ったドキュメント。
未熟児（多重奇形ほか）	×	493.96	セン	2012	NICU命のものがたり	仙道　ますみ／著 （漫画家）	母	竹書房	（漫画家の母が描く娘の誕生から死までのNICUでの記録。主に漫画だが写真や文章の挿入あり。27週5日での緊急帝王切開で34cm860g真っ黒な状態で娘が誕生、重度の先天性心疾患、あばら11対の多重奇形、先天性小眼球症、網膜未発達、聾などが判明。297日で心停止、死去。その他、3回の流産の記録あり。うち1度は流産後の検査の結果、13トリソミーであったと判明。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
494		**外科学**							
494.3		**損傷**							
全身火傷	○	494.35	カロ	2012	**そして生かされた僕にできた、たった1つのこと プラス思考で奇跡を起こした少年**	ダン・カロ／著 （プロのドラマー） スティーヴ・アーウィン／著 奥野節子／訳	本人	ダイヤモンド社	指のないお前には無理だ、と笑う人がいても、決して希望を失わず、プラス思考を心がけた…。不慮の事故に全身を焼かれ、壮絶な差別や偏見と闘いながら、夢をかなえた少年の、「人に不可能はない」ことを証明した、魂の手記。 （2歳のときに自宅車庫でのガソリン爆発により、全身が焼けただれ、鼻・口・耳・指などを失くしつつも命をとりとめた少年が、ドラマーとして活躍するようになるまでの記録。）
494.5		**腫瘍．肉腫．癌（複数種のがんが同比重で扱われているもの、全身のがん、各部位に分類できないがんなど）**							
胃がん・肝臓がん	×	494.5	アサ	2010	**がんの幸せな受け入れ方**	朝日　俊彦／著 （元あさひクリニック院長）	本人	幸福の科学出版	告知された後こそ、人生で最も輝く生き方ができる－。がん告知100%の末期医療スペシャリストが、自身のがんが発覚してから亡くなる直前までの約1年間に、病状の進行や折々の心境などを綴った感動の手記。 （本人死亡）
末期がん	×	494.5	オオ	2011	**もしもあなたががんになったら 患者・家族、さくさべ坂通り診療所在宅緩和ケアチームが創り出す自分らしい生き方とは**	大岩　孝司／著 （医師：在宅緩和ケア専門の診療所を開設）	医師	晩声社	がんの末期を住み慣れた家ですごし、友と語らい、働き、旅をする普段どおりの生活…。在宅緩和ケアに携わる著者が、がんで終末期を迎えるときに、自分の人生とどう向き合えばよいのかを語る。 （医師による、末期がん患者の在宅緩和ケアのエピソード。）
がん全般	×	494.5	オノ	2012	**私（わたし）はがんで死にたい ホスピス医が決めている最期**	小野寺　時夫／著 （医師：35年以上消化器がんの外科治療に携わり、東京都多摩がん検診センター所長を経て、現在はホスピス医）	医師	メディカルトリビューン	2500人以上の末期がん患者を診てきた元がん外科医・現ホスピス医が、がん治療のこと、死を迎える場所のこと、疼痛緩和のこと、延命治療のことなど、がんになったときに必要なことを解説する。 （2500人以上の末期がん患者を診てきた医師による。自身も57歳で喉頭がんとなった。妻は2010年に、骨髄のがんの一種の形質細胞性白血病の劇症型を発症してで亡くなっており、その臨終の記述もある。）
がん全般	×	494.5	カキ	2011	**がんと人生　国立がんセンター元総長、半生を語る**	垣添　忠生／著 （日本対がん協会会長、国立がんセンター病院名誉総長）	医師	中央公論新社	医師として、がん経験者として、愛する妻をがんで亡くした者として。がん医療の第一人者が、みずからの来し方とこの国への希望を綴る。書き下ろしと『読売新聞』掲載に加筆の上、再構成して書籍化。 （がん診療に40年携わった医師による、自身の人生の記録とがんへの思い。自身も2回がん切除手術を体験、妻は3度目のがんで死亡。）
がん闘病記の研究	○	494.5	カト	2011	**生きる力の源に　がん闘病記の社会学**	門林　道子／著	社会学の研究者	青海社	（1964年から2009年までに出版された約550冊のがん闘病記の文献調査のほか、闘病記の著者・関係者へのインタビュー、ナラティブセラピーについての臨床現場での調査、医療者養成機関での教育実践についてのフィールドワークからなる社会学的な闘病記研究。巻末に調査に用いられた闘病記の著者名順の一覧がある。また、【巻末表】として一部の闘病記については内容の検証結果の詳細な表がある：「病気類型」「原発部位」「出版の型」「発病年齢」「執筆病期」「出版時（の状態）」「衝撃・回復・混沌・探究・達観（これらの関係性がどうなっているか）」「特記事項」「職業」「宗教など」の項目）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
卵巣がん・肝臓がん・肺がんなど	×	494.5	カミ	2009	死ぬという大仕事　がんと共生した半年間の記録	上坂　冬子／著 （作家）	本人	小学館	穏やかで鮮やかな「人生の幕引き」とは？　「死に方」までも自分で決めて逝きたいと願った著者・上坂冬子が、末期がんの不安、苦しみから「女の死に様」まで、語り尽くした遺作。 （本人による医師との対談を編集部がまとめた形での闘病記。本人は享年78歳で死亡。編集部による病院関係者へのインタビュー付）
がん全般	×	494.5	カン	2007	がん　患者を生きる	朝日新聞医療グループ／編	新聞記者	朝日新聞社	医師の診断・治療法は絶対か？　最先端技術・未承認薬の効果は？　余命宣告のショックからいかに立ち直るか？　だれもが悩む問題を患者や家族の体験からつづる。『朝日新聞』連載を単行本化。 （死亡事例あり）
がん全般	○	494.5	カン	2009	「がん」は患者に聞け！　有名人16人の全闘病記録	吉田　健城／編 （編集者） がんサポート編集部／編	雑誌編集部	徳間書店	がんを告知されたら、あなたはまず何を考えますか？　山田邦子、栗本薫、大橋巨泉…。読めば勇気が出る16人の優しい言葉を集める。『がんサポート』連載を加筆訂正して単行本化。 （著名人16人のがん体験。雑誌「がんサポート」の連載「私の生きる道」を加筆修正したもの。）
がん全般	○	494.5	カン	2010	がんと一緒に働こう！　必携CSRハンドブック	CSRプロジェクト／編 （【代表　桜井なおみ】2004年7月、働き盛りの37歳で乳がんと診断される。NPO法人HOPEプロジェクト理事長。キャンサー・ソリューションズ株式会社社長。）	プロジェクト団体	合同出版	（東京大学医療政策人材養成講座4期生桜井班が中心となった調査研究「がん罹患と就労」をもとに、政策提言や課題解決に積極的に取り組むプロジェクト団体がまとめたもの。がん罹患後の就労についての様々な疑問に、4コママンガ入りで、対話形式で分かりやすく回答。6章立て：「がん経験者が知っておきたい働く権利」「企業側の考え方はこう」「職場でのコミュニケーション」「保険や社会保障制度はこう使う」「体をいたわりながら働こう」「ワーキンググッズ＆生活術を大公開」）
がん全般	○	494.5	カン	2011	「がんと働く」リワークノート　Work-Life Vision with Cancer	荒木　葉子ほか／編 （NPO法人キャンサーリボンズ理事や委員をしている医師や看護師や産業カウンセラーなどで編集）	プロジェクト団体	NPO法人キャンサーリボンズ	（NPO法人キャンサーリボンズの「がんと働く」プロジェクトがまとめたもの。「リワーク編」と「セルフケア編」から成り、がんと共に暮らし働くポイントを簡潔にまとめてある。「これからの治療と仕事の見通し」スケジュール表など、一部書き込み式）
末期がん	×	494.5	クル	2012	病を癒す希望の力　医療現場で見えてきた「希望」の驚くべき治癒力	ジェローム・グループマン／著 ハーバード大学医学部教授ほか （癌治療・血液疾患・エイズ治療の第一人者） 菅靖彦／訳 （翻訳家・セラピスト・日本トランスパーソナル学会顧問） 田中淳一／訳	医師	草思社	末期がんから生還した人たちには何が起こっていたのか？　30年の臨床経験をもつ著者が、自ら直面してきた症例の数々から見えてきた「希望」と「治癒」との関係を、最新の科学データを駆使して詳細に検証する。 （30年の臨床経験を持つ著者が、自らが直面してきた症例の数々を精緻な筆致で再現しつつ、そこから見えてきた「希望」と「治癒」の関係を、最新の科学データを駆使して詳細に検証。原注も大変充実している。）
肺がん、肝臓がん	×	494.5	クロ	2009	末期ガンなのにステーキを食べ、苦しまずに逝った父　中西医結合医療の可能性を信じて	黒岩　祐治／著 （キャスター、教授、大学院講師）	息子	講談社	父に起きた奇跡は、ほんとうは奇跡ではなく理に適った必然の結果ではなかったか…。医師から見放された末期の肝臓ガンを「中西医結合医療」で見事に完治させた父の闘病記を、ジャーナリストが綴る。 （のちに父死亡）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
がん全般	○	494.5	タヘ	2013	**それでもわたしは山に登る**	田部井　淳子／著 （登山家）	本人	文芸春秋	抗がん剤の副作用で足がしびれ、自宅の階段を上ることさえままならない。だが、点滴の合間を縫って、登山家は山へ向かったー。山から学んだこと、乳がんのこと…。自らに降りかかった危機をどう乗り越えていったかを綴る。
がん全般 （治療紹介）	×	494.5	テン	2011	**がんと生きる　家族ががんになったとき医師が選ぶがん治療**	天願　勇／著 （医師）	医師	幻冬舎メディアコンサルティング	母を乳がんで亡くし、妻を子宮がんで亡くした。それでもがんは「必ず死ぬ」病気ではない。そう信じて闘い続けてきた、がんの外科専門医が選んだ、心と身体に働きかける全人的統合医療を紹介する。 （母を11歳のときに乳がんで亡くしたことで医師になったが、妻を子宮がんで亡くし、妹も乳がんに侵された著者の、がん治療と歩んだ40年をつづる。後半では「低分子フコダイン」療法について、患者の症例報告、他の医師からの寄稿（事例含む）を交えて紹介。）
がん全般	○	494.5	ヒノ	2012	**がんと暮らす人のために　がん哲学の知恵**	樋野　興夫／著 （順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）	医師	主婦の友社	がんは、人を哲学者に変える！　ひとりの病理の医師が開設した「がん哲学外来」。人々は、そこに何を求めて訪れたのか。新しい医療の形を紹介する。「末期がん、その不安と怖れがなくなる日」を大幅に改訂。 （がんに悩む患者さんと家族の方を対象に「がん哲学外来」を開いた医師が綴る「がんとの暮らし方」）
がん全般	○	494.5	ヒヨ	2010	**病気になった時に読むがん闘病記読書案内**	パラメディカ／編 （闘病記専門古書店） ライフパレット／編 （闘病記サイト）	闘病記専門書店・サイト	三省堂	本の形の闘病記だけでなく、インターネット時代のネット闘病記も含めて、お薦めの作品や古今東西闘病記事情を紹介。さらに、闘病記の魅力とは何かを探り、闘病記の探し方も指南する。
大腸がん、乳がんほか	×	494.5	ホシ	2012	**闘病記専門書店の店主が、がんになって考えたこと**	星野　史雄／著 （闘病記専門古書店「パラメディカ」店主）		産経新聞出版	妻を乳がんで亡くしたのをきっかけに闘病記専門書店の店主となり、現在、末期の大腸がんと闘う著者が、自らの闘病や闘病記探しの日々を綴るほか、妻の乳がんとの闘いを夫の視点で描く。病名別「闘病記」リストも掲載。 （妻の乳がんでの死亡後、闘病記専門古書店「パラメディカ」を開店した著者が、自身も大腸がんの宣告（ステージ4、肝臓転移あり、半年後に肺への転移）を受ける。妻の闘病から死までと、自分自身の闘病について綴り、各種闘病記も紹介。）
胃がん・食道がん・咽頭がん	○	494.5	ムラ	2013	**がんと明け暮れ　記者が綴る10年の記録**	村串　栄一／著 （新聞記者）	本人	弓立社	がんを手なずけて10年。新聞記者の著者が、がん体験のエピソード、記者物語、ジャーナリズム論などを綴る。『東京新聞』『北陸中日新聞』連載をベースに大幅に加筆・修正。2013年7月に行われた講演記録抜粋も収録。
がん全般	×	494.5	ヤナ	2009	**新・がん50人の勇気**	柳田　邦男／著 （作家）	作家によるドキュメンタリー作品	文藝春秋	迫り来る死を前に人はいかに生きるかー。昭和天皇から本田美奈子まで、がんと向き合った作家・俳優・音楽家・学者・僧侶・企業人50余名の「生と死」のかたちを綴る。最期の瞬間まで生を全うした感動のドキュメント。（死亡事例あり）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
悪性リンパ腫ほか各種がん	○	494.5	ヨサ	2012	**全身がん政治家**	与謝野　馨／著 （政治家）	医療ジャーナリストによる取材・構	文藝春秋	35年間がんと闘い続けても「心が折れない」生き方とは？　初当選翌年の39歳で、悪性リンパ腫を発症。以来、直腸、前立腺、下咽頭の4つのがんと3度の再発を乗り越えてきた政治家・与謝野馨の闘病の記録。 （39歳で「悪性リンパ腫、余命2年」の告知を受けた後、各種がんと闘病しつつ73歳を迎えた今日までの記録。医療ジャーナリスト（青木直美）による取材・構成。）
がん全般	○	494.5	ワタ	2011	**わたしだって知りたい！　親が”がん”になったとき子どもに何を伝え、どう支えるか**	制作協力：Hope Treeプロジェクトチーム／マーサ・アッシェンプレナー （【アッシェンプレナー】MDアンダーソンがんセンター症状コントロール＆緩和ケア科　プロジェクトマネージャー）	プロジェクト団体	ノバルティスファーマ	（がんになった親を持つ子どものサポートに取り組む「Hope Tree」の協力のもと、米国MDアンダーソンがんセンターのKNIT（Kids Need Information Too）とよばれるプログラムを参考に作成されたもの。ノバルティスファーマのHPでPDFをダウンロード可能） （ノバルティスファーマによる紹介文） 親のがんを子どもに伝える時、どのように、どんな内容を話すか、また子どもの年齢に合わせた対応の仕方、実際の患者さんとご家族の体験談などをご紹介しています。この冊子が、お子さんをお持ちのがん患者さんや、子育て期の患者さんと応対される医療関係者の方々にとって、コミュニケーションのヒントになれば幸いです。
がん全般	○	494.5	ワタ	2011	**わたしはどうしたらいい？　家族が”がん”になったときどのように受けとめ、支えていくか**	大西　秀樹／監修 （日本サイコオンコロジー学会代表理事・埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授）	製薬会社	ノバルティスファーマ	（家族ががんと診断された時に発生する様々な当惑や苦しみに回答する形。巻末に胃がんと診断された男性の妻と、妻の母による体験談あり。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
494.6		局所外科学							
気管切開（原因・病名不明の無呼吸発作による気管切開）	○	494.63	アオ	2012	わたし“前例”をつくります　気管切開をした声楽家の挑戦	青野　浩美／著（声楽家）	本人	クリエイツかもがわ	声楽家をめざした日々、発病、宣告、気管切開…。「前例がないから無理だ」と言われた歌をあきらめず、自身の障害と向き合い、闘い続けて見えてきたものとは。喉に穴の開いた歌姫の挑戦を綴る。（原因・病名不明で四肢が動かなくなり、その後無呼吸発作となり、気管切開した本人が、発病前・発病当事・発病後と、声楽家として挑戦する姿を綴ったもの。気管切開の手術や医療機器等についてのコラムあり。）
胃切後遺症	○	494.655	イオ	2012	胃を切った仲間たち　胃切者が語る後遺症とその克服法	升田和比古／編（医師） 健胃会／監修	医師・本人ら	桐書房	食事が満足にとれない、ダンピング症状に日夜悩む、仕事につけなくなった…。がんや腫瘍などで胃を切除し、後遺症に悩む患者の手記と、それに対する医師のコメントを収録する。（1982年に北海道にて胃を切った患者さんたちが自ら立ち上げ運営してきた「健胃会」による出版第3弾。募集した患者のお便り、手記の一つ一つに、会の発足当時からボランティアとして関わる医師がコメント。胃切除後の経過年数や、後遺症別に声をまとめており、巻末の「手記タイトル一覧」から引ける。）
頸椎損傷（事故による、下半身麻痺）	○	494.66	アマ	2013	茜色の雲の向こうへ	天野あき／著（一般人）	妻	文芸社	（落下事故による頸椎損傷で下半身麻痺となった家庭内別居状態の夫との日々を、妻が記録。）
頚椎損傷（事故による、半身不随）	○	494.66	オク	2012	いろいろあるさ生きてっからね	奥野　敦士／著（ミュージシャン・俳優）	本人	実業之日本社	（屋根の解体作業中に7メートル下のコンクリの床に転落、頚椎損傷で半身不随となった本人が、リハビリ施設での生活を始めてからツイッターでつぶやいてきた言葉に、コメントをつけて書籍化したもの。「ちょっと長いはじめに」として、冒頭にこれまでの人生についての記述がある。）
脊髄損傷（事故による、下半身麻痺）	○	494.66	オノ	2011	鉄の時代を生きて　突然、車椅子となったわが子！再起を支えた鉄鋼マン家族の固い絆	小野　正之／著（一般人）	父	学研教育出版	（父親による自分史と、交通事故で車椅子生活となった息子が、家族の支えを受けながら車椅子バスケ選手となり結婚するまでの記録。）
頚椎損傷（事故による、半身不随）	○	494.66	ササ	2012	あきらとジョニーの「めざせパラリンピック」	佐々木大輔／作（諭となるが、交通事故のため退職。障がい者水泳を始める。） 田中伸介／絵	本人の体験に基づく絵本	文芸社	（小学校の教員をしていた著者が交通事故で胸椎を損傷、胸から下が完全麻痺となり、退職するが、その後水泳を始める。この自身の体験をもとに描いた絵本。）
脊髄損傷（事故による、全身麻痺）	○	494.66	シマ-1	2011	奇跡の男	島本　敬士／著（一般人）	本人	風詠社	交通事故で全身麻痺となりながら、NPPV（非侵襲的換気療法）や懸命のリハビリにより、2年6カ月後、退院にまでこぎ着けた著者。その苦闘の日々を、かろうじて残された運動機能を駆使して綴る。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
脊髄損傷（事故による、全身麻痺）	○	494.66	シマ-2	2013	**続　奇跡の男**	島本　敬士／著（一般人）	本人	風詠社	交通事故で全身麻痺となりながら、2年6カ月後、退院にまでこぎ着けた著者が、自宅での生活、それを支える家族・看護師・ヘルパーの姿、夜ごとに見る夢などを綴る。『ヨミウリ・オンライン』掲載の日記も収録。
頸椎損傷	○	494.66	シミ	2009	**車いすの不死鳥　絶望の淵から夢を追って**	清水　哲／著（NPO法人「ホームベース」の代表）	本人	主婦と生活社	大学1年の秋、野球の試合中に相手チームの選手と激突して首の骨を折り、頚椎損傷で四肢麻痺になった。いきなりの人生暗転。だが、野球が「生きる力」をくれたー。車いす生活となって改めて感じたこと、生きていく意味を語る。
脊髄損傷（事故による）	○	494.66	ハセ	2012	**車イスが教えてくれたありがとう**	長谷川　泰三／著（カウンセラー・ブイリターン総合心理研究所所長）		あさ出版	（中学生の時の事故で脊髄損傷して車椅子生活となり、自殺未遂を繰り返し、グループセラピーやカウンセリングで救われた経験を経て自身がプロカウンセラーとなり20年の著者が綴る、様々なカウンセリングエピソード。ベストセラーとなった『命のカウンセリング』の続編。）
四肢切断（事故による両手の切断）	○	494.67	キム	2012	**キム・ホンソンという生き方　在日コリアンとして、障がい者として**	金洪仙／著（大学非常勤講師）	本人	解放出版社	（工場の機械の突然の故障で両手を切断し「1級」障害者の認定を受けた、在日コリアン2世の著者の半生記（第1章）。第2章は著者の「出産記」。第3章は「わが子の教育、国籍のこと･･･」。第4章「学生たちと向き合って」。第5章「講演での出会い」。性同一障害者との出会いと、その方本人が生誕から今までを記した手紙を含む。）
四肢切断（事故や骨肉種による肢切断の事例）	○	494.67	サト	2013	**義足ランナー　義肢装具士の奇跡の挑戦**	佐藤　次郎／著（東京新聞（中日新聞東京本社）編集委員兼論説委員）	新聞記者	東京書籍	義足だって走れるんじゃないか。走れば世界が広がるんじゃないかー。誰もが不可能だと思った「義足で走る」練習を支え、後押しをする活動をおこなう義肢装具士の臼井二美男と、義足使用者たちの感動の人間ドラマ。（新聞社所属の著者による、義肢装具士とアスリート達の挑戦を追うドキュメント。事故や骨肉腫などにより肢を切断した方々がスポーツに取り組む事例が複数出てくる。）
四肢切断（事故による右足膝下切断）	○	494.67	ヨシ	2012	**贈られた鍵　誰もが生きるために**	吉田　賢二／著（一般人）	本人	文芸社	（居眠り運転による自動車事故で右足膝下を切断し、義足となり、リハビリ後退院するまでを綴る）
四肢切断（先天性四肢障がいによる両足切断）	○	494.67	ワタ	2013	**ぼくの宝は足と友**	渡利　真／著（大阪文学学校学生）嵯峨根　望／併載	作家によるドキュメンタリー作品	編集工房ノア	1歳前後で足を切断し、両足が義足の望くん。小学校時代の様子や、自分の体験を講演する姿などを、小学校で担任教師だった著者が綴る。望くんの桃山学院大学卒業論文も収録。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
494.7		整形外科							
義足（事故による両下腿切断、東部挫創による高次脳機能障害）	○	494.72	シマ	2013	夢をあきらめない	島袋　勉／著（株式会社ラシーマ代表取締役）	本人	ごま書房新社	事故で両足を失った著者が、20ケ月に及ぶ入院生活とリハビリ、少年時代や20歳で始めた会社のこと、義足ランナーとして挑むマラソンやロードレース、家族や出会った人々のことなどを綴る。
リハビリテーション	×	494.78	イナ	2011	リハビリの心と力　かかわりが自分を変える地域を変える	稲川　利光／著（NTT東日本関東病院リハビリテーション科部長・NTT東日本関東病院脳卒中センター兼務）	理学療法士・医師	学研メディカル秀潤社	患者は医療関係者とだけでなく、他の患者や家族とのかかわりがあり、そのなかでリハビリを行なっていく。このようなかかわりの持つ意味とそこから生まれる力を、脳卒中のリハビリに取り組む医師がさまざまな事例をもとに綴る。（理学療法士から医師となった著者による、急性期から緩和期まで様々な疾患・患者のリハビリに関わった経験を綴る。事例多数。逝去までの事例もあり。）
容貌障害	○	494.79	フシ	2008	あなたは顔で差別をしますか「容貌障害」と闘った五十年	藤井　輝明／著（医学博士、看護士東京大学大学院客員研究員、日本健康医学会学術評議員）	本人	講談社	顔面に発症した病気やケガが原因で、見た目が人と異なる「容貌障害」。見た目が理由の差別や偏見と闘い続ける著者が、生い立ちと差別体験、医学部教授を目指した理由、容貌障害と決別するための取り組みなどを語る。（海綿状血管腫である本人の体験談、活動の記録と、容貌障害家族会のメンバーの手記など。）
顔面疾患・外傷	○	494.79	ミツ	2001	見つめられる顔　ユニークフェイスの体験	石井　政之／編著 藤井　輝明／編著 松本　学／編著	本人・家族ら	高文研	顔にアザや傷があることで、なぜ生きることが苦しいのか。顔にハンディを持つ人たちの苦悩と心の傷。アザ・傷のある顔で生きる困難を、16人の当事者が沈黙を破って語る。（患者たちの手記・親の手記・巻末に資料あり。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
494.8		皮膚科学. 皮膚・脂腺・毛髪・爪の疾患							
アトピー性皮膚炎	○	494.8	カマ	2013	「笑顔のわたし」でいたい　ステロイドフリー・プロトピックフリーで乗り越えたアトピー体験記	鎌田　文世／著 （一般人） 木俣　肇／監修 （木俣肇クリニック院長）	本人	平凡社	ある日突然、全身にブツブツが！　ステロイドやプロトピックを使ったけれど治らない。思いきって脱ステロイド・脱プロトピックの治療法を選ぶと…。信頼できる医師との出会いや治療の経過などを綴ったアトピー体験記。
乾癬	○	494.8	クホ	2008	かいかい日記 「乾癬」と「無言館」と「私」	窪島　誠一郎／著 （小劇場経営、「無言館」設立者）	本人	平凡社	とにかく痒い！　痒いなんてもんじゃない！　戦没画学生慰霊美術館「無言館」の建設とともに発症し、その12年の活動とともに一進一退を繰り返してきた病「乾癬」。窪島誠一郎が、深刻かつユーモラスな闘病生活をつづる。
アトピー性皮膚炎	○	494.8	サカ	2006	恋するアトピー	サカノ　ユリ／著 （ライター）	本人	新風舎	20歳を過ぎて、アトピーと診断された著者。ステロイド治療や民間療法などを模索しながら、キレイになったり壊れたりを繰り返す皮膚。皮膚の状態に毎日翻弄されながらも、たくましく人生を歩いていくひとりの女性の物語。
ハンセン病	×	494.83	サク	2013	てっちゃん ハンセン病に感謝した詩人	権　徹／著	詩人	彩流社	ハンセン病（らい病）は、てっちゃんから手を奪い、光を奪い、声帯を冒し、家族も奪った。59歳で詩作と出会い、ユーモアあふれる魂の叫びを詠い、多くの人々の心をつかんだ詩人・桜井哲夫の素顔に迫るフォト・ドキュメント。
ハンセン病	×	494.83	カタ	2012	生きるって、楽しくって　ハンセン病を生きた山内定・きみ江夫妻の愛情物語	片野田斉／撮影・文 （報道写真家）	報道写真家	クラッセ	幼少期にハンセン病と診断され、国立療養所多磨摩全生園で暮らしてきた山内定・きみ江夫妻。国の謝罪から10余年、失われた時を取り戻すかのように生きたふたりの2年半の生活に密着した記録。 （報道写真家によるハンセン病患者の夫妻への密着取材。夫の定さんが84歳で死去する際の臨終の様子も全て撮影されている。）
ハンセン病	×	494.83	ホウ	2010	いのちの初夜	北條　民雄／著 （作家）	本人（小説形式）	勉誠出版	生きることを放棄しても、なおそこには「生命だけ」の生が燦然として続くという事実ー。ハンセン病に直面した著者が、極限状況下の人間を描き、生きる意味を問う。表題作ほか「望郷歌」「吹雪の産声」を収録。 （ハンセン病を発症した作家が自身の体験に基づき書いた小説。第2回文學界賞。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
494.9		泌尿器科学．男性性器疾患							
腎臓がん	○	494.93	クマ	2013	加齢の恵み　エイジンググレース	熊谷　幸子／著 （SDA東京中央教会に所属するクリスチャン、テレビ局や広告代理店などの仕事を経て現在執筆活動中）	本人	海竜社	避けることのできなかった苦しみや悲しみが、年を重ねるごと恩寵に変えられていく―。25年前、遺書まで書いた腎臓がんから立ち直り、80歳を迎えた著者の恵みの告白。“ご褒美”の四半世紀の体験と思いを綴る。 （「癌友」の死のエピソードが含まれる）
腎盂がん	×	494.93	トミ	2013	痛いの、痛いの、飛んでいけ　自宅で末期癌の母を看取るということ	富永　のり子／著 （外資系薬品会社勤務）	娘	文芸社	（82歳の母親にステージ4の腎盂がんが見つかってから死去までの、娘による在宅介護を中心とした記録。）
腎不全	○	494.93	ハル	2013	透析とともに生きる　続	春木　繁一／著 （精神科医）	本人	メディカ出版	40年余りにわたって透析治療を続けてきた精神科医である著者が、死に直面しながら透析と向き合ってきた半生と、家族の支えについて綴る。『透析ケア』連載をまとめたもの。 （母の急死、父の脳梗塞に自責の念を覚える場面あり）
腎臓病	×	494.93	ヤマ	2011	透析生活17年　新聞記者の移植体験記	山本　晃／著 （新聞記者）	本人	岩波書店	身体の不調を紛らわしているうちに状況は悪化し、透析に踏み切らざるを得なくなった。そして17年4カ月、妻から臓器提供の申し出があった…。現役記者による臓器移植の体験記。『熊本日日新聞』連載を大幅加筆して単行本化。
前立腺がん	○	494.96	タカ	2002	癌を抱えてガンガーへ　性と死の不安と向き合う	高垣　忠一郎／著 （臨床心理学教授：高知県出身）	本人	三学出版	癌を抱えて、性や死の不安と向き合う。それは「インドの旅」と同様、僕の「異界」への旅―。癌と向き合い、体験したことや考えたことを綴る。
男性不妊症	○	494.96	ヒキ	2012	ヒキタさん！ご懐妊ですよ　男45歳・不妊治療はじめました	ヒキタ　クニオ／著 （イラストレーター・マルチメディアクリエーター・作家）	本人	光文社	精子運動率20%からの出発。45歳をすぎ思い立った子作りで男性不妊と向き合うことになった鬼才・ヒキタクニオが、5年弱の懐妊トレの末、数々の困難を乗りこえて、我が子を腕に抱くまでを描く。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
495		婦人科学．産科学							
495.4		女性性器の疾患[婦人病]							
子宮体がん	○	495.43	イス	2013	イタリアでがんになった	泉　モモ／著 （イラストレーター）	本人	PHP研究所	イタリアでがん宣告を受けた日本人イラストレーターのモモ。オープンで自由奔放なイタリアの人々とともに、日本から遠く離れた地で、がん治療を受けることを決意する！　実録・闘病コミックエッセイ。
卵巣がん	○	495.43	エヒ	2013	がんのお姫様	海老原　暁子／著 （元・立教女学院短期大学英語科教授）	本人	岩波書店	跡取り娘の立場を捨て、子連れ再婚し、短大の教員として超多忙な日々を送る著者にやってきたのは、ほぼ手遅れのがんとの宣告。どうすりゃ生きられる？　中年フェミニストのユーモアエッセイ。Webサイト連載をもとに書籍化。
子宮頸がん	○	495.43	カワ	2012	グローバルマザー　子宮頸がんと闘う女性たち	河村　裕美／著 （社会福祉士・PRプランナー）	本人	静岡新聞社	（結婚1週間後に生理痛が重いので病院に行ったところ子宮頸がんの腺がんⅠb期と判明。手術、後遺症との闘いなどの体験を本人が綴る。）
子宮頸がん	×	495.43	コム	2013	がんを身篭って　46歳で子宮頸がんになった女優の告白	古村　比呂／著 （女優）	本人	主婦と生活社	突然の子宮頸がん宣告から1年。子宮を全摘出した女優・古村比呂が、病気への偏見、予防ワクチンの実際、子宮全摘出後も続く後遺症を赤裸々に明かす。専門医によるコラムも収録。 （40歳で別居、43歳で離婚、そして46歳で子宮頸がんが発覚した本人の闘病記。がん治療専門医のコラムあり。7章は「インタビュー対談：ティール＆ホワイトリボンプロジェクト理事長・河村裕美さん　体験者同士だから話せる　偏見　後遺症　ワクチン　本当の話」。）
子宮頸がん（浸潤がん）	○	495.43	ニシ	2011	「子宮頸がん」経験したからこそ伝えたい！	仁科　亜季子／著 （女優）	本人	潮出版社	38歳の時に子宮頸がんを発症し、今なお後遺症と闘う女優・仁科亜季子が、自身の闘病生活から後遺症の苦しみまでを余すところなく綴る。子宮頸がん予防読本も収録。メモ欄あり。 （広汎子宮全摘出。巻末に鈴木光明（自治医科大学さんか婦人科学講座教授）監修による「子宮頸がん予防読本」あり。）
子宮頸がん 子宮体がん	○	495.43	ハラ	2013	原千晶39歳がんと私、明日の私、キレイな私。	原　千晶／著 （女優）	本人	光文社	30歳での初めてのがん発覚から、35歳で2度目のがん発覚と治療、手術後の精神的不安、そして社会復帰のための準備とリアルな問題まで。原千晶が綴る、子宮がん闘病記。『美ST』連載に加筆・修正して単行本化。
子宮頸がんほか（九度の転移）	○	495.43	ヒラ	2009	がん「余命半年」からの生還　患者と家族のための実践マニュアル	平塚　厚子／著 （一般人）	本人	梧桐書院	まれに見る9度の転移を過酷に繰り返しながらも、完全寛解の現在に至ったのはなぜか？　何をして、何をしなかったのか？　患者の身体と心に則した闘病のノウハウと必要な知識を紹介する。
子宮頸がん	○	495.43	マツ	2011	生きてるだけで価値がある	松田　陽子／著 （シンガーソングライター）	本人	サンマーク出版	あのとき、あきらめなくてよかった。少なくともそれだけは、自信をもって言えるー。子宮頸がんになって家庭は崩壊し、うつ病に。さまざまな宿命を乗り越えた39歳のシンガーソングライターが贈る、夢と希望の物語。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
卵巣がん	×	495.43	ヤナ	2012	柳原和子もうひとつの「遺言」がん患者に贈る言葉と知恵	柳原　和子／〔著〕 (【柳原】ノンフィクション作家) 工藤　玲子／編著 (ライター)	ライター	マーブルトロン	医療過誤、薬害エイズ訴訟等に関する作品を発表してきたノンフィクション作家・柳原和子。卵巣がんを患った彼女のがん患者たちへの言葉を中心に、生前に伝え切れなかった言葉たちを紹介。白石一文との対談も収録する。 (1997年に卵巣がんが判明、2003年に再発、2008年に亡くなられたノンフィクション作家の柳原和子の闘病を、初発から死まで、本人の著作を引用しながらライターがまとめたもの。)
乳がん	○	495.46	アン	2011	女医が乳がんを乗り越えた時乳がんです。乳房全摘です	安藤　郁／著 (医師)	本人	メタモル出版	ある日、自分の人生にいきなり「がん」という病気が割り込んできた…。女であり、母であり、医師でもある著者が、乳がんとの闘いの日々を記す。少女時代や医大生・研修医の頃の思い出、「健康」についての考えも綴る。 (本人による半生記および闘病記)
乳がん	○	495.46	オカ	2011	お母さんどうしたの？　乳腺の病気で治療されているお母さまへお子さまと一緒に読む絵本	大島　彰[ほか]／著 (独立法人国立病院機構九州がんセンター)	プロジェクト団体	アストラゼネカ	乳腺の病気の治療をしている母親が、子どもと一緒に読んで、親子一緒に病気に対処していくヒントを得られるよう作られた、絵本形式の小冊子。「財団法人笹川医学医療研究財団」の援助を受け、初版が2006年に作られた。アストラゼネカ株式会社発行。
乳がん	×	495.46	カマ	2006	がんに負けない、あきらめないコツ	鎌田　実／著 (諏訪中央病院名誉院長・東京医科歯科大学臨床教授・東海大学医学部非常勤教授)	医師	朝日新聞社	鎌田実医師による初のがん対策本。病気にならないための体つくりの秘訣、がんになった時の免疫療法、抗がんサプリメントなど、がんに負けずに生きる方法を解説。病気、そして不安や悩みに打ち勝つための心強い一冊。 (医者とがん患者の往復書簡(患者死亡)、医師と食生活教育研究家・免疫学者との対談)
乳がん	○	495.46	カワ	2009	ただいま乳房再建中！　乳がん治療のもう一つの選択肢	川野　すみれ／著 (イラストレーター) 土井　卓子／解説 (横浜医療センター)	本人	学習研究社	乳がん患者が、診断・手術・乳房再建など、自らの治療の過程をイラストに描きとめた、現在進行中の闘病絵日記。治療を担当した医師の解説も掲載する。 (本人が、乳がんが発覚してから乳房再建手術を経て乳房再建が完成するまでの経過を絵日記のような形でつづったもの。乳腺外科医による解説を併記。)
乳がん	×	495.46	コマ	2012	ママが生きた証	小松　武幸／著 (放送作家)	夫	講談社	妊娠5カ月の妻が余命1年の乳がんを宣告された。治療を優先すべきか。新しい命はどうなるか。究極の選択を迫られる夫婦。日本初の抗がん剤投与と同時に迎えた出産は？　夫が綴る14カ月の物語。 (妊娠中にステージ4の乳がん宣告を受けた妻の闘病と出産、死までを夫が綴る。)
乳がん	○	495.46	サク	2012	ある日、妻が乳がんになった　夫として、言語聴覚士として、調理師として、僕にできたこと	櫻井　正太郎／著 (言語聴覚士)	夫	エクスナレッジ	乳がんの宣告・手術、転移・再発、副作用、そして今後の生活…。「妻が目の前からいなくなってしまうかもしれない」という不安や苦しみ、ストレスや困難に屈せず、家族で結束して乗り越えてきた3年半の闘病記。 (乳がんになった妻(妻も言語聴覚士)の闘病を夫が記録したもの。(※ホルモン治療を終えた後につくった第2子を流産した記録あり)　巻末にコラム「妻が乳がんになって気づいたこと、気をつけたこと」あり。)
乳がん	○	495.46	ササ	2014	乳がんでもなんとかなるさ　独女マンガ家闘病記	佐々木　彩乃／著	本人	ぶんか社	アラフォーの独女漫画家が乳がんになる。病院選びの難しさ、同病者との出会い…。頼れる身内もいない中、右往左往しながら自らの選択で進んでいく、泣き笑いコミックエッセイ。乳がん界のスーパードクターによるQ＆Aも収録。

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
閉経後乳がん	○	495.46	サト	2010	「閉経後乳がん」を生きる	佐藤　万作子／著 （フリーライター） 尾浦　正二／監修 （和歌山県立医科大学）	本人	中央公論新社	更年期以降こそ、乳がん要注意世代です！　57歳での発病から手術、放射線治療、ホルモン剤服用まで、著者自身の体験をありのままにリポート。治療法の選択、再発を自衛する食事、不安の和らげ方など病と折り合う工夫も綴る。 （第6章に閉経後乳がん5名の体験記、序章と終章に医師とのQ&Aを収録。付録として検査から約1年間にかかった医療費の一覧表がある。）
乳がん	○	495.46	シノ	2013	懐かしい月を抱いて　私の乳房再建	篠原　敦子／著 （作家）	本人	上毛新聞社事業局出版	乳がんにより、右の乳房を全摘手術。乳房再建など無縁だと決めつけていたー。著者が経験した穿通枝皮弁による乳房再建手術と、人工乳頭作り、そしてがん闘病を通して実感した感想と記録をまとめる。
乳がん	×	495.46	ナカ	2012	歌に私（わたし）は泣くだらう　妻・河野裕子闘病の十年	永田　和宏／著 （歌人・細胞生物学者）	夫	新潮社	戦後を代表する女流歌人の妻に乳癌の宣告。一家を襲う混乱と危機…。壮絶な闘病の日々と、最期まで詠み続けた歌人・河野裕子の凛とした生き様を夫・永田和宏が綴る。『波』連載を単行本化。 （歌人であり生物細胞学者でもある夫による、女流歌人の妻の発病から臨終までの記録。妻が詠んだ歌も多数収録。）
乳がん	×	495.46	フイ	2014	恵恵　日中の海を越えた愛	恵恵／著 岡崎　健太／著 付　楠／著	本人ら	文芸春秋	結婚を誓い合った健太と恵恵。だが彼女は乳ガンに…。日中がもっとも厳しかった7年間、困難を乗り越え、懸命に生きた2人と日中ふたつの家族、その真実の物語。
若年性乳がん	○	495.46	フシ	2011	若年性乳がんになっちゃった！　ペコの闘病日記	藤谷　ペコ／著 （一般人）	本人	北海道新聞社	なんで、この世に治らない病気なんてものがあるんだろう。告知、抗がん剤、乳房全摘手術、再発転移…。34歳で乳がんになった著者が、闘病生活と日常を生々しく、ユーモラスに、時に辛口で綴る。同名ブログを書籍化。 （同名人気ブログに書き下ろしを加えて刊行。「主人公が最後に死んでしまう闘病記ではなく、読んでくれた人に生きる希望を持ってもらえる闘病記にしよう」と決意して出版されている。余命半年宣告から二年経過しての出版だが、ブログによると本人は本の発売日直後に亡くなっている）
乳がん	○	495.46	マツ	2012	明るい光のさすほうへ　乳ガンが教えてくれたこと	松下　裕子／著 （一般人）	本人	文芸社	（平成22年にステージ2bの乳がん告知を受ける。がんを宣告されたときの恐怖、抗がん剤の副作用や周囲の視線への不安などをまじえながら、告知を受けてから全治療を終えるまでの本人による記録）
若年性乳がん	○	495.46	マツ	2013	彼女失格　恋してるだとか、ガンだとか	松　さや香／著 （一般人・日台ハーフ）	本人	幻冬舎	三十路手前、プロポーズ直前、まさかの乳ガン。だからって、恋も仕事も、手加減なんかしてくれないー。若年性乳ガンに罹患した経験を綴る。『エル・オンライン』連載のブログをもとに書籍化。
乳がん	×	495.46	ヤス	2012	ママが遺したいのちのレシピ　娘・はなへー	安武　千恵／著 （音楽教諭・料理学校事務長） 安武　はな／著	本人・娘	角川書店	33歳、がんで亡くなったママが、壮絶な闘病生活のさなかに綴ったメッセージの数々。それは、最愛の我が子が強くたくましく生きてほしいという魂の叫びだったー。ママと娘の日記、そしてママのいのちのレシピを紹介。 （肝臓や肺や骨に転移した乳がんにより33歳で永眠した母親の日記からの抜粋と、その娘の日記からの抜粋、母親が娘に教えた「いのちのレシピ」の抜粋、娘の作文などで構成されている。写真多数。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
乳がん	○	495.46	ヨシ	2013	癌と闘わない－私の選択　私の人生、私が選んではいけませんか？	吉野　実香／著 （一般人）	本人	ぜんにちパブリッシング	苦しい思いをしてまで、家族のために生きなければいけないのかな？　最期ぐらい自分を優先してはいけないの？　乳癌になって約13年、余命宣告も過ぎた主婦が「治療をしないこと」を選択した思いを綴る。 （著者は1964年生、25歳で長男出産、30代広汎の頃右胸にシコリを見つけ、その後線維腫と診断されるが、44歳のときに受けた検査で乳がん末期の告知。手術を考えるも放置を決意、2011年よりブログ「癌と闘わずに。。。」スタート）
乳がん	×	495.46	ヨメ	2007	余命1ケ月の花嫁	TBS「イブニング・ファイブ」／編	テレビ番組	マガジンハウス	24歳の女性が懸命に生きた「現実」の記録。乳がんと闘い、最後まで人を愛し、人に愛され、人を支え、人に支えられた人生を生き抜いた長島千恵さんの愛といのちのメッセージを紹介。TBSで放送のドキュメンタリーを書籍化。 （TBS「イブニング・ファイブ」で報道された24歳女性の闘病ドキュメンタリー番組を書籍化、闘病の女性は死亡）
乳がん	○	495.46	ライ	2014	おさわがせシェイマスがくれた勇気　ビーグルとわたしのガン闘病記	テレサ・J. ライン／著（弁護士） 高橋　佳奈子／訳	本人	KADOKAWA	バツ2の女性弁護士が飼い始めたビーグル犬のシェイマス。わがまま勝手な行動に困っていると、シェイマスのお尻に悪性の腫瘍があることがわかる。やがて、飼い主の胸にもしこりが見つかり…。犬と飼い主のダブル・ガン闘病記。
不妊症	○	495.48	エノ	2013	ああ不妊治療　8年・1000万費やしたアラフォー漫画家の体当たりコミックエッセイ	榎本　由美／著 （漫画家）	本人	徳間書店	タイミング法も、人工授精も、顕微授精も試して、36歳から足かけ8年、使ったお金1000万円超！　アラフォー漫画家がコミックで描く、涙と笑いの実体験妊活日記。
不妊症・がん・間質性肺炎など	○	495.48	オオ	2013	不妊治療二十年	大森　美由／著 （一般人）	本人	文芸社	（23歳で結婚後すぐに卵巣のう腫で卵巣を1つ切除、その後20余年にわたり国内・海外での不妊治療に取り組み続けている著者本人による記録。不妊治療の過程で卵巣やリンパ節のがん、間質性肺炎となり、闘病中。流産や、父親の死の記録を含む。）
不妊症・乳がん	○	495.48	オレ	2012	母になるための〈知りたくもなかった〉教訓について　不妊・乳がん、私のアラフォー成長記	ペギー・オレンスタイン／著 （女性問題を中心に取り組む作家・ジャーナリスト） 和波雅子／訳	本人	現代書館	乳癌、不妊治療のつらさ、繰り返す流産、夫との齟齬…。アメリカ人女性が、30歳代半ばにして母になる選択をしたときから始まった数々のドラマを綴ったノンフィクション。
不妊症	○	495.48	スス	2011	いのちのタマゴ　くじけないもん！不妊治療奮闘記	スズキユカ／著 （漫画家・イラストレーター） 吉田淳／監修 （木場公園クリニック院長）	本人	竹書房	（32歳からの不妊治療を開始する。不妊症検査、人工授精、凍結胚の移植、顕微授精、2度の流産などを通じて、3年後に出産するまでの日々を描くコミックエッセイ）
不妊症	○	495.48	ヒラ	2006	あなたの子宮を貸してください	平井　美帆／著 （ルポライター）	ライター	講談社	代理出産、それは神への冒涜か？　女性から女性への最高のギフトか？ 日本人依頼主、産婦人科医、代理出産エージェンシー、代理母…。日米韓3元取材による、心にしみるノンフィクション。 （ルポライターによる、日米の代理出産の実情ルポタージュ。）
不妊症	○	495.48	ヤサ	2013	ベビ待ちゴコロの支え方　あきらめない妊活、31のコツ	矢沢心／著 （女優（K1世界王者　魔裟斗の妻））	本人	主婦の友社	不妊治療、流産を乗り越えての妊娠・出産。いっぱい悩んで、いっぱい泣いた…。5年待ってママになった矢沢心が打ち明ける、妊活で学んだ31のこと。夫・魔裟斗のスペシャルインタビューなども収録。 （6回目の体外受精で妊娠、出産した著者のエッセイ。付録「知っておきたい「妊活」の基本」。流産の記録あり。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
496		**眼科学・耳鼻咽喉科学**							
盲ろう（聴覚障害、知覚障害）	○	496	イク	2009	**ゆびさきの宇宙　福島智・盲ろうを生きて**	生井　久美子／著 （新聞社社員）	新聞記者	岩波書店	極限状況で、人はどう生きるのか。人間にとって本当に大切なものは何か。膨大なインタビューをもとに、世界で初めての盲ろうの大学教授、福島智の人間的魅力に迫る。
盲ろう（聴覚障害、知覚障害）	○	496	フク	2009	**さとしわかるか**	福島　令子／著 （一般人）	母	朝日新聞出版	どん底にあったときを思うと、今の姿がまるで信じられない…。9歳で失明、18歳で失聴した東大教授・福島智の母による子育て記。独自の会話法「指点字」を編み出すまでの苦難の日々をつづる。
496.3		**眼の疾患**							
視覚障害（網膜色素変性症）	○	496.34	コハ	2011	**見えないチカラ　視覚障害のフリークライマーが見つけた明日への希望**	小林　幸一郎／著 （フリークライマー）	本人	アスペクト	28歳で、失明の告知。不安と絶望に襲われ、失意の底に沈んだ日々もあった。でも今は、上を向いて生きている…。目が見えても見えなくても、大切なのは、面白く生きること。そんな著者の軌跡を綴る。 （網膜色素変性症により失明を告知されるまでの日々と、告知後の日々。）
網膜色素変性症	○	496.34	ツク	2012	**障がい者よ、街へ出よう「網膜色素変性症」で視覚をなくしても、現役プロデューサー**	津久　見圭／編 （番組プロデューサー）	本人	プラチナボックス	「網膜色素変性症」で視力を失いながらも、現役プロデューサーとして活躍する著者が、失明後のエピソードや出会った人々を回想。障がい者が希望の中で、一歩前へ踏み出すことを提案する。 （35歳あたりまでは視野の左右が残っていたが、どんどん視力が落ち、現在は全盲である著者の回想録。町を出歩き出会った人々や失敗例、命を落としかけたエピソードなど。妻は看護師。）
網膜色素変性症（全盲）	○	496.34	モハ	2013	**わが盲想**	モハメド・オマル・アブディン／著 （東京外国語大学大学院）	本人	ポプラ社	19歳で来日した盲目のスーダン人が、日本へ来たいきさつや、目で見たことのない日本を、見えない世界でどのように想像してきたかを描いた異文化体験手記。ウェブマガジン『ポプラビーチ』連載をもとに単行本化。 （網膜色素変性症による弱視で生まれ、夜盲症もあったが、12歳で視力を失う。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
496.4		視機能とその異常・検査							
視覚障害（全盲）	○	496.41	イノ	2000	生きてます、15歳。 500gで生まれた全盲の女の子	井上　美由紀／著 （盲学校生）	本人	ポプラ社	500グラムの超未熟児に生まれた著者は、視力を失いながらも生きぬき、全国盲目弁論大会で優勝。母との涙と笑いの15年。 （巻末に母によるエピローグあり。）
視覚障害（全盲）	○	496.41	イノ	2012	あれから12年、私は今… 500gで生まれた全盲のわたし	井上　美由紀／著 （マッサージ師）	本人	ポプラ社	『生きてます、15歳。』の著者・井上美由紀、27年間のドキュメント。500gという超未熟児で生まれ、未熟児網膜症を患い全盲となった著者が、マッサージ師として自立するまでを語る。
視覚障害（全盲）	○	496.41	オオ	2012	全盲の僕が弁護士になった理由 あきらめない心の鍛え方	大胡田誠／〔著〕 （弁護士） 日経トップリーダー／編	本人	日経BP社	12歳で視力を失い、苦学を経て司法試験に合格。町弁として依頼者を支え、全盲のパートナーと子育てに奮闘。どんな逆境にあっても、人生を楽しむことを諦めない著者の生き方に迫る。困難と闘う全ての人に贈る1冊。 （先天性緑内障による全盲の本人が、自身の成長過程、全盲として日本で三人目の弁護士になるまで・なってからの日々、未熟児網膜症のため生まれたときから全盲の妻との結婚、そして出産と、人生を記録する。）
弱視（球後視神経炎）	○	496.47	オオ	2013	わが半生　弱視理学療法士六十六年の記録	大道　憲一／著	本人	文芸社	指名されたら、チャンスが訪れたら、迷いは一瞬。喜んで挑戦する、それが私の人生…。14歳から治療法のない眼疾患を抱え、理学療法士として過ごした40年。北海道の理学療法士第一人者による貴重な足跡。
弱視（視神経委縮による）	○	496.41	カミ	2013	夢みるちから　仲間がいるからがんばれる	神谷　考柄／著 （一般人）	本人	新評論	弱視であることで経験する数々の試練。そのたび彼を勇気づけたのは厳しくも温かい大人たちと信じられる仲間だった…。目が悪い状態でラグビーを続けてきた著者が、多くの人に支えられ歩んできた、これまでの人生を振り返る。
視覚障害（先天性の全盲）	○	496.41	カン	2013	辻井伸行奇跡の音色　恩師との12年間	神原　一光／著 （NHKディレクター）	番組ディレクター	文芸春秋	2009年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで日本人として初めて優勝したピアニスト辻井伸行と、生まれつき目が見えない彼をピアニストの道へと導いた恩師・川上昌裕の軌跡を紹介する。ふたりの往復書簡も掲載。
ベーチェット病（全盲）	○	496.41	ヨネ	2011	盲導犬イザベルが教えてくれたこと　失明して見えた光	米田　明三／著 （一般人）	本人	北國新聞社	ベーチェット病による失明、結婚、子育て、視覚障害者3人きりの中国旅行、盲導犬イザベルとの出会いから死別まで、視力を失った著者が多くの人に支えられながら歩んだ半生を、感謝の気持ちとともに綴る。 （昭和39年に原因不明のベーチェット病を患い、約7年間の闘病の末、昭和45年に全盲となったとある。）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
496.6		耳科学．聴器疾患							
聴覚障害	○	496.6	オカ	2011	負けないで！	小笠原　恵子／著 （プロボクサー）	本人	創出版	障害者として弱い立場に甘んじてしまう悔しさや、本当は負けたくないという気持ちを紛らわせることができるのは、ボクシングだけだったー。困難を乗り越え、日本初の聴覚障害の女子プロボクサーになるまでを綴る。
聴覚障害	○	496.6	サイ	2009	筆談ホステス	斉藤　里恵／著 （銀座のクラブで人気ホステスとして働く）	本人	光文社	耳が聴こえない、青森一の不良娘が、筆談だけで、銀座No．1ホステスになった！！　難聴者としての人生や思い、家族のこと、これからの夢などを綴るほか、筆談での接客術もあわせて紹介する。 （1歳10カ月でかかった髄膜炎により聴覚障害となる。）
聴覚障害	○	496.6	ハヤ	2009	ゆずり葉　君もまた次のきみへ	早瀬憲太郎／原作 （ろう児対象の国語専門学習塾の塾長） 広鰭恵利子／文 （作家） 全日本ろうあ連盟／監修	実話の小説化	汐文社	人情あふれる東京の下町を舞台に、もうひとつの美しい言葉“手話”で織り成す、幾つもの世代をつなぐハートフル・ストーリー。全日本ろうあ連盟創立60周年記念事業映画「ゆずり葉」の脚本を元にノベライズ。 （長年ろう児のための映像教材として、数々のドラマや映画を製作してきた早瀬氏が、ろう者が医者や薬剤師になれないという欠格条項の撤廃運動について、実話をもとに作った映画を、作家が小説化したもの。）
496.9		音声・言語障害．吃音							
吃音（難発性吃音）	○	496.9	キク	2011	ボクは吃音ドクターです。　どもっていても、社会に必要とされる、医師になりたい	菊池　良和／著 （九州大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師ほか）	本人	毎日新聞社	幼少の頃から吃音に悩み、電話も外出も嫌い、友達もできなかった。誰にも相談できず「それなら自分で直す方法を見つけよう」と猛勉強の末に医学部へ…。今も吃音とつきあう、日本でただひとりの専門医がこれまでの軌跡を綴る。
吃音	○	496.9	フレ	2014	吃音を生きる　言葉と向き合う私の旅路	キャサリン・プレストン／著 辻　絵里／訳	本人	東京書籍	吃音のある英国人女性による自叙伝。吃り始めた7歳の頃から、米国に渡って吃音と共に生きることを受け入れる20代後半までの過程を、吃音当事者やその家族のインタビュー、治療法の歴史なども織り込みながら綴る。 （原タイトル：『Out　with　it』）

病名等	生存	分類		出版年	書名	著者	関係	出版社	概要
498		衛生学. 公衆衛生. 予防医学							
498.12		医療紛争. 医療過誤. 薬害							
サリドマイド障害	○	498.12	シラ	2006	典子44歳　いま、伝えたい	白井　のり子／著 （一般人）	本人	光文社	人々の心の中に、あの19歳の典子は今だに息づいていました…。両腕のないサリドマイド児として生まれた著者が、結婚、子育てを経て熊本市役所を退職し、講演活動を開始。新たな出発に際し、感謝の気持ちを込めて綴った一冊。
サリドマイド障害	○	498.12	シラ	2012	典子50歳いま、伝えたい　映画「典子は、今」あれから30年	白井　のり子／著 （一般人）	本人	光文社	（2006年刊行の『典子44歳　いま、伝えたい』（2006年刊）に加筆修正して文庫化したもの。「文庫版の出版にあたって」に、講演をテレビで見た男の子（心房中隔欠損症およびホルトオーラム症候群、言語障害など）と交流が生まれるが、数年後に亡くなったことの記載がある。）